

2024年度における環境調査の結果等について
【東京都】

2025年6月

東海旅客鉄道株式会社

目 次

	頁
1 概要	1-1- 1
1-1 本書の概要	1-1- 1
1-2 事業の実施状況	1-2- 1
2 事後調査	2-1- 1
2-1 植物	2-1- 1
2-1-1 調査項目	2-1- 1
2-1-2 調査方法	2-1- 1
2-1-3 調査地点	2-1- 1
2-1-4 調査期間	2-1- 2
2-1-5 調査結果	2-1- 3
3 モニタリング	3-1- 1
3-1 大気質	3-1- 1
3-1-1 調査項目	3-1- 1
3-1-2 調査方法	3-1- 1
3-1-3 調査地点	3-1- 1
3-1-4 調査期間	3-1- 3
3-1-5 調査結果	3-1- 4
3-2 騒音	3-2- 1
3-2-1 調査項目	3-2- 1
3-2-2 調査方法	3-2- 1
3-2-3 調査地点	3-2- 1
3-2-4 調査期間	3-2- 3
3-2-5 調査結果	3-2- 4
3-3 振動	3-3- 1
3-3-1 調査項目	3-3- 1
3-3-2 調査方法	3-3- 1
3-3-3 調査地点	3-3- 1
3-3-4 調査期間	3-3- 3
3-3-5 調査結果	3-3- 4
3-4 水質	3-4- 1
3-4-1 調査項目	3-4- 1

3-4-2	調査方法	3-4- 1
3-4-3	調査地点	3-4- 1
3-4-4	調査期間	3-4- 3
3-4-5	調査結果	3-4- 4
3-5	地下水	3-5- 1
3-5-1	調査項目	3-5- 1
3-5-2	調査方法	3-5- 1
3-5-3	調査地点	3-5- 2
3-5-4	調査期間	3-5- 8
3-5-5	調査結果	3-5-12
3-6	水資源（地下駅、非常口（都市部）及び地下変電所）	3-6- 1
3-6-1	調査項目	3-6- 1
3-6-2	調査方法	3-6- 1
3-6-3	調査地点	3-6- 2
3-6-4	調査期間	3-6- 7
3-6-5	調査結果	3-6- 8
3-7	地盤沈下	3-7- 1
3-7-1	調査項目	3-7- 1
3-7-2	調査方法	3-7- 1
3-7-3	調査地点	3-7- 1
3-7-4	調査期間	3-7- 7
3-7-5	調査結果	3-7-10
3-8	土壌汚染	3-8- 1
3-8-1	調査項目	3-8- 1
3-8-2	調査方法	3-8- 1
3-8-3	調査地点	3-8- 1
3-8-4	調査期間	3-8- 4
3-8-5	調査結果	3-8- 4

4 環境保全措置の実施状況 4-1- 1

4-1	工事の実施、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減させるための環境保全措置	4-1- 1
4-1-1	品川駅	4-1- 1
4-1-2	第一首都圏トンネル（北品川工区）	4-1- 7
4-1-3	目黒川変電所	4-1-11
4-1-4	東雪谷非常口	4-1-15
4-1-5	片平非常口	4-1-21
4-1-6	第一首都圏トンネル（小野路工区）	4-1-27

4-1-7	上小山田非常口	4-1-31
5	その他特に実施した調査	5-1- 1
5-1	希少猛禽類の営巣地の状況調査	5-1- 1
5-1-1	調査方法	5-1- 1
5-1-2	調査地点	5-1- 1
5-1-3	調査期間	5-1- 1
5-1-4	調査結果	5-1- 2
6	工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績	6-1- 1
6-1	廃棄物等	6-1- 1
6-1-1	集計項目	6-1- 1
6-1-2	集計方法	6-1- 1
6-1-3	集計対象箇所	6-1- 1
6-1-4	集計期間	6-1- 1
6-1-5	集計結果	6-1- 1
6-2	温室効果ガス	6-2- 1
6-2-1	集計項目	6-2- 1
6-2-2	集計方法	6-2- 1
6-2-3	集計対象箇所	6-2- 1
6-2-4	集計期間	6-2- 1
6-2-5	集計結果	6-2- 1
7	業務の委託先	7-1- 1
参考資料1	事業の実施状況	参1- 1
1-1	トンネルの施工状況	参1- 1
1-2	建設発生土の主な搬出先と土量	参1- 2
参考資料2	騒音・振動の簡易計測	参2- 1
参考資料3	安全・安心の取組み	参3- 1
非公開版		(別冊)

1 概要

1-1 本書の概要

本書は、「中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【東京都】平成26年8月」（以下、「評価書【東京都】」という。）及び「中央新幹線 品川・名古屋間 事後調査計画（東京都）平成26年11月」に基づいて、2024年度に実施した事後調査、モニタリング及び環境保全措置の実施状況について取りまとめ、報告するものである。

1-2 事業の実施状況

2024年度における、東京都内の事業の実施状況は、以下のとおりである。

工事の実施状況は表 1-2-1、工事の実施箇所は図 1-2-1に示すとおりである。

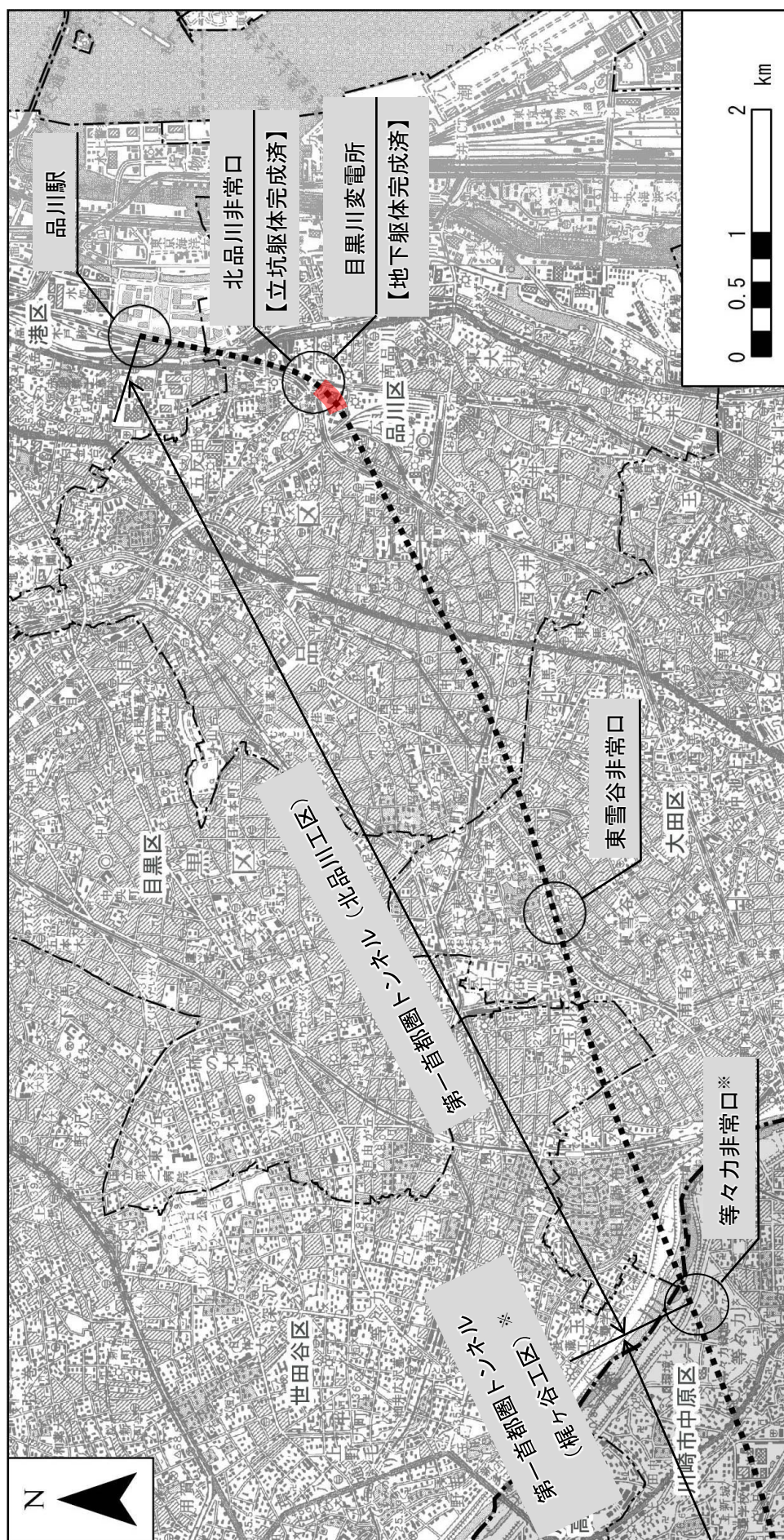
建設発生土については、UCR（株式会社 建設資源広域利用センター）の斡旋による受入先、公共事業等に活用した。

表 1-2-1 2024年度の工事の実施状況

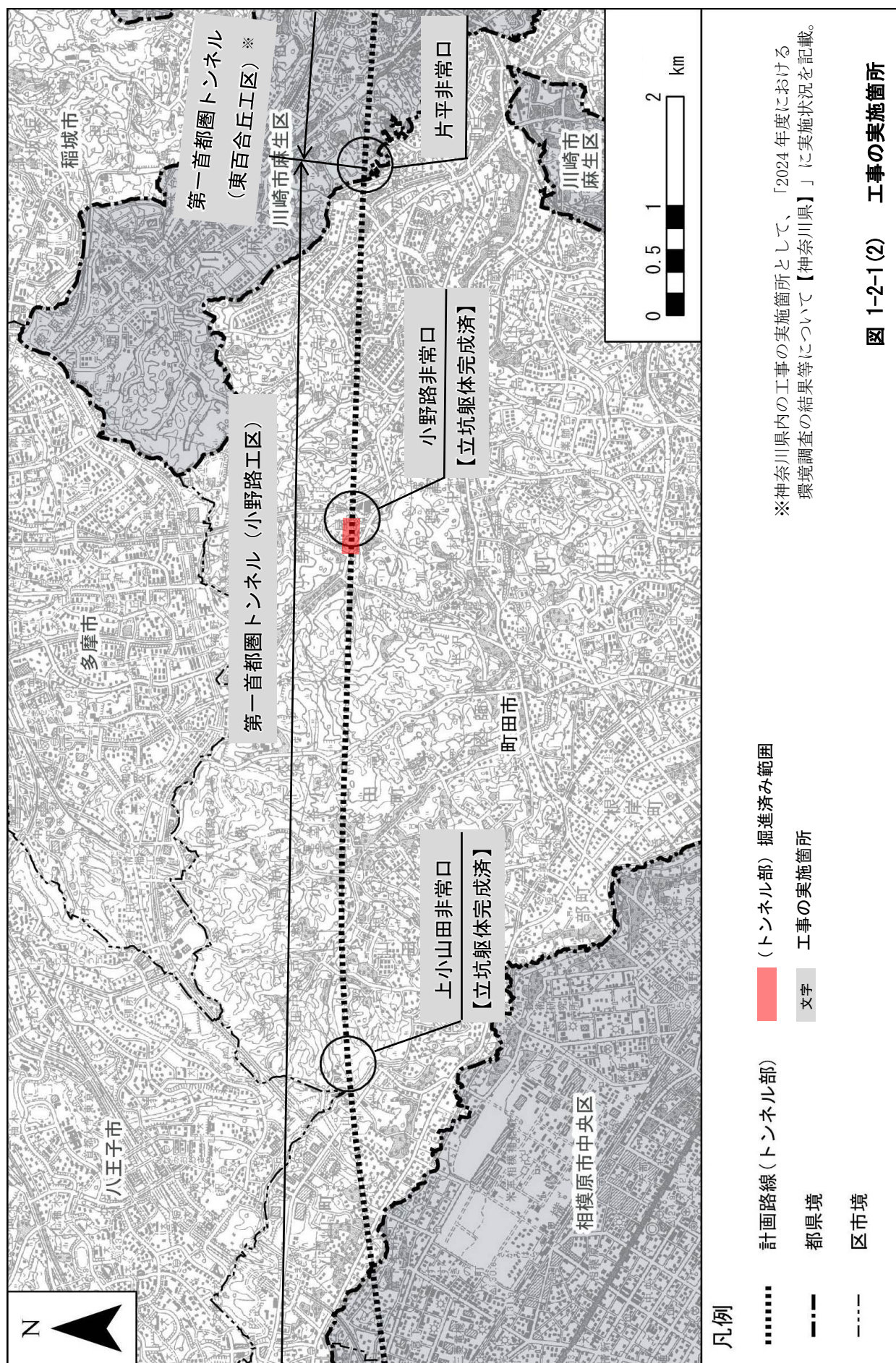
実施箇所	実施状況
品川駅	・ 地中連続壁工、掘削工等を実施した。
北品川非常口	・ 立坑が完成（2019年度）。 [第一首都圏トンネル（北品川工区）発進立坑]
第一首都圏トンネル （北品川工区）	・ 北品川非常口の立坑から調査掘進等（名古屋方）を実施した。
目黒川変電所	・ 躯体構築工等を実施し、2025年1月に地下躯体が完成した。
東雪谷非常口	・ シールド機到達準備工等を実施した。
片平非常口	・ 工事用道路が完成（2021年度）。 ・ 地中連続壁工、掘削工を実施した。
小野路非常口	・ 立坑が完成（2020年度）。 [第一首都圏トンネル（小野路工区）発進立坑]
第一首都圏トンネル （小野路工区）	・ 小野路非常口の立坑から調査掘進等（名古屋方）を実施した。
上小山田非常口※	・ 北側工事用道路が完成（2022年度）。 ・ ニューマチックケーソン工（躯体構築、掘削・沈設）等を実施し、 2024年11月に立坑が完成した。

注：各トンネル等の施工状況は、参考資料1-1に記載している。

※：上小山田非常口の工事は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構に委託している。



※神奈川県内の工事の実施箇所として、「2024年度における環境調査の結果等について【神奈川県】」に実施状況を記載。



2 事後調査

2024年度は、植物について事後調査を実施した。なお、希少種の保護の観点から、生育箇所の特定に繋がるような調査結果等の一部の資料については非公開とした。

2-1 植物

重要な種の移植の効果に不確実性があることから、2015年度、2016年度及び2021年度に移植を実施した植物の生育状況の事後調査を実施した。

2-1-1 調査項目

調査項目は、移植した植物の生育状況とした。

2-1-2 調査方法

調査方法は、現地調査（任意観察）により移植を実施した植物の生育状況を確認した。

2-1-3 調査地点

調査地点は、移植を実施した地点とし、対象は表 2-1-3-1 に示すとおりである。

表 2-1-3-1 移植を実施した植物

種名	科名	移植前の 生育地	移植の 実施箇所	移植の 実施時期
オニカナワラビ	オシダ科	町田市 小野路町	町田市 小野路町	2015年11月25日 2015年11月26日
タマノカンアオイ	ウマノスズクサ科			2015年11月25日 2015年11月26日
				2016年 7 月 5 日 2016年 7 月 6 日
オカタツナミソウ	シソ科			2015年11月25日 2015年11月26日
				2016年 7 月 5 日 2016年 7 月 6 日
ホソバヒカゲスゲ	カヤツリグサ科			2015年11月25日 2015年11月26日
キンラン	ラン科			2015年11月25日 2015年11月26日
		2016年 7 月 5 日 2016年 7 月 6 日		
		町田市 上小山田町	町田市 上小山田町	2021年 8 月18日 (再移植個体を含む)
ササバギンラン	ラン科	町田市 小野路町	町田市 小野路町	2015年11月25日 2015年11月26日
ギンラン	ラン科	町田市 上小山田町	町田市 上小山田町	2021年 8 月18日

2-1-4 調査期間

移植後の生育状況の調査時期は、表 2-1-4-1 に示すとおりである。なお、移植後の生育状況調査の調査期間は、移植作業後 1 か月以内及び移植後 1 年間は開花期と結実期 1 回ずつ、それ以降は結実期（結実が地上から確認できないものは開花期）に年 1 回実施することを基本として、専門家の技術的助言等を踏まえて設定した。

表 2-1-4-1 生育状況の現地調査の時期

種名	調査箇所	調査日
オニカナワラビ	町田市 小野路町	2024 年 6 月 24 日
タマノカンアオイ		2024 年 4 月 25 日、26 日
オカタツナミソウ		2024 年 7 月 22 日
ホソバヒカゲスゲ		2024 年 4 月 25 日
キンラン		2024 年 4 月 25 日
	町田市 上小山田町	2024 年 5 月 7 日
ササバギンラン	町田市 小野路町	2024 年 4 月 25 日
ギンラン	町田市 上小山田町	2024 年 5 月 7 日

2-1-5 調査結果

(1) オニカナワラビ

小野路町における2024年度の展葉期の確認※（6月24日）においては、展葉しており、葉裏に孢子嚢も形成されていたことから良好に生育していると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する。

確認状況を写真1に示す。

※：開花・結実する種ではないため、葉が増える展葉期に確認を実施した。



写真1 移植後の生育状況【展葉】（移植個体）

（2024年6月24日）

(2) タマノカンアオイ

小野路町における2024年度の開花期の確認（4月25日、26日）においては、移植株数よりも多い個体数が確認され、開花も見られることから、良好に生育していると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する。

確認状況を、写真2に示す。



写真2 移植後の生育状況【開花】（移植個体）

（2024年4月25日、26日）

(3) オカタツナミソウ

小野路町における2024年度の結実期の確認（7月22日）においては、株数は、移植時から減少しているが、2023年度よりは増加している。今後の調査においても、生育状況を確認する。

確認状況を写真3に示す。

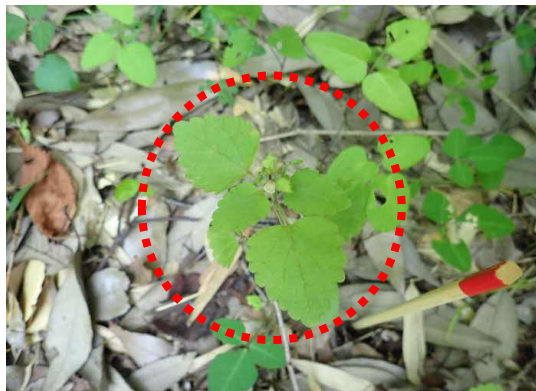


写真3 移植後の生育状況【結実】（移植個体）

（2024年7月22日）

(4) ホソバヒカゲスゲ

小野路町における2024年度の開花・結実期の確認（4月25日）において、移植株がすべて残存しており、開花・結実も見られることから、良好に生育していると考えられる。今後の調査においても、生育状況を確認する。

確認状況を写真4に示す。



写真4 移植後の生育状況【開花・結実】（移植個体）

（2024年4月25日）

(5) キンラン

小野路町における2024年度の開花期の確認（4月25日）において、2023年度と比較して、株数が減少した。今後の調査においても、生育状況を確認する。

確認状況を写真5に示す。



写真5 移植後の生育状況【開花】（移植個体）

（2024年4月25日）

上小山田町における2024年度の開花期の確認（5月7日）において、2023年度と比較して、株数が減少した。今後の調査においても、生育状況を確認する。

確認状況を写真6に示す。

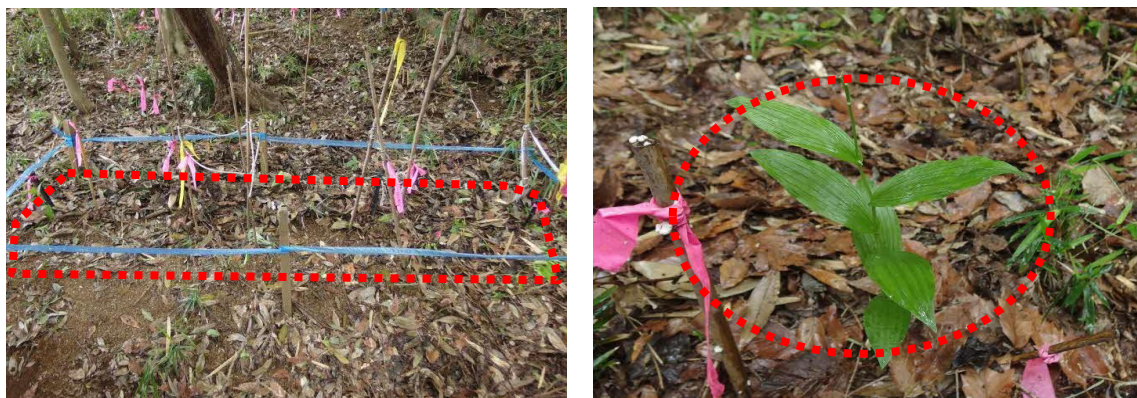


写真6 移植後の生育状況【開花】（移植個体）

（2024年5月7日）

(6) ササバギンラン

小野路町における2024年度の開花期の確認（4月25日）において、ササバギンランの株の展葉、開花は、2023年度と同様に確認されなかった。今後の調査においても、生育状況を確認する。

(7) ギンラン

上小山田町における2024年度の開花期の確認（5月7日）において、ギンランの株の展葉、開花は確認されなかった。今後の調査においても、生育状況を確認する。

3 モニタリング

2024 年度は、大気質、騒音、振動、水質、地下水、水資源（地下駅、非常口（都市部）及び地下変電所）、地盤沈下及び土壌汚染について、モニタリングを実施した。

3-1 大気質

建設機械の稼働に係る大気質について、工事最盛期におけるモニタリングを実施した。

3-1-1 調査項目

調査項目は、粉じん等とした。

3-1-2 調査方法

調査方法は、表 3-1-2-1 に示すとおりである。

表 3-1-2-1 調査方法

調査項目	調査方法	測定高さ
粉じん等 (降下ばいじん量)	「衛生試験法・注解 2020」(2020 年 3 月、日本薬学会編) に基づくダストジャー法	地上 1.5m

3-1-3 調査地点

調査地点は、表 3-1-3-1、図 3-1-3-1 及び図 3-1-3-2 に示すとおりである。

表 3-1-3-1 調査地点

調査項目	地点 ^注 番号	調査地点	区市名	所在地	実施箇所
建設機械の稼働	04	環境 04-①	町田市	能ヶ谷	片平非常口
		環境 04-②	川崎市 麻生区	片平	

※：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

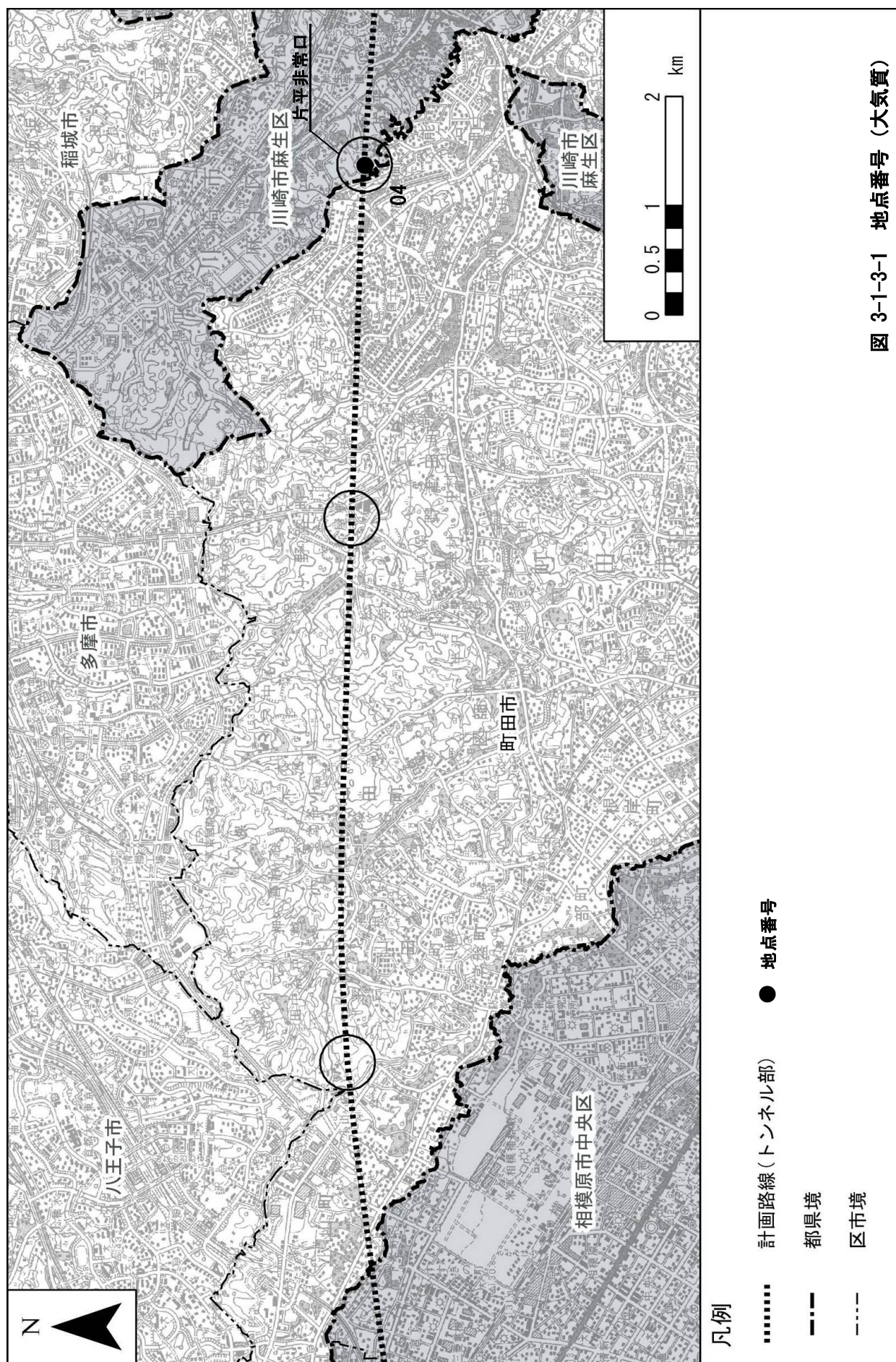


図 3-1-3-1 地点番号 (大気質)

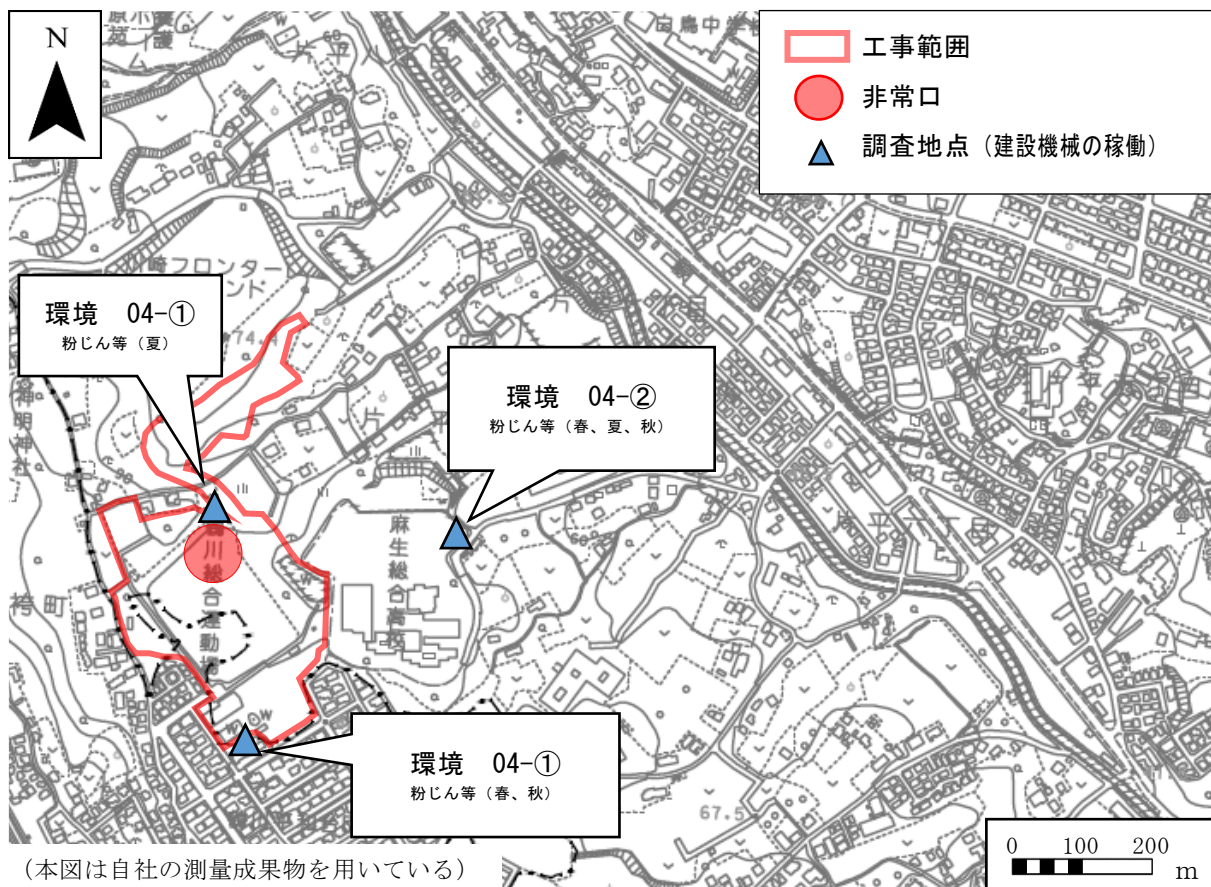


図 3-1-3-2 調査地点（大気質）（04 片平）

3-1-4 調査期間

調査期間は、工事期間全体の中で工事内容を勘案し、調査項目ごとに工事による影響が最大となる時期を選定しており、表 3-1-4-1 に示すとおりである。調査は四季調査を実施するものとし、粉じん等について各季 1 か月間連続測定を行った。なお、地点番号 04 の粉じん等については、2023 年度からの調査結果をもって四季調査が完了するため、2023 年度分を再掲する。

工事最盛期の対象工事は、評価書【東京都】の予測対象工事を基本としている。

表 3-1-4-1 調査期間

調査項目	地点番号	季節	調査期間	調査期間中の主な工事内容	備考
建設機械の稼働 (粉じん等)	04	冬季	2024 年 1 月 9 日～ 2 月 8 日	掘削工等	2023 年度調査
		春季	2024 年 4 月 15 日～ 4 月 25 日 2024 年 5 月 7 日～ 5 月 27 日※	掘削工等	今回調査
		夏季	2024 年 7 月 9 日～ 8 月 8 日	掘削工等	
		秋季	2024 年 10 月 8 日～11 月 7 日	掘削工等	

※：2024 年 4 月 26 日～ 5 月 6 日を休工としたため、調査を一時休止した。

3-1-5 調査結果

調査結果は、表 3-1-5-1 に示すとおりである。

地点番号 04 における降下ばいじん量については、地点番号 04 で最大 10.3 t /km²/月であった。

表 3-1-5-1 調査結果（降下ばいじん量）※1

地点 番号	調査地点	春季	夏季	秋季	冬季	指標値※2
		t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	t/km ² /月	
04	環境 04-①	4.8	3.4	3.5	4.7	20t/km ² /月
	環境 04-②	10.3	4.4	5.8	6.0	

※1：調査結果は、バックグラウンド濃度と建設機械の稼働による寄与分の合計となる。

※2：スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標 20t/km²/月（「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」（平成2年7月3日、環大自84号））を、環境を保全するうえでの降下ばいじん量の目安とした。

なお、評価書【東京都】では、建設機械の稼働による寄与分については、上記指標値から降下ばいじん量の比較的高い地域の値である 10t/km²/月（1993 年～1997 年の全国の一般環境大気測定局における降下ばいじん量データの上位 2%除外値）を差し引いた 10t/km²/月を、整合を図るべき基準等の参考値とした。

3-2 騒音

建設機械の稼働に係る騒音について、工事最盛期におけるモニタリングを実施した。

3-2-1 調査項目

調査項目は、建設機械の稼働に係る騒音（騒音レベルの 90%レンジの上端値： L_{A5} ）とした。

3-2-2 調査方法

調査方法は、表 3-2-2-1 に示すとおりである。

表 3-2-2-1 調査方法

調査項目		調査方法	測定高さ
建設機械の稼働に係る騒音	90%レンジ 上端値(L_{A5})	環境騒音の表示・測定方法 (JIS Z 8731)	地上 1.2m

3-2-3 調査地点

調査地点は、表 3-2-3-1、図 3-2-3-1 及び図 3-2-3-2 に示すとおりである。

表 3-2-3-1 調査地点

調査項目	地点※ 番号	区市名	所在地	実施箇所
建設機械の稼働に係る騒音	04	町田市	能ヶ谷	片平非常口

※：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

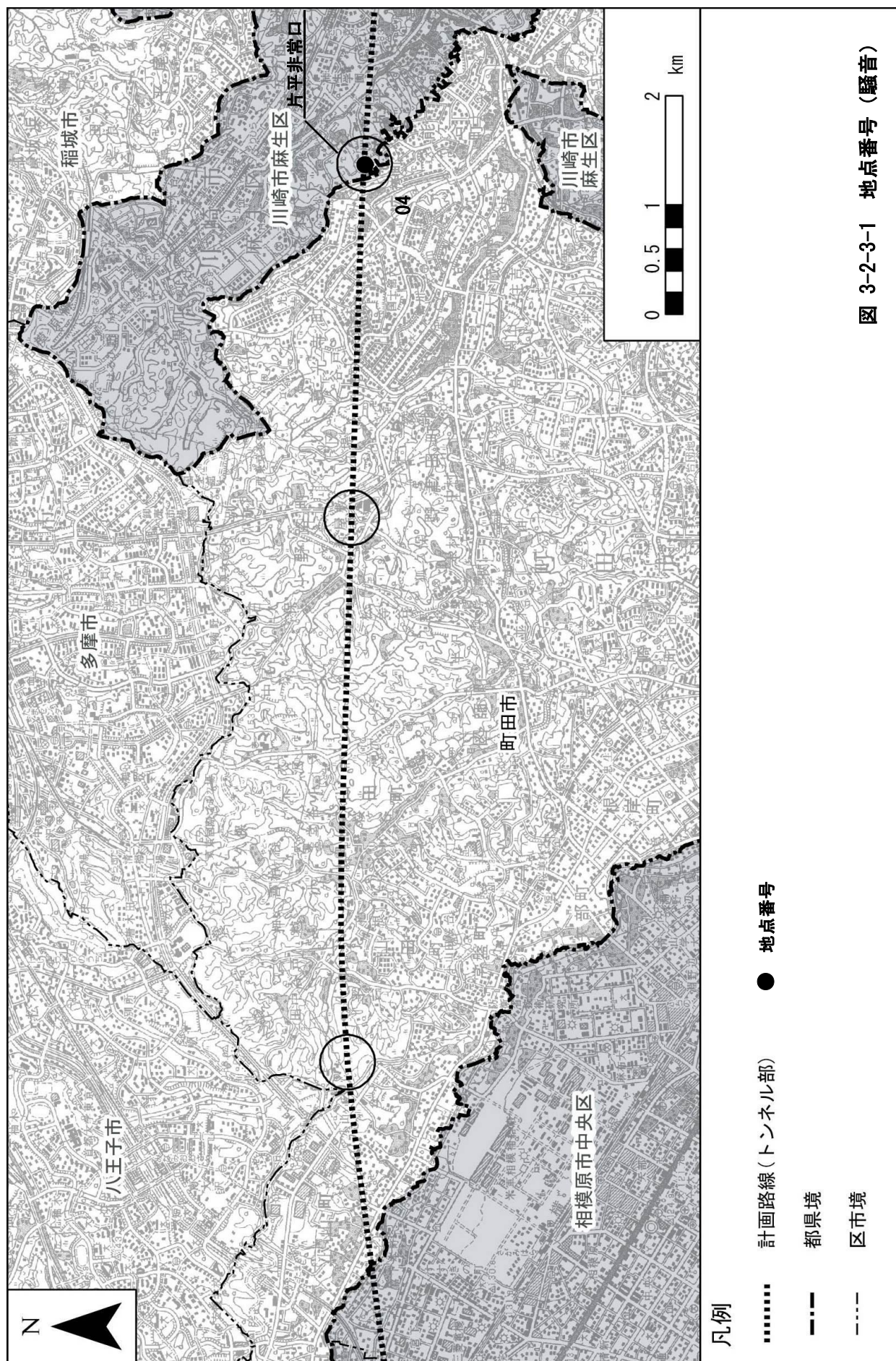


图 3-2-3-1 地点番号(驛音)

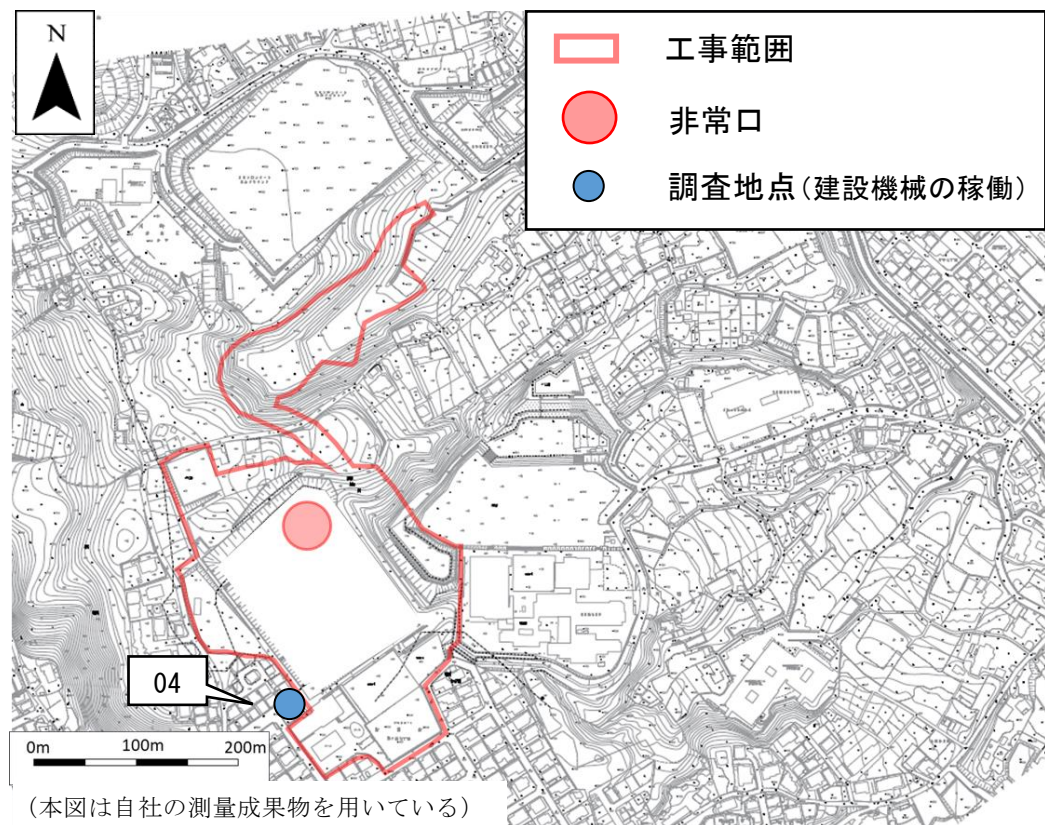


図 3-2-3-2 調査地点（騒音）（04 片平）

3-2-4 調査期間

調査期間は、工事期間全体の中で工事内容を勘案し、工事による騒音の影響が最大となる時期を選定しており、表 3-2-4-1 に示すとおりである。なお、工事最盛期の対象工事は、評価書【東京都】の予測対象工事を基本としている。

表 3-2-4-1 調査期間

調査項目	地点番号	調査日	調査期間中の主な工事内容	調査時間帯
建設機械の稼働に係る騒音	04	2024 年 5 月 22 日（水）	掘削工等	8：00～18：00

3-2-5 調査結果

調査結果は、表 3-2-5-1 に示すとおりである。

建設機械の稼働に係る騒音については、「騒音規制法」に定める「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和 43 年 11 月 27 日、厚生省・建設省告示第 1 号）」並びに各地方公共団体の条例により定められる基準に対し、いずれも適合していた。

表 3-2-5-1 調査結果（建設機械の稼働に係る騒音）

調査項目	地点 番号	調査結果（dB）※ ¹	規制基準（dB）※ ²	
		L _{A5}	指定建設作業	特定建設作業
	04	52	80	85

※ 1：調査結果は騒音レベル L_{A5} が、調査の時間帯で最大となった値を示す。

※ 2：規制基準

指定建設作業：「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例施行規則」（平成 13 年 3 月 9 日、東京都規則第 34 号）指定建設作業に適用する勧告基準

特定建設作業：「特定建設作業に伴って発生する騒音の規制に関する基準」（昭和 43 年 11 月 27 日、厚生省・建設省告示第 1 号）

3-3 振動

建設機械の稼働に係る振動について、工事最盛期におけるモニタリングを実施した。

3-3-1 調査項目

調査項目は、建設機械の稼働に係る振動（振動レベルの 80%レンジの上端値： L_{10} ）とした。

3-3-2 調査方法

調査方法は、表 3-3-2-1 に示すとおりである。

表 3-3-2-1 調査方法

調査項目		調査方法	測定高さ
建設機械の稼働に係る振動	80%レンジ 上端値 (L_{10})	振動レベル測定方法 (JIS Z 8735)	地表面

3-3-3 調査地点

調査地点は、表 3-3-3-1、図 3-3-3-1 及び図 3-3-3-2 に示すとおりである。

表 3-3-3-1 調査地点

調査項目	地点※ 番号	区市名	所在地	実施箇所
建設機械の稼働に係る振動	04	町田市	能ヶ谷	片平非常口

※：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

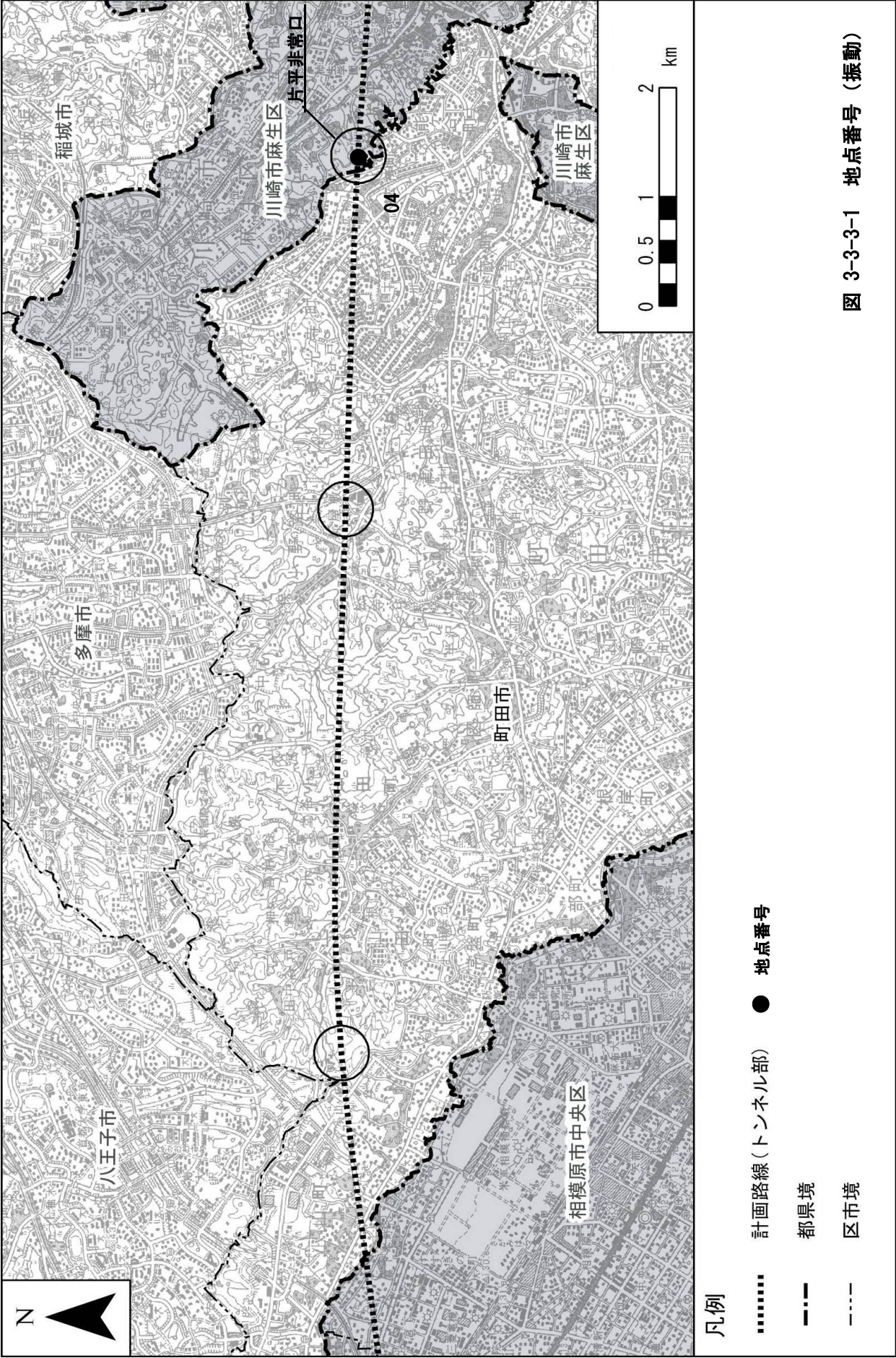


図 3-3-3-1 地点番号 (振動)

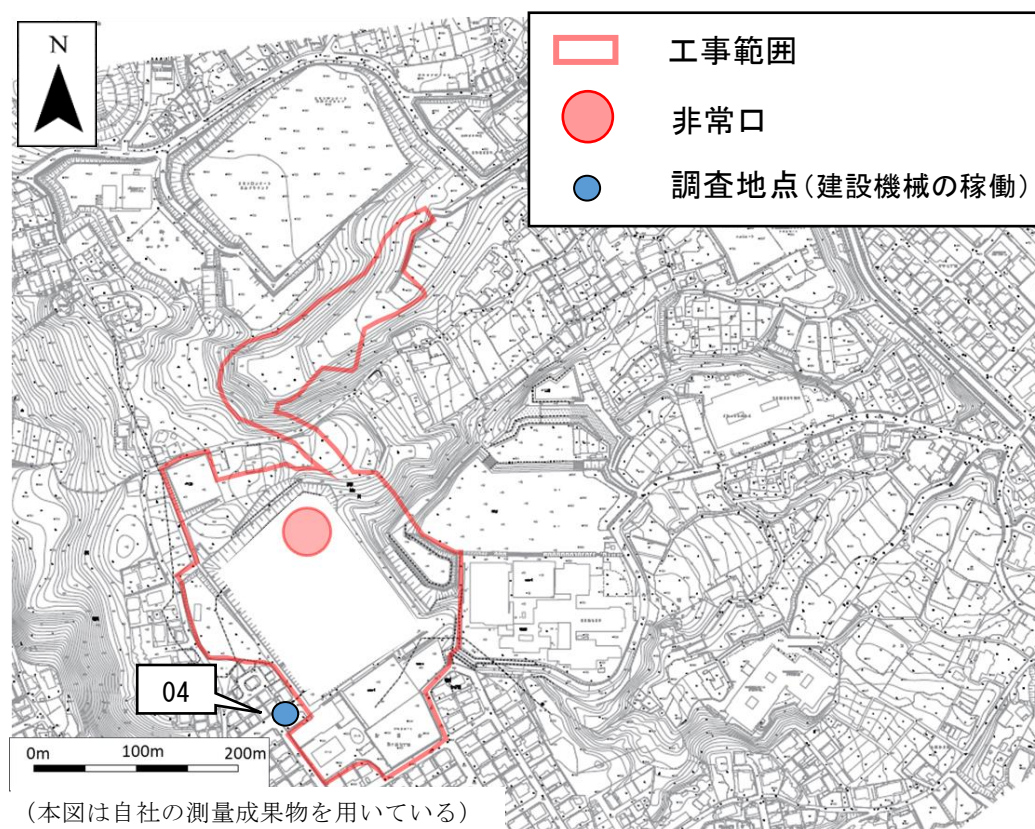


図 3-3-3-2 調査地点（振動）（04 片平）

3-3-4 調査期間

調査期間は、工事期間全体の中で工事内容を勘案し、工事による振動の影響が最大となる時期を選定しており、表 3-3-4-1 に示すとおりである。なお、工事最盛期の対象工事は、評価書【東京都】の予測対象工事を基本としている。

表 3-3-4-1 調査期間

調査項目	地点番号	調査日	調査期間中の主な工事内容	調査時間帯
建設機械の稼働に係る振動	04	2024 年 5 月 22 日（水）	掘削工等	8：00～18：00

3-3-5 調査結果

調査結果は、表 3-3-5-1 に示すとおりである。

建設機械の稼働に係る振動については、「振動規制法施行規則」（昭和 51 年、総理府令第 58 号）に定める「特定建設作業の規制に関する基準」並びに各地方公共団体の条例により定められる基準に対し、いずれも適合していた。

表 3-3-5-1 調査結果（建設機械の稼働に係る振動）

調査項目	地点 番号	調査結果（dB）※ ¹	規制基準（dB）※ ²	
		L ₁₀	指定建設作業	特定建設作業
	04	44	70	75

※¹：調査結果は振動レベル L₁₀ が、調査の時間帯で最大となった値を示す。

※²：規制基準

指定建設作業：「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例施行規則」（平成 13 年 3 月 9 日、東京都規則第 34 号）指定建設作業に適用する勧告基準

特定建設作業：「振動規制法施行規則」（昭和 51 年、総理府令第 58 号）特定建設作業の規制に関する基準

3-4 水質

公共用水域（河川）の水質について、工事中のモニタリングを実施した。

3-4-1 調査項目

調査項目は、浮遊物質量（SS）、水温、水素イオン濃度（pH）及び自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）の状況とした。

3-4-2 調査方法

調査方法は、表 3-4-2-1 に示すとおりである。

表 3-4-2-1 調査方法

調査項目		調査方法
浮遊物質量（SS）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年 12 月 28 日、環境庁告示第 59 号）に定める測定方法
水温		「地下水調査および観測指針（案）」（1993 年 3 月、建設省河川局監修）に定める測定方法
水素イオン濃度（pH）		「水質汚濁に係る環境基準について」（昭和 46 年 12 月 28 日、環境庁告示第 59 号）に定める測定方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023 年版）」（令和 5 年 3 月、建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
	ほう素	

3-4-3 調査地点

調査地点は、表 3-4-3-1 及び図 3-4-3-1 に示すとおりである。

表 3-4-3-1 調査地点

地点※ 番号	区市名	水系	対象河川	実施箇所	調査項目
05	町田市	鶴見川	小野路川	第一首都圏トンネル （小野路工区）	浮遊物質量（SS）、水温、 水素イオン濃度（pH）、 自然由来の重金属等
06			平川	上小山田非常口	

※：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

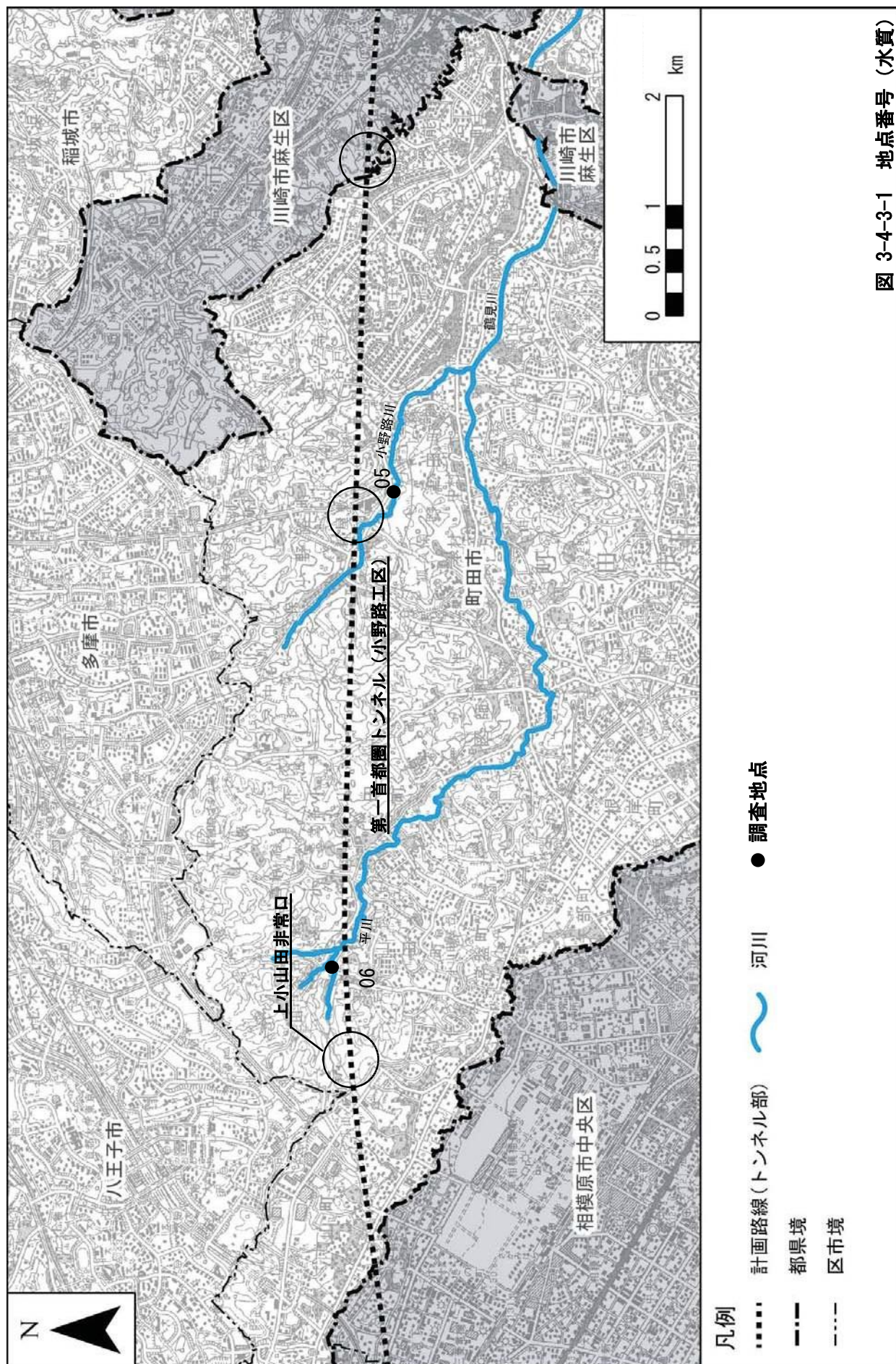


図 3-4-3-1 地点番号 (水質)

3-4-4 調査期間

調査期間は、表 3-4-4-1 に示すとおりである。

表 3-4-4-1 調査期間

地点 番号	対象河川	実施時期の種別	調査日	調査頻度
05	小野路川	工事中	豊水期：2024 年 8 月 19 日 低水期：2025 年 1 月 10 日	年 2 回
06	平川	工事中	豊水期：2024 年 8 月 19 日	1 回※

※：地点番号 06 においては、2024 年 11 月に工事が完了しているため低水期の調査は実施していない。

3-4-5 調査結果

調査結果は、表 3-4-5-1 に示すとおりである。すべての調査地点において、各項目とも環境基準等に適合していた。

表 3-4-5-1 調査結果

地点番号		05	06	環境基準等※ ²
対象河川		小野路川	平川	
類型指定※ ¹		(D)	(D)	
調査時期		豊水期	低水期	豊水期
流量 (m ³ /s)		3.1×10 ⁻²	2.7×10 ⁻²	1.0×10 ⁻²
浮遊物質 (SS) (mg/L)		2	<1	<1
水温 (℃)		27.3	9.1	25.3
気象の状況		晴れ	晴れ	晴れ
土質の状況		砂泥	砂泥	砂泥
水素イオン濃度 (pH)		7.3	7.4	8.0
自然由来の重金属等	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003
	六価クロム (mg/L)	<0.002	<0.002	<0.002
	水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005
	セレン (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001
	鉛 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001
	ヒ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001
	ふっ素 (mg/L)	<0.08	<0.08	<0.08
	ほう素 (mg/L)	<0.1	<0.1	<0.1

注：「<」は未満を示す。

※1：類型指定のない河川であることから、合流する河川の類型指定を準用し、カッコ書きとした。

※2：浮遊物質及び水素イオン濃度は「生活環境の保全に関する環境基準」を、自然由来の重金属等は「人の健康の保護に関する環境基準」を記載した。

なお、工事中における小野路非常口からの工事排水の水質について、浮遊物質量、水温、水素イオン濃度及び自然由来の重金属等の測定を行っている。また、工事中における上小山田非常口における工事排水の水質については、浮遊物質量、水温および水素イオン濃度の測定を行っている。測定結果は下記のとおりであるが、値は年間最大値（水素イオン濃度及び水温は年間最大・最小値）を記載した。

小野路非常口の測定結果は、浮遊物質量が最大で 96mg/L、水素イオン濃度は 6.8～8.3 であり、いずれも排水基準等に適合した。水温は 7.0～27.0℃であった。また、自然由来の重金属等については、カドミウムは 0.001mg/L 未満、六価クロムは 0.03mg/L、水銀は 0.0005 mg/L 未満、セレンは 0.003mg/L、鉛は 0.001mg/L 未満、ヒ素 0.009mg/L、ふっ素は 0.46mg/L、ほう素は 0.3mg/L であり、いずれも排水基準等に適合した。

上小山田非常口の測定結果は、浮遊物質量が最大で 18.1mg/L、水素イオン濃度は 7.1～7.9 であり、いずれも排水基準等に適合した。水温は 13.0～28.0℃であった。

3-5 地下水

地下水について、工事中及び工事完了後のモニタリングを実施した。

3-5-1 調査項目

調査項目は、地下駅、非常口（都市部）及び地下変電所周辺の井戸の地下水の水位の状況とした。

3-5-2 調査方法

調査方法は、表 3-5-2-1 に示すとおりである。

表 3-5-2-1 調査方法

調査項目	調査方法
水位	「地下水調査および観測指針（案）」（1993 年 3 月、建設省河川局監修）に定める測定方法

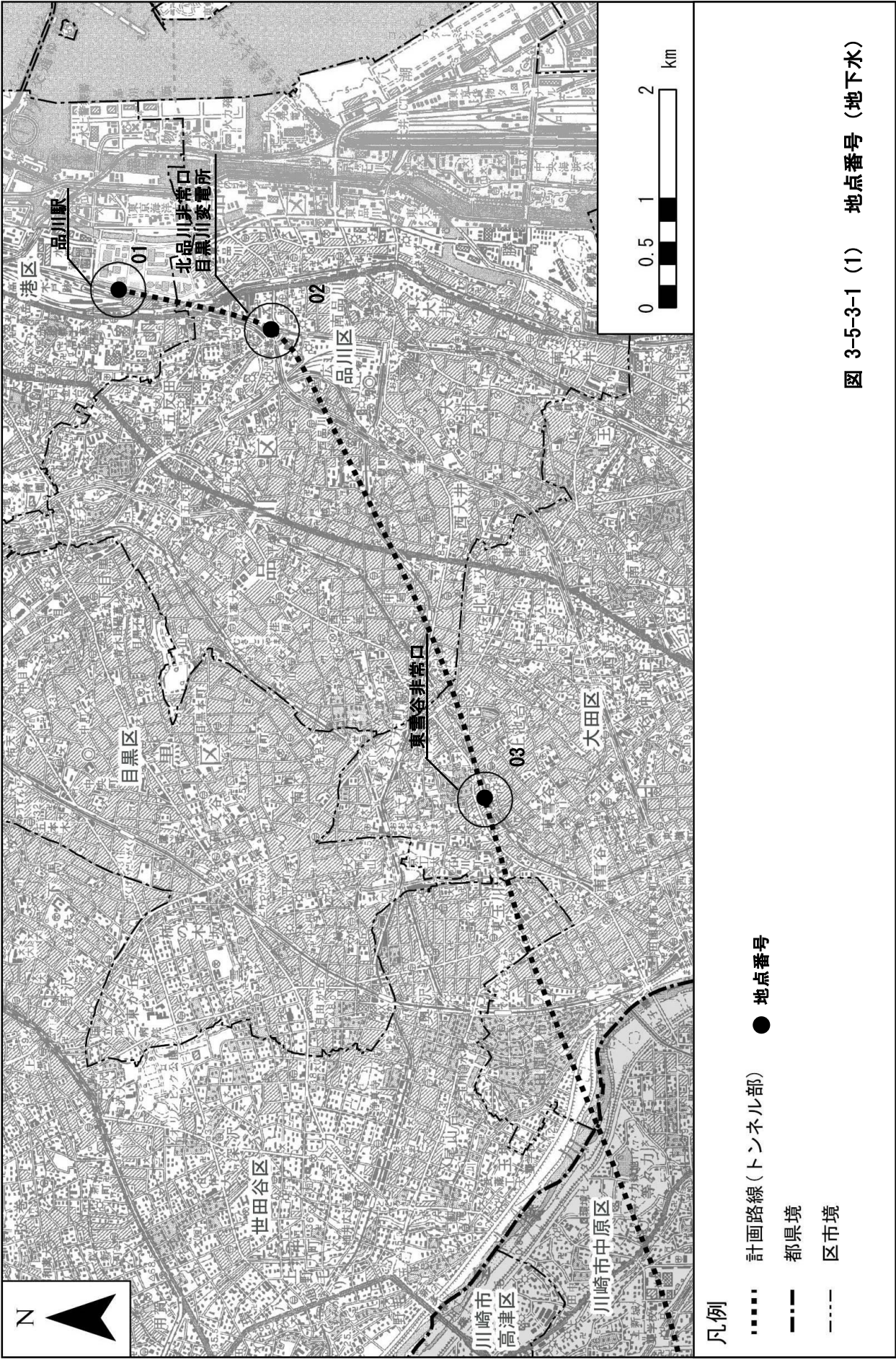
3-5-3 調査地点

調査地点は、表 3-5-3-1、図 3-5-3-1 及び図 3-5-3-2 に示すとおりである。

表 3-5-3-1 調査地点

地点※ 番号	区市名	所在地	実施箇所	調査地点		地表面標高	スレーナ-深度	地層名
01	港区	港南	品川駅	01-①	浅層	T. P. +3. 4m	T. P. -11m～-19m	東京層
					深層	T. P. +3. 4m	T. P. -56m～-66m	上総層群
				01-②	浅層	T. P. +2. 5m	T. P. -10m～-18m	東京層
					深層	T. P. +2. 5m	T. P. -46m～-66m	上総層群
				01-③	浅層	T. P. +3. 4m	T. P. -11m～-19m	東京層
					深層	T. P. +3. 4m	T. P. -49m～-61m	上総層群
				01-③'	浅層	T. P. +3. 4m	T. P. -12m～-18m	東京層
					深層	T. P. +3. 3m	T. P. -49m～-59m	上総層群
01-④	浅層	T. P. +3. 3m	T. P. -11m～-18m	東京層				
	深層	T. P. +3. 3m	T. P. -49m～-59m	上総層群				
02	品川区	北品川	北品川非常口 目黒川変電所	02-①	浅層	T. P. +3. 0m	T. P. -12m～-20m	東京層
					深層	T. P. +3. 0m	T. P. -70m～-82m	上総層群
				02-②	浅層	T. P. +3. 0m	T. P. -12m～-20m	東京層
					深層	T. P. +3. 0m	T. P. -64m～-76m	上総層群
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口	03-①	浅層	T. P. +27m	T. P. +19m～+10m	東京層
					深層	T. P. +27m	T. P. -45m～-59m	上総層群
				03-②	浅層	T. P. +24m	T. P. +15m～+9m	東京層
					深層	T. P. +24m	T. P. -46m～-59m	上総層群
04	川崎市 麻生区	片平	片平非常口	04-①	浅層	T. P. +78m	T. P. +70m～+46m	上総層群
					深層	T. P. +78m	T. P. -17m～-40m	上総層群
				04-②	浅層	T. P. +78m	T. P. +63m～+43m	上総層群
					深層	T. P. +78m	T. P. -23m～-44m	上総層群
				04-①'	浅層	T. P. +78m	T. P. +70m～+46m	上総層群
06	町田市	上小山田町	上小山田非常口	06-①	浅層	T. P. +149m	T. P. +119m～+109m	上総層群
					深層	T. P. +149m	T. P. +65m～+55m	上総層群
				06-②	浅層	T. P. +140m	T. P. +115m～+105m	上総層群
					深層	T. P. +140m	T. P. +65m～+55m	上総層群

※：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。



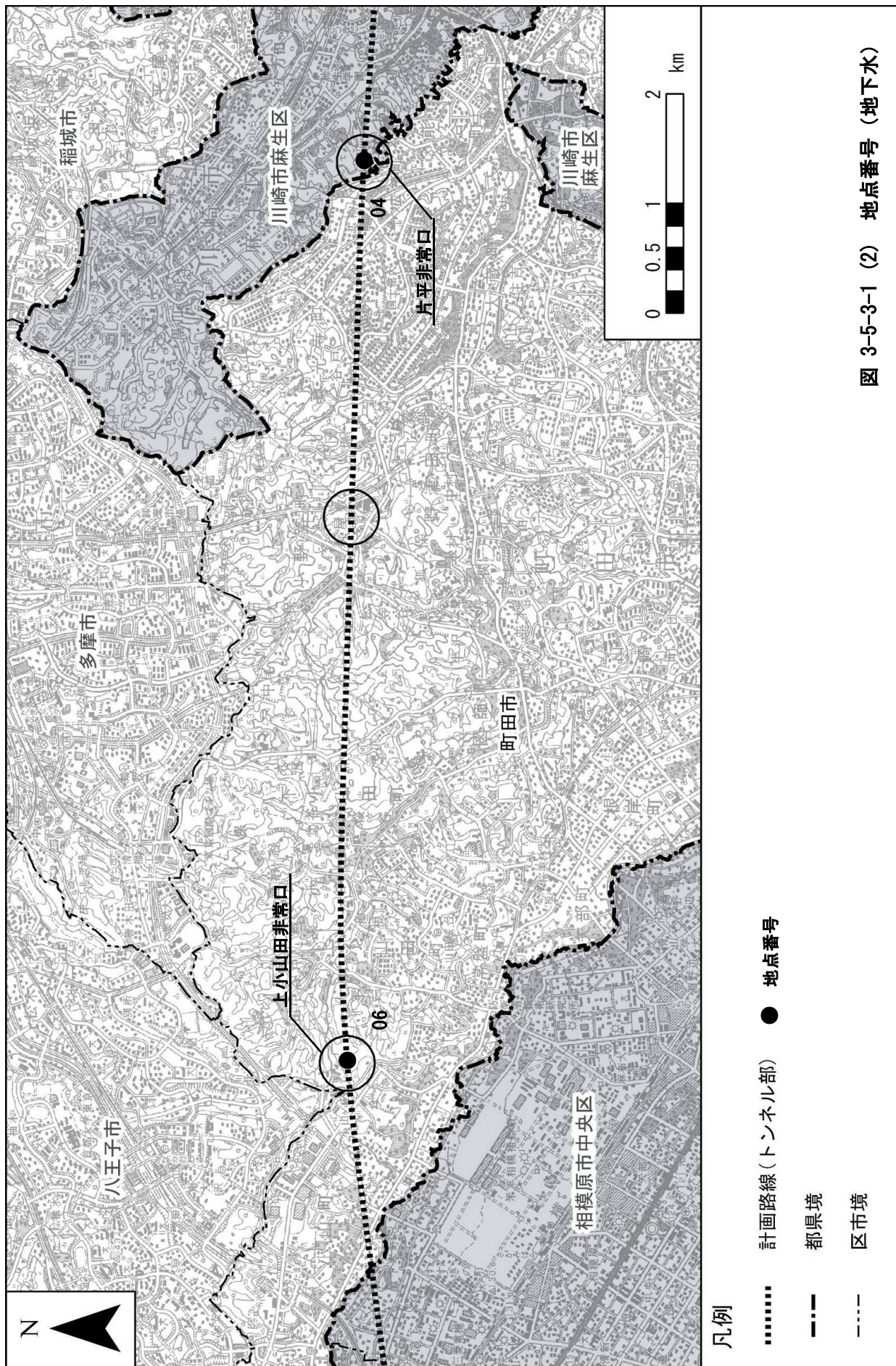


図 3-5-3-1 (2) 地点番号 (地下水)

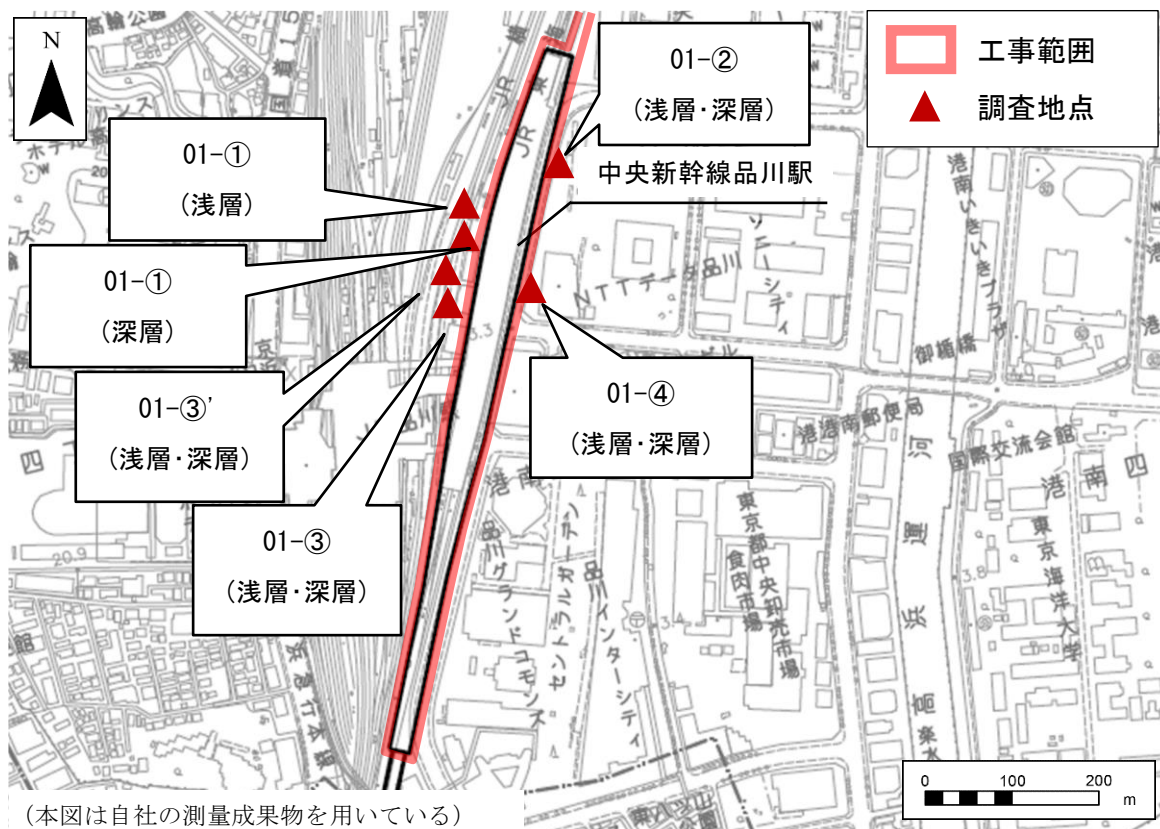


図 3-5-3-2(1) 調査地点（地下水）（01 品川駅）

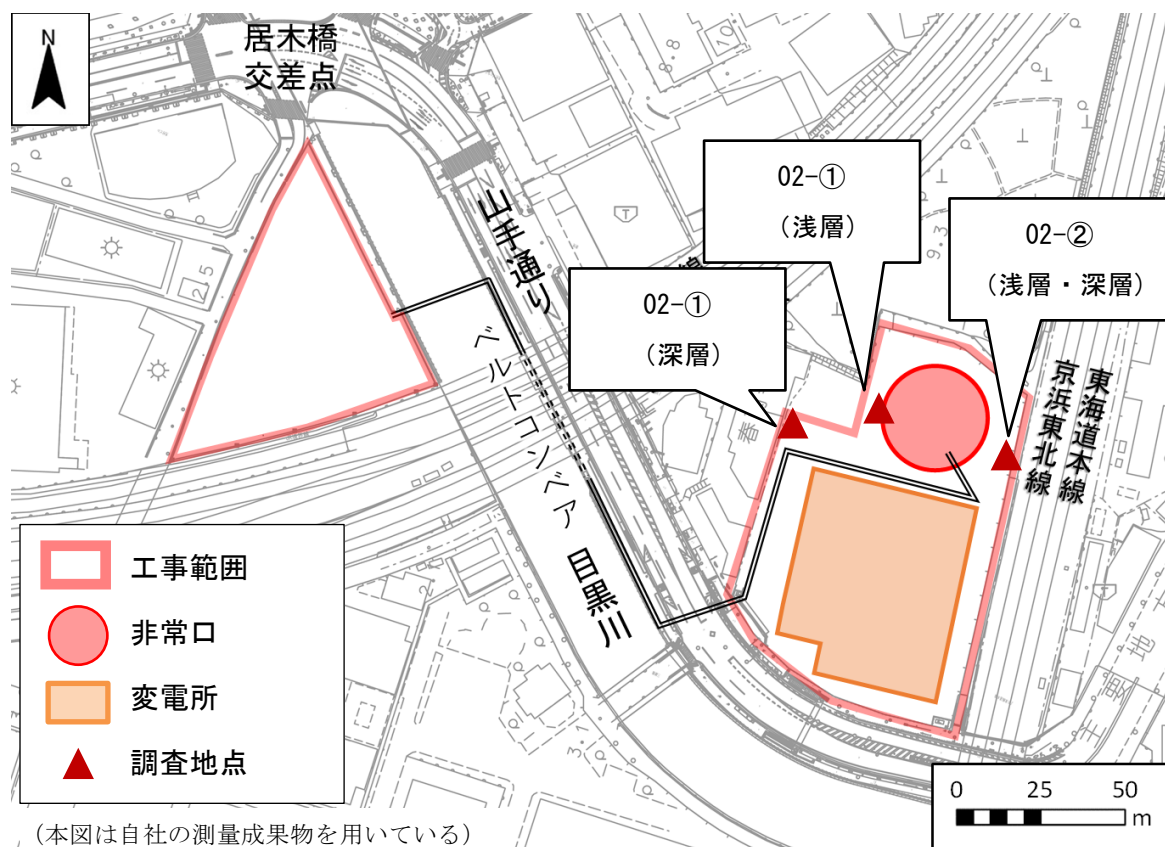


図 3-5-3-2(2) 調査地点（地下水）（02 北品川）

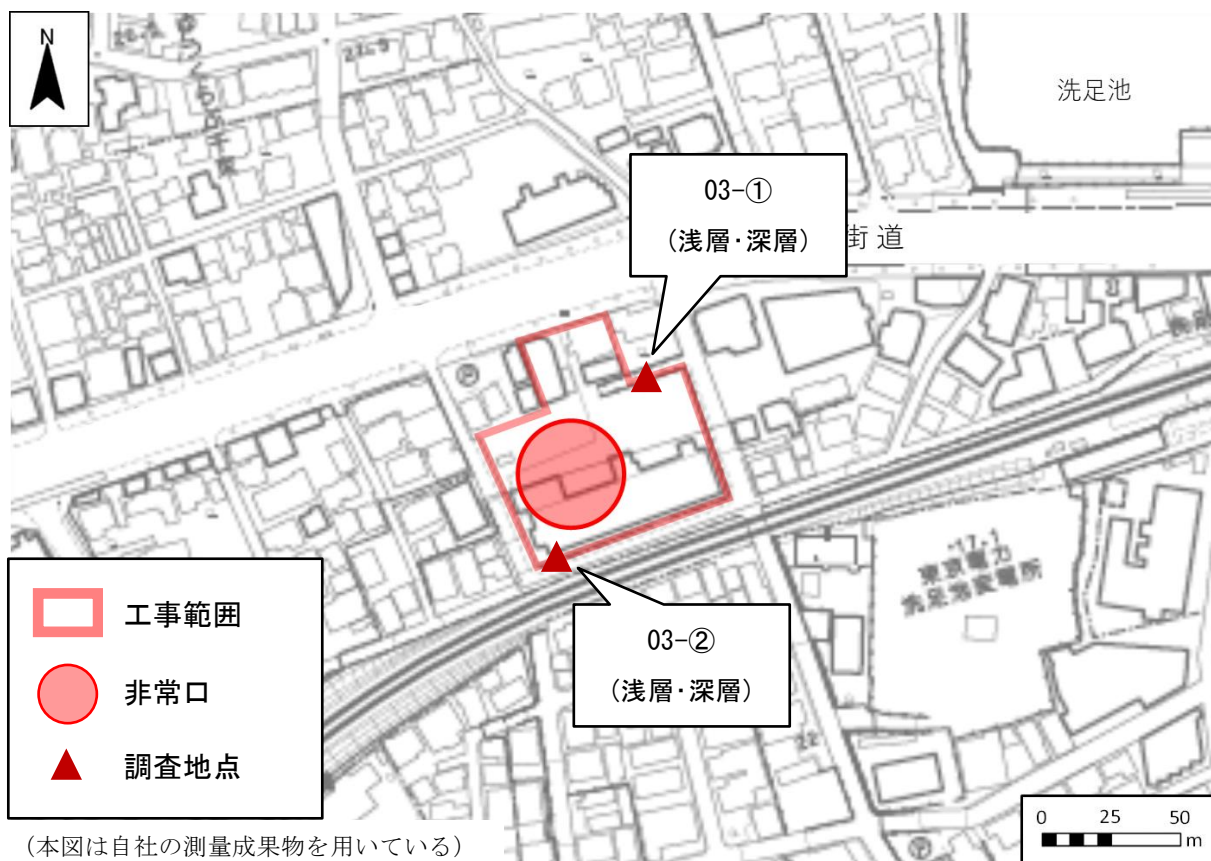
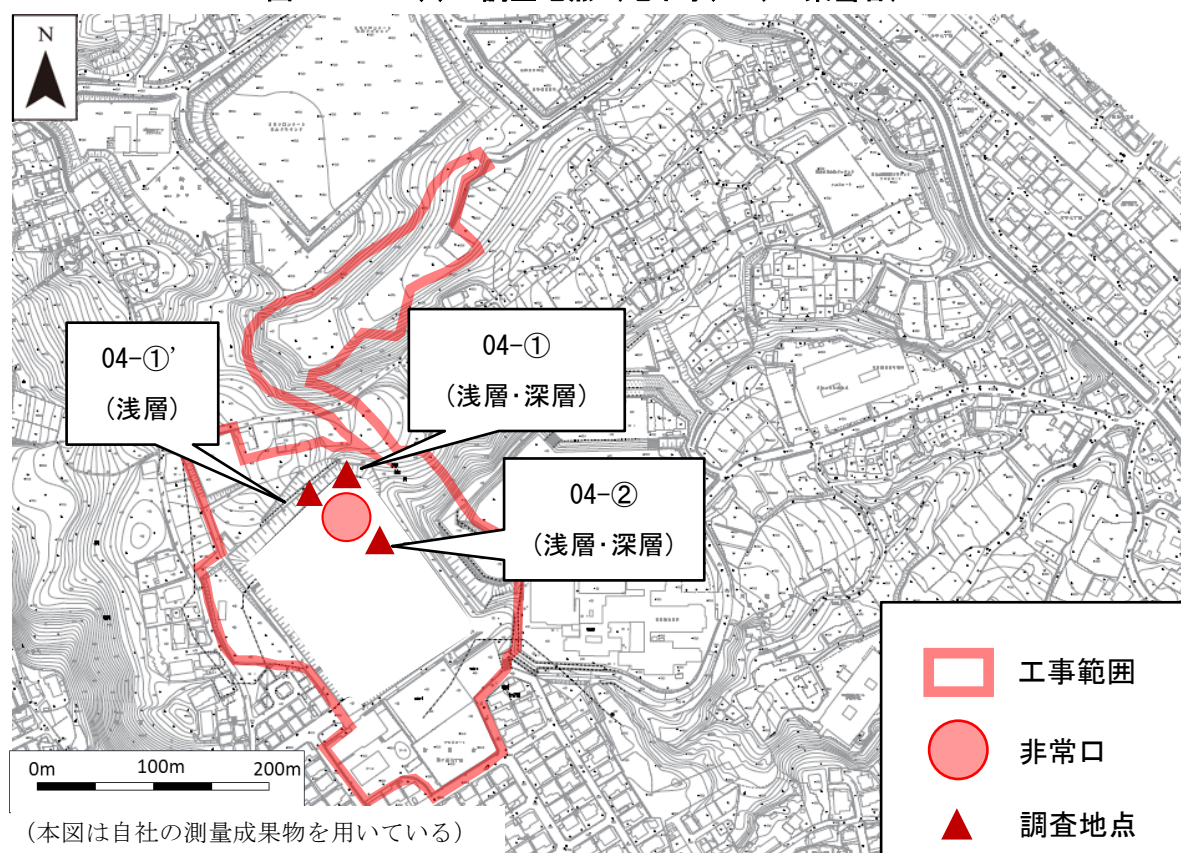


図 3-5-3-2(3) 調査地点（地下水）（03 東雪谷）



注：薬液注入工の影響により、2024年5月に04-①（浅層）から04-①'（浅層）へ盛替えを実施した。

図 3-5-3-2(4) 調査地点（地下水）（04 片平）

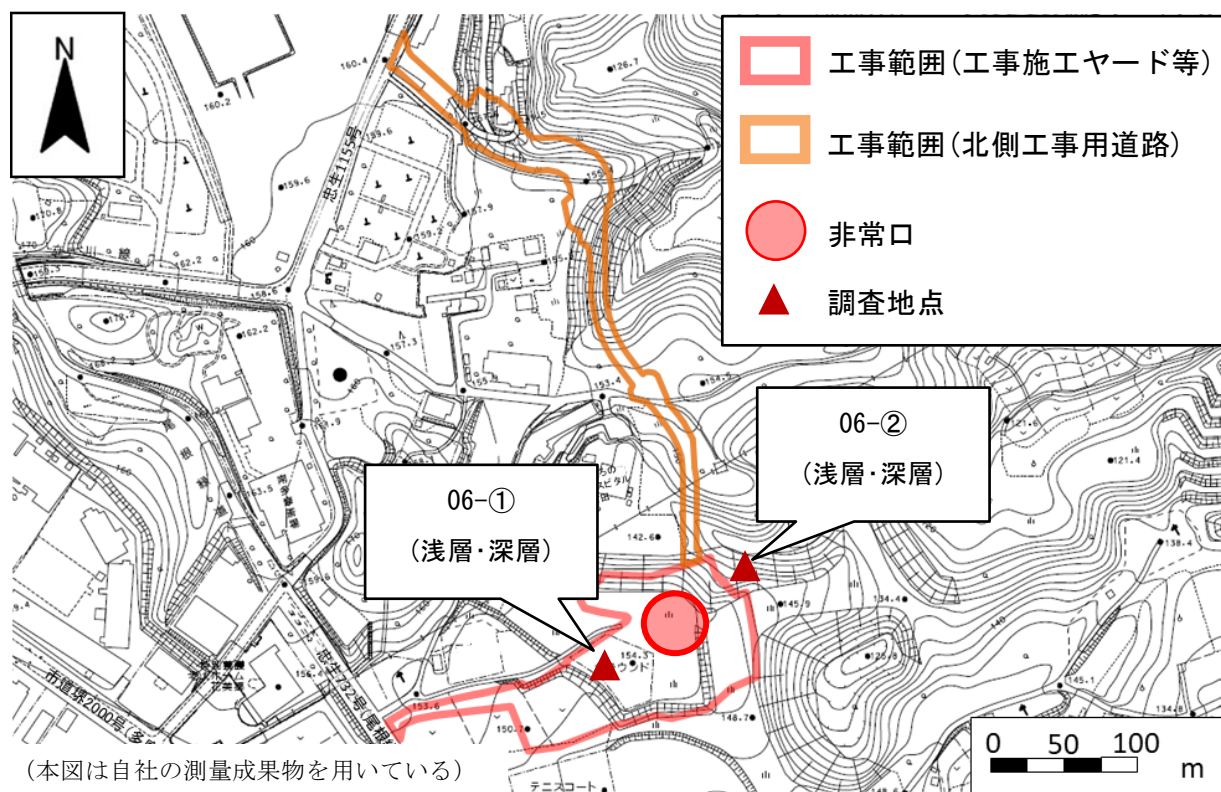


図 3-5-3-2(5) 調査地点(地下水) (06 上小山田)

3-5-4 調査期間

調査期間は、表 3-5-4-1 に示すとおりである。

表 3-5-4-1(1) 調査期間

地点 番号	調査地点	実施時期の 種別	調査期間	調査頻度
01	01-① 01-② 01-④	地下工事中	2024 年 4 月 1 日～30 日	自記水位計による 連続観測
			2024 年 5 月 1 日～31 日	
			2024 年 6 月 1 日～30 日	
			2024 年 7 月 1 日～31 日	
			2024 年 8 月 1 日～31 日	
			2024 年 9 月 1 日～30 日	
			2024 年 10 月 1 日～31 日	
			2024 年 11 月 1 日～30 日	
			2024 年 12 月 1 日～31 日	
			2025 年 1 月 1 日～31 日	
			2025 年 2 月 1 日～28 日	
			2025 年 3 月 1 日～31 日	
	01-③	地下工事中	2024 年 4 月 1 日～30 日	自記水位計による 連続観測
			2024 年 5 月 1 日～31 日	
			2024 年 6 月 1 日～30 日	
			2024 年 7 月 1 日～24 日	
	01-③'	地下工事中	2024 年 4 月 25 日～30 日	自記水位計による 連続観測
			2024 年 5 月 1 日～31 日	
			2024 年 6 月 1 日～30 日	
			2024 年 7 月 1 日～31 日	
			2024 年 8 月 1 日～31 日	
			2024 年 9 月 1 日～30 日	
			2024 年 10 月 1 日～31 日	
			2024 年 11 月 1 日～30 日	
			2024 年 12 月 1 日～31 日	
			2025 年 1 月 1 日～31 日	
			2025 年 2 月 1 日～28 日	
			2025 年 3 月 1 日～31 日	

表 3-5-4-1(2) 調査期間

地点 番号	調査地点	実施時期の 種別	調査期間	調査頻度
02	02-① 02-②	地下工事中	2024 年 4 月 1 日～30 日	自記水位計による 連続観測
			2024 年 5 月 1 日～31 日	
			2024 年 6 月 1 日～30 日	
		地下工事完了後	2024 年 7 月 1 日～31 日	
			2024 年 8 月 1 日～31 日	
			2024 年 9 月 1 日～30 日	
			2024 年 10 月 1 日～31 日	
			2024 年 11 月 1 日～30 日	
			2024 年 12 月 1 日～31 日	
			2025 年 1 月 1 日～31 日	
			2025 年 2 月 1 日～28 日	
			2025 年 3 月 1 日～31 日	
03	03-① 03-②	地下工事中	2024 年 4 月 1 日～30 日	自記水位計による 連続観測
			2024 年 5 月 1 日～31 日	
			2024 年 6 月 1 日～30 日	
			2024 年 7 月 1 日～31 日	
			2024 年 8 月 1 日～31 日	
			2024 年 9 月 1 日～30 日	
			2024 年 10 月 1 日～31 日	
			2024 年 11 月 1 日～30 日	
			2024 年 12 月 1 日～31 日	
			2025 年 1 月 1 日～31 日	
			2025 年 2 月 1 日～28 日	
			2025 年 3 月 1 日～31 日	

表 3-5-4-1(3) 調査期間

地点 番号	調査地点	実施時期の 種別	調査期間	調査頻度
04	04-① (深層) 04-②	地下工事中	2024 年 4 月 1 日～30 日	自記水位計による 連続観測
			2024 年 5 月 1 日～31 日	
			2024 年 6 月 1 日～30 日	
			2024 年 7 月 1 日～31 日	
			2024 年 8 月 1 日～31 日	
			2024 年 9 月 1 日～30 日	
			2024 年 10 月 1 日～31 日	
			2024 年 11 月 1 日～30 日	
			2024 年 12 月 1 日～31 日	
			2025 年 1 月 1 日～31 日	
			2025 年 2 月 1 日～28 日	
			2025 年 3 月 1 日～31 日	
	04-①※ (浅層)	地下工事中	2024 年 4 月 1 日～30 日	自記水位計による 連続観測
			2024 年 5 月 1 日～31 日	
			2024 年 6 月 1 日～30 日	
	04-①'※ (浅層)	地下工事中	2024 年 5 月 30 日～31 日	自記水位計による 連続観測
			2024 年 6 月 1 日～30 日	
			2024 年 7 月 1 日～31 日	
			2024 年 8 月 1 日～31 日	
			2024 年 9 月 1 日～30 日	
			2024 年 10 月 1 日～31 日	
			2024 年 11 月 1 日～30 日	
			2024 年 12 月 1 日～31 日	
			2025 年 1 月 1 日～31 日	
			2025 年 2 月 1 日～28 日	
			2025 年 3 月 1 日～31 日	

※：04-①から 04-①' に浅層井戸の盛替えを実施した。

表 3-5-4-1(4) 調査期間

地点 番号	調査地点	実施時期の 種別	調査期間	計測頻度
06	06-① 06-②	地下工事中	2024 年 4 月 1 日～30 日	自記水位計による 連続観測
			2024 年 5 月 1 日～31 日	
		地下工事完了後	2024 年 6 月 1 日～30 日	
			2024 年 7 月 1 日～31 日	
			2024 年 8 月 1 日～31 日	
			2024 年 9 月 1 日～30 日	
			2024 年 10 月 1 日～31 日	
			2024 年 11 月 1 日～30 日	
			2024 年 12 月 1 日～31 日	
			2025 年 1 月 1 日～31 日	
			2025 年 2 月 1 日～28 日	
			2025 年 3 月 1 日～31 日	

3-5-5 調査結果

調査結果は、図 3-5-5-1 に示すとおりである。なお、水位は東京湾平均海面（T.P.）を 0m とした場合の高さを示す。

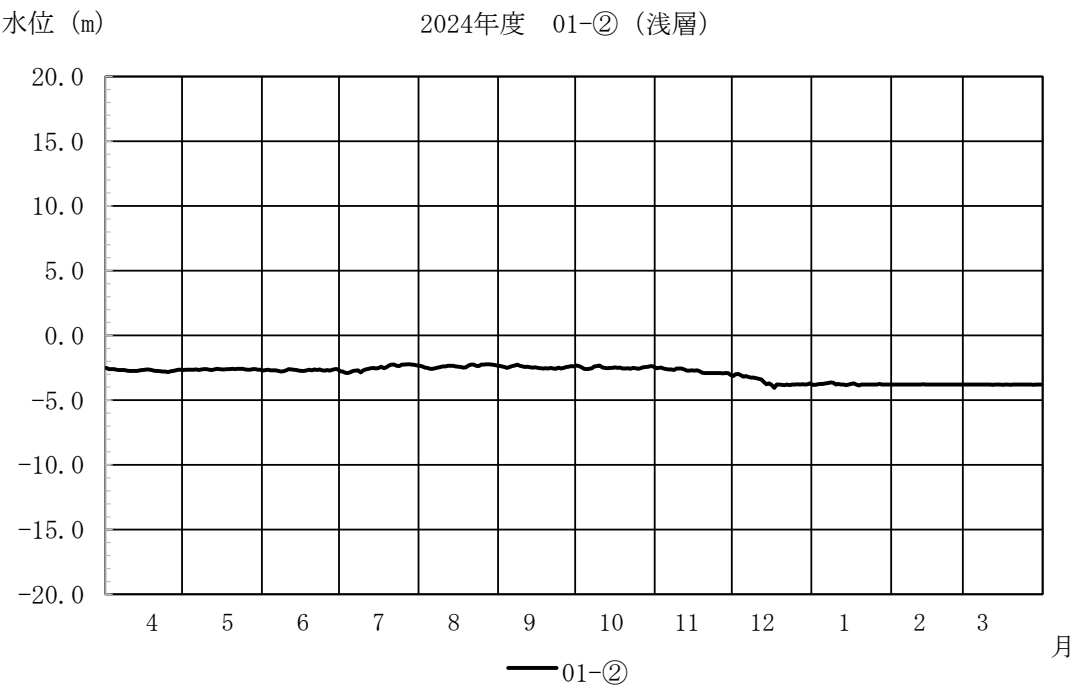
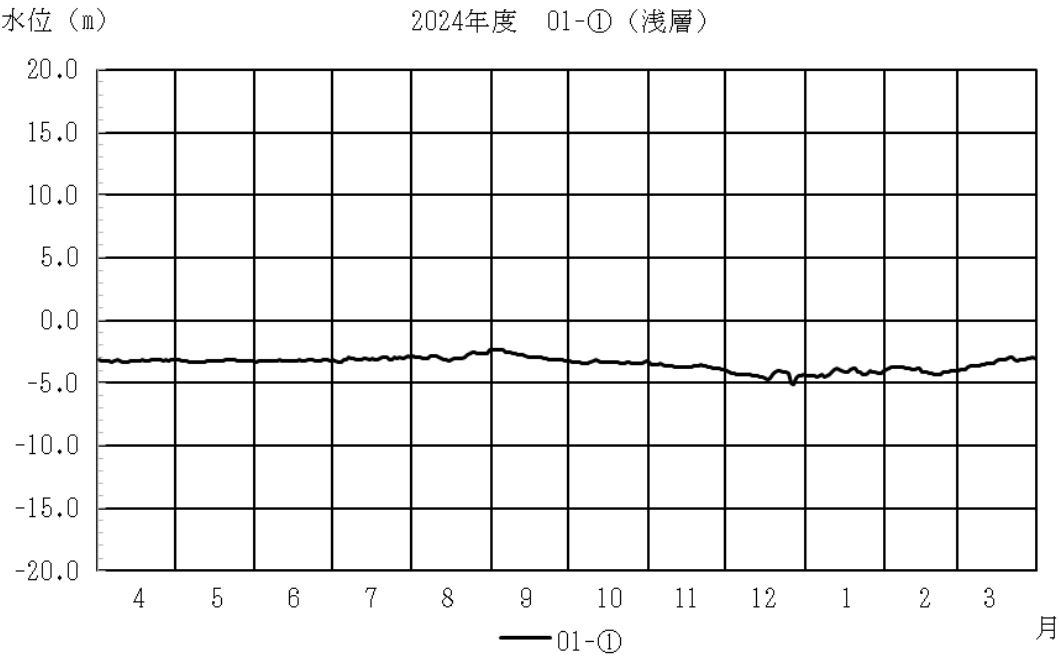
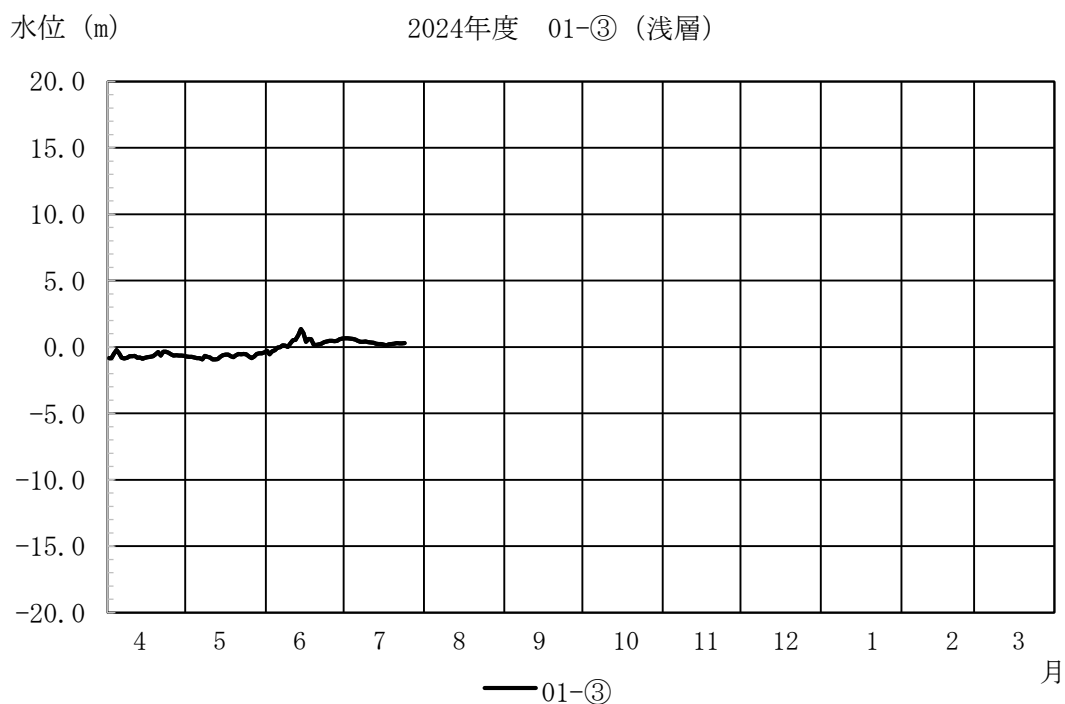
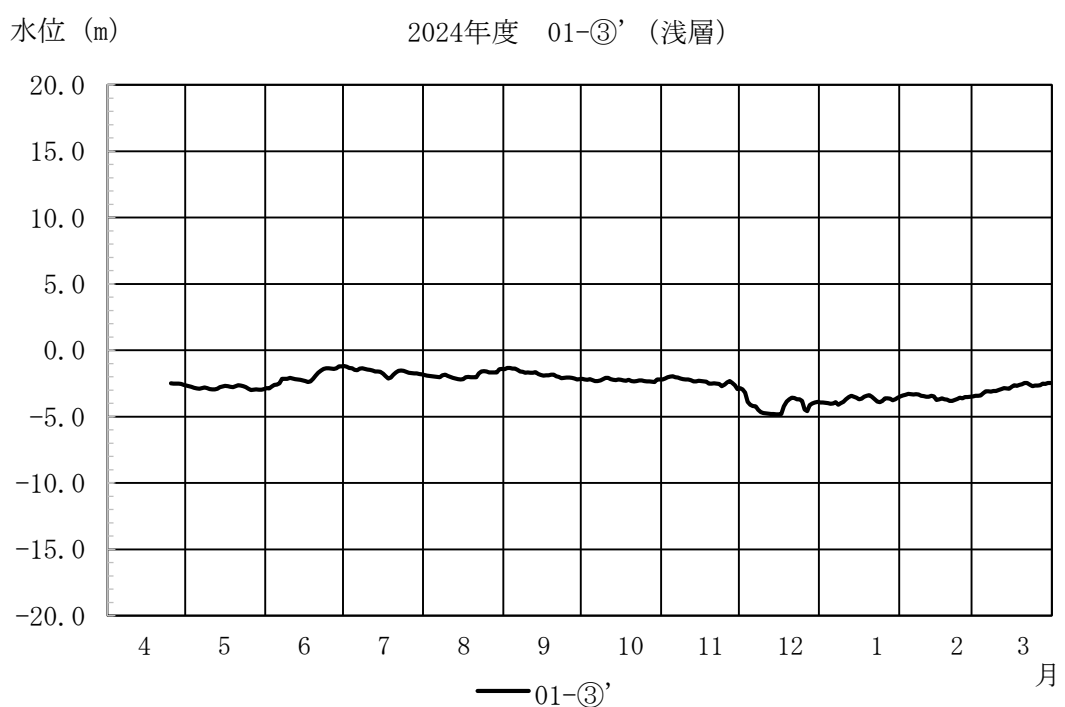


図 3-5-5-1 (1) 調査結果 (01 品川駅 (浅層))



注：01-③の井戸が工事に支障するため、2024年4月に01-③から01-③'へ井戸の盛替えを実施した。



注：01-③の井戸が工事に支障するため、2024年4月に01-③から01-③'へ井戸の盛替えを実施した。

また、2024年12月以降に水位が低下したが、当該時期において観測井付近で地下水に変動を与えるような作業を実施していないことから、本工事に起因したものではないと考えられる。

図 3-5-5-1 (2) 調査結果 (01 品川駅 (浅層))

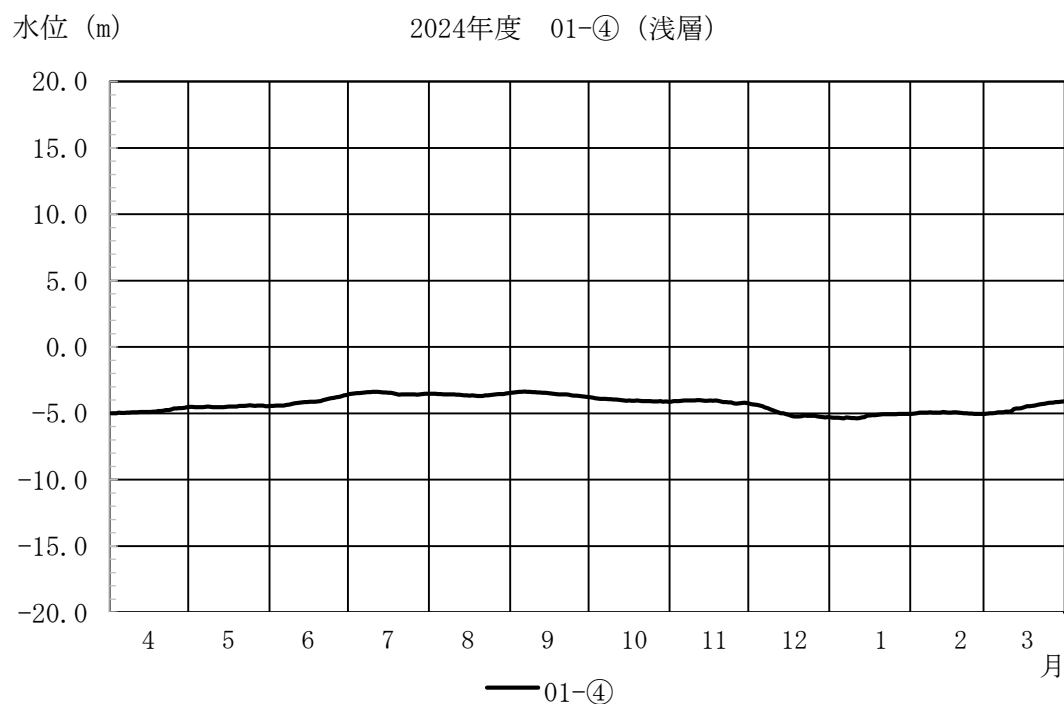


図 3-5-5-1 (3) 調査結果 (01 品川駅 (浅层))

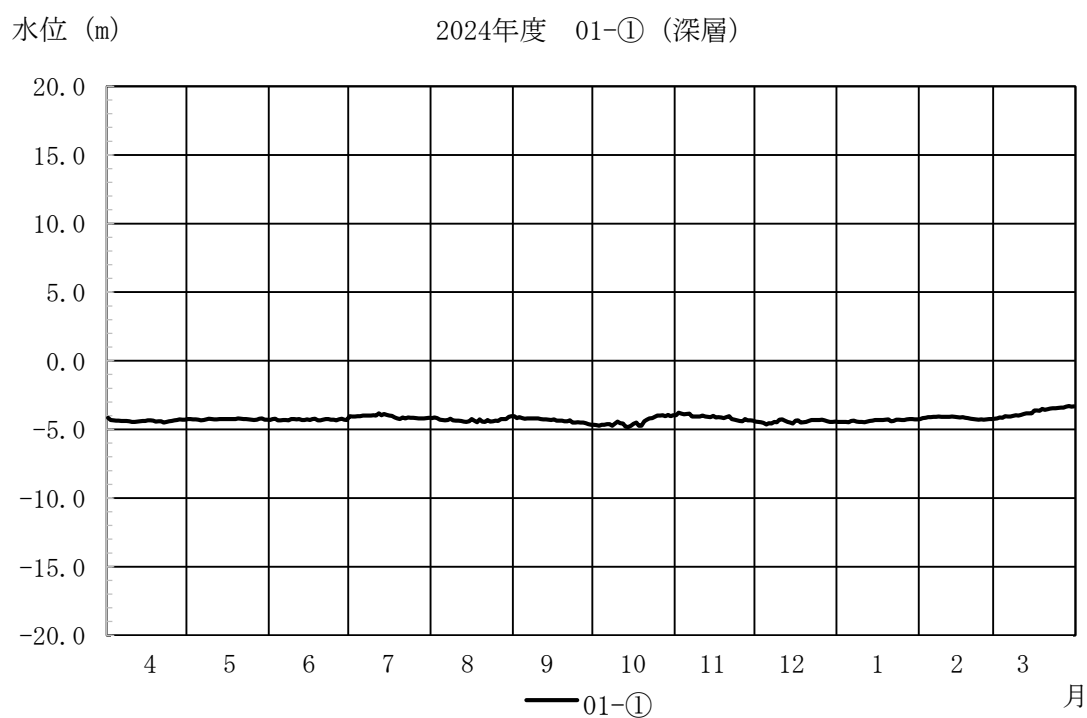
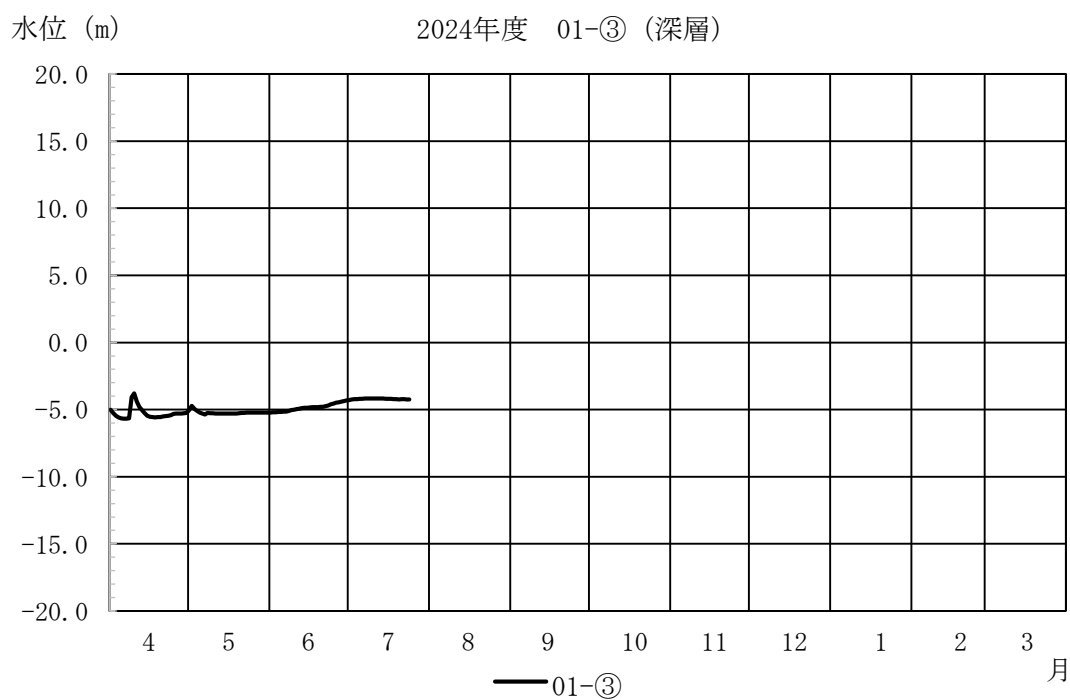
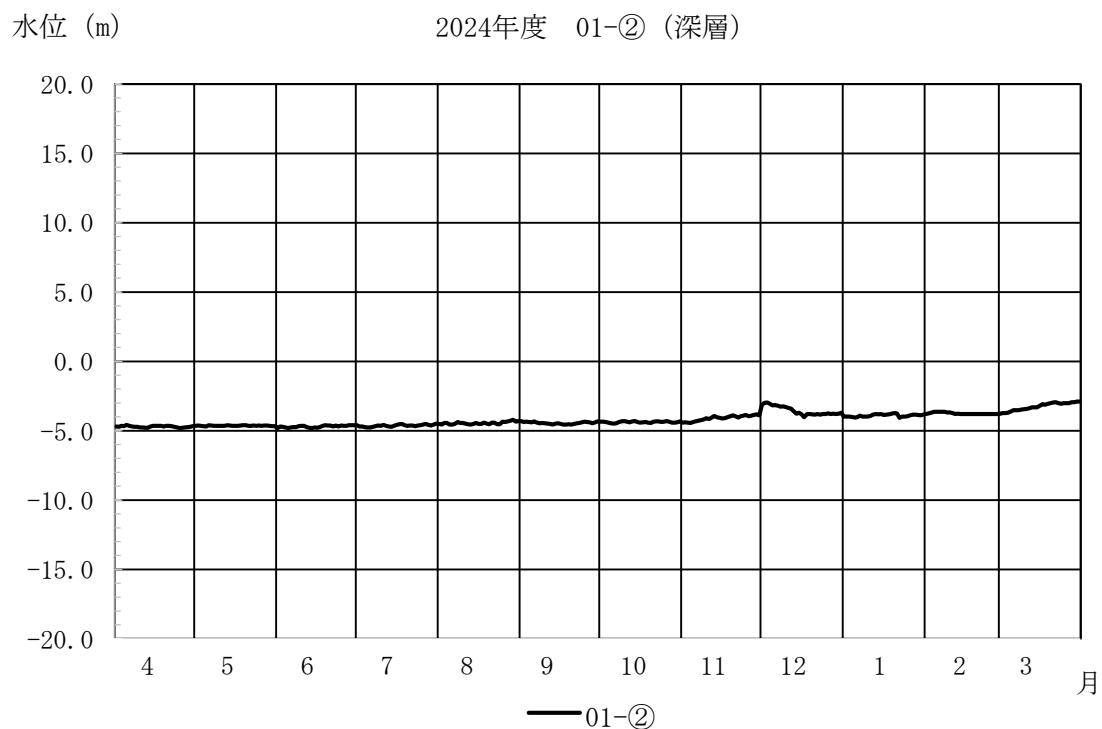
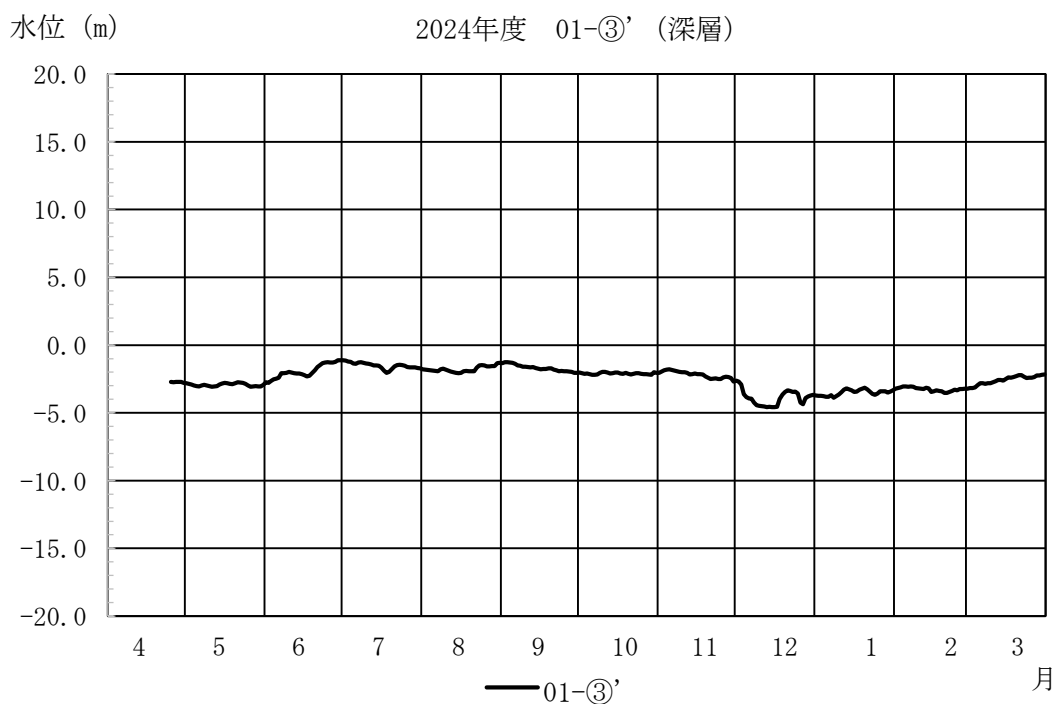


図 3-5-5-1 (4) 調査結果 (01 品川駅 (深层))



注：01-③の井戸が工事に支障するため、2024年4月に01-③から01-③'へ井戸の盛替えを実施した。

図 3-5-5-1 (5) 調査結果 (01 品川駅 (深層))



注：01-③の井戸が工事に支障するため、2024年4月に01-③から01-③'へ井戸の盛替えを実施した。また、2024年12月以降に水位が低下したが、当該時期において観測井付近で地下水に変動を与えるような作業を実施していないことから、本工事に起因したものではないと考えられる。

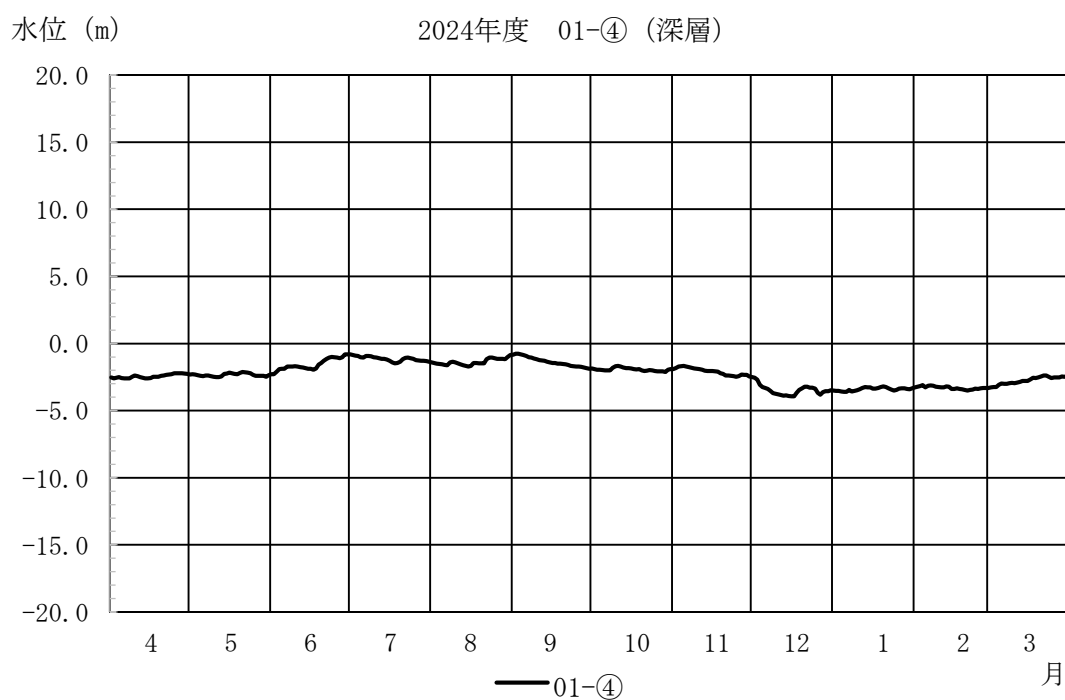
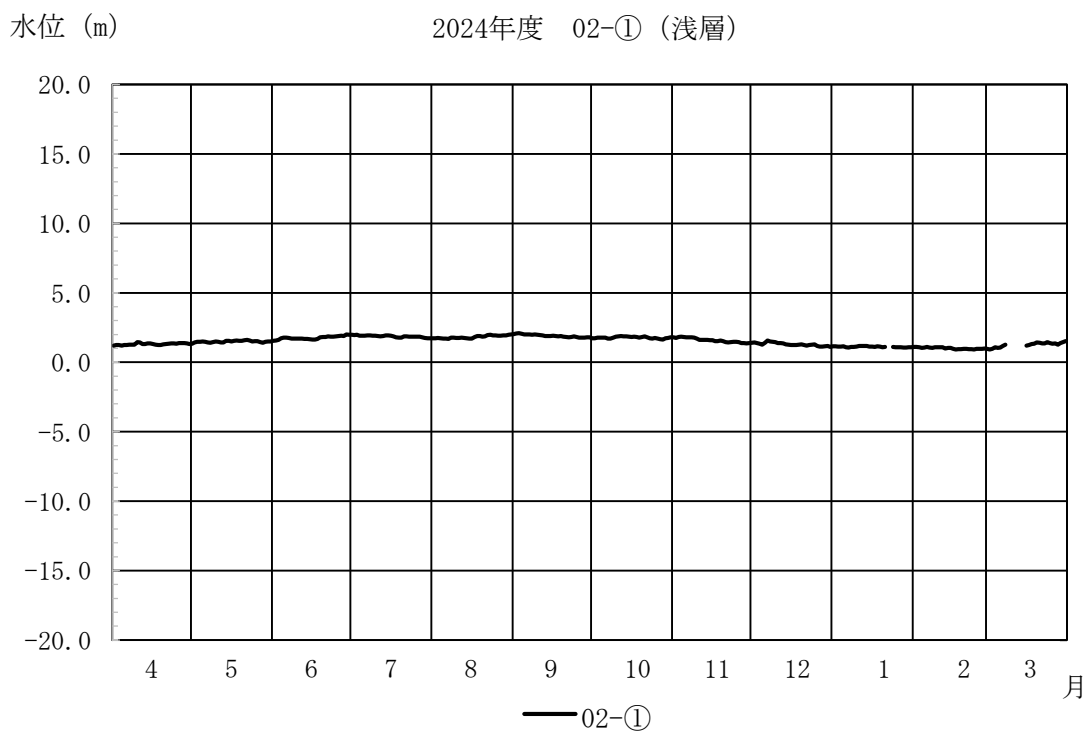
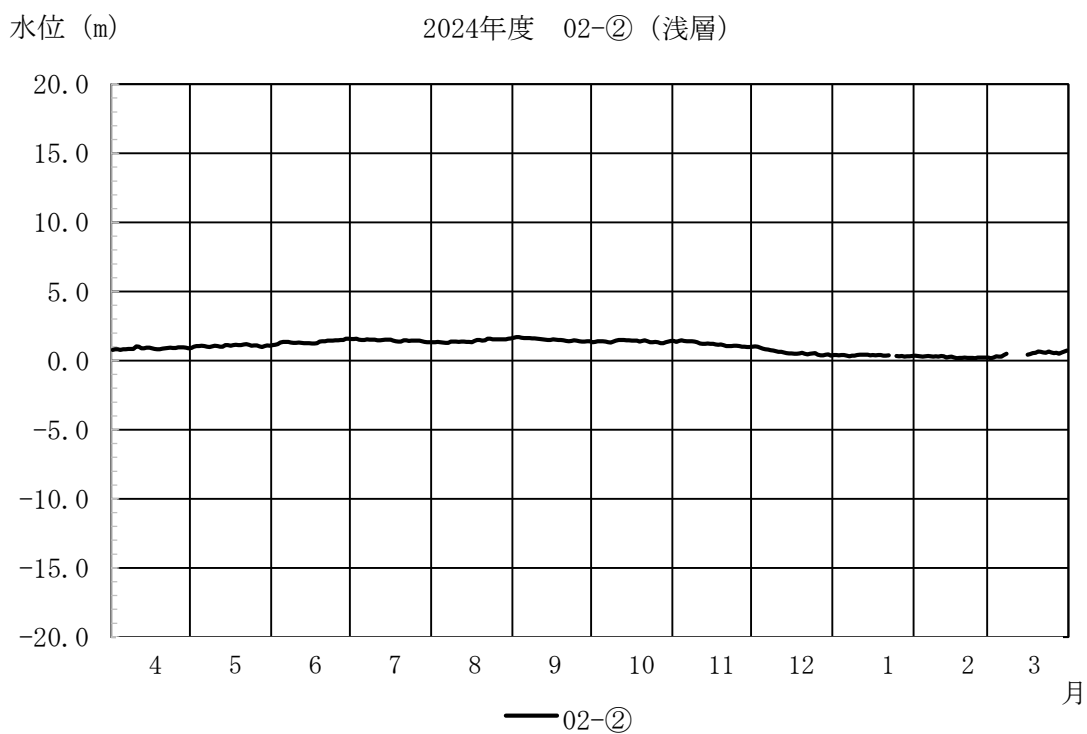


図 3-5-5-1(6) 調査結果 (01 品川駅 (深層))

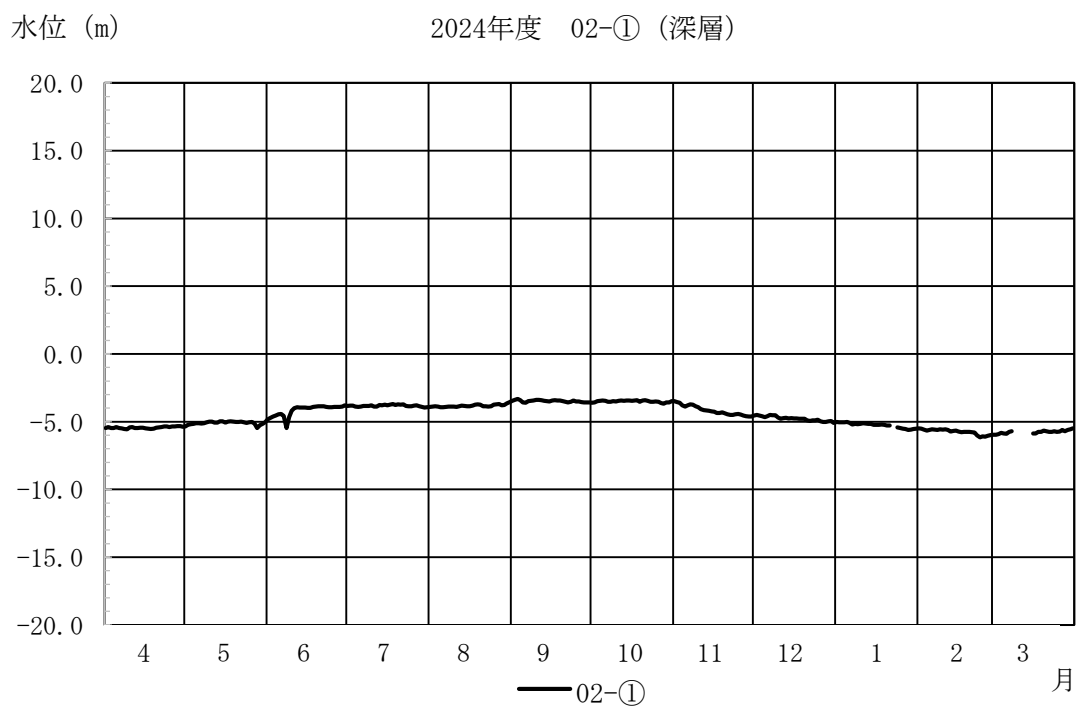


注：2025 年 1 月、3 月は水位計のメンテナンスを実施したため一時的に欠測となった。

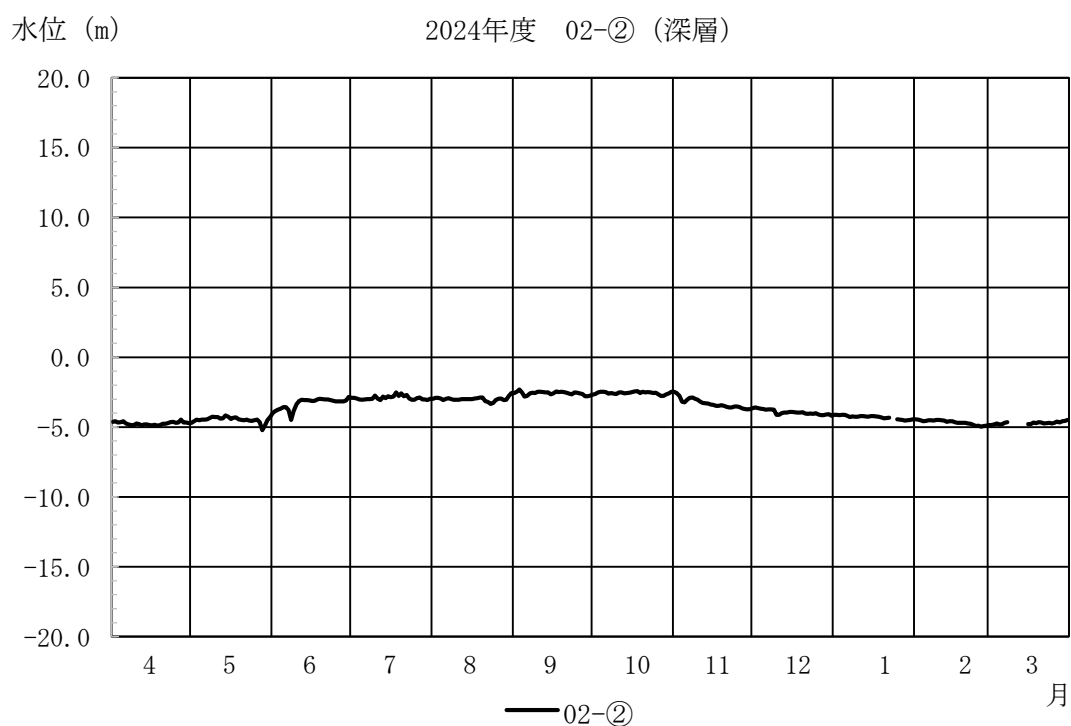


注：2025 年 1、3 月に水位計のメンテナンスを実施したため、一時的に欠測となった。

図 3-5-5-1 (7) 調査結果 (02 北品川 (浅層))



注：2025 年 1 月、3 月に水位計のメンテナンスを実施したため、一時的に欠測となった。



注：2025 年 1 月、3 月に水位計のメンテナンスを実施したため、一時的に欠測となった。

図 3-5-5-1 (8) 調査結果 (02 北品川 (深層))

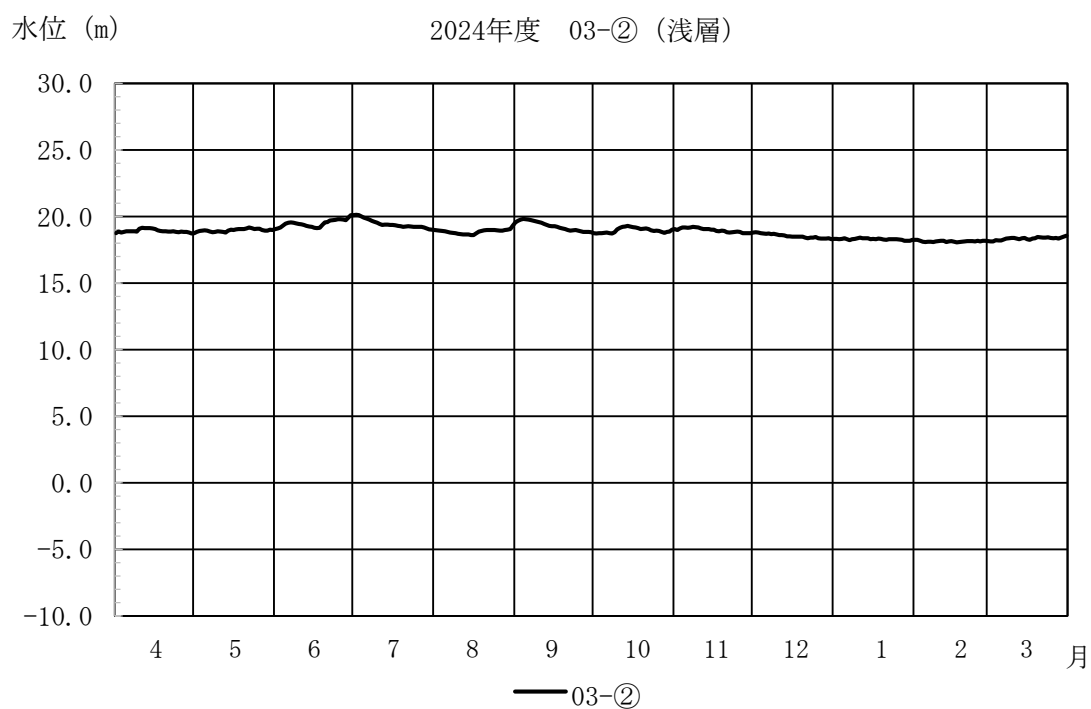
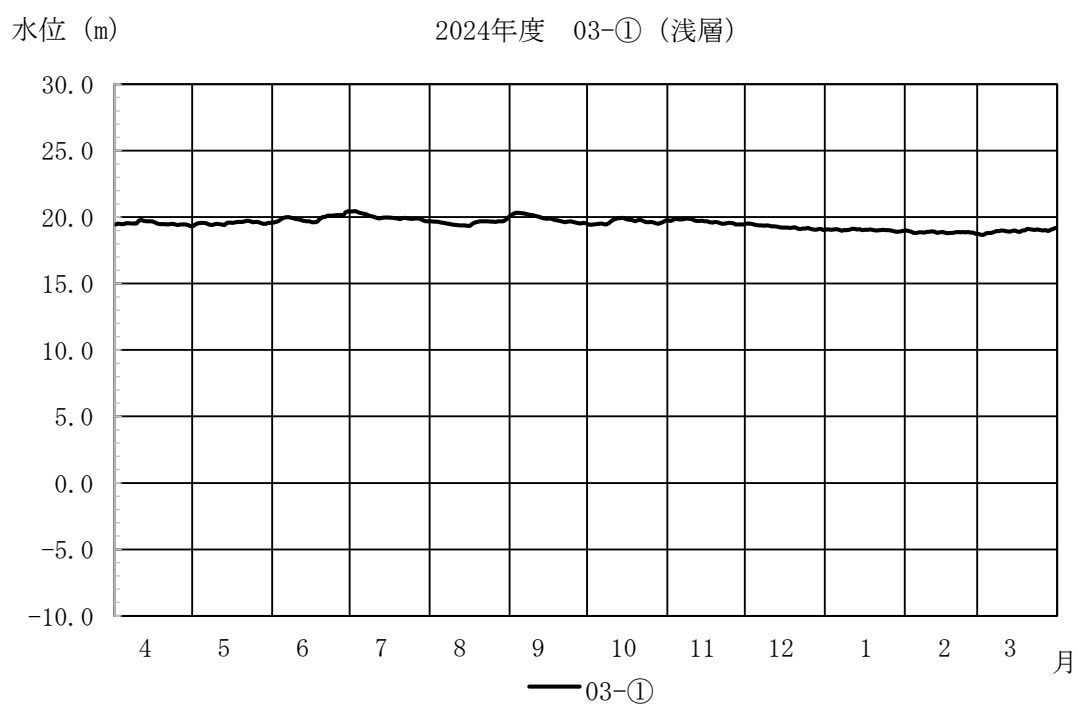


図 3-5-5-1(9) 調査結果 (03 東雪谷 (浅层))

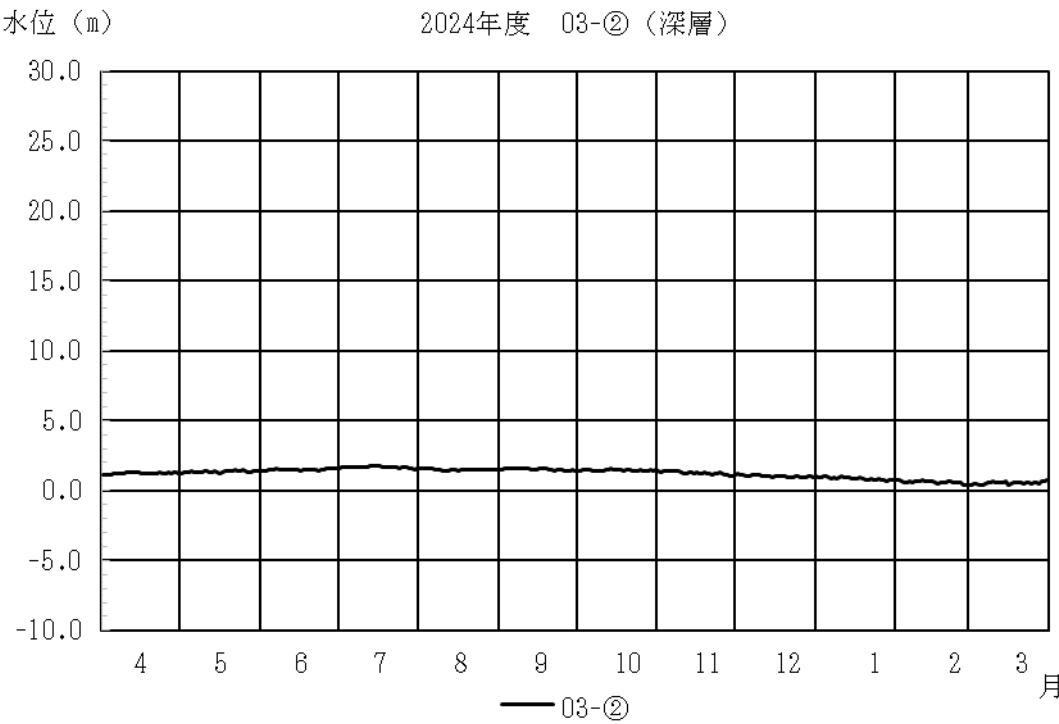
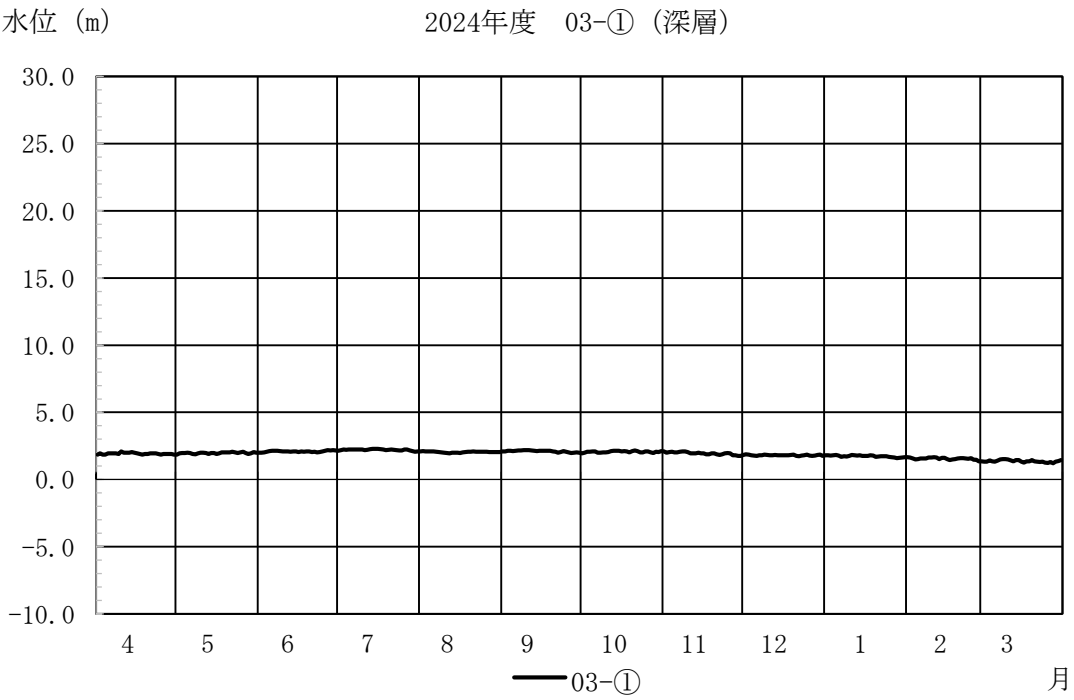
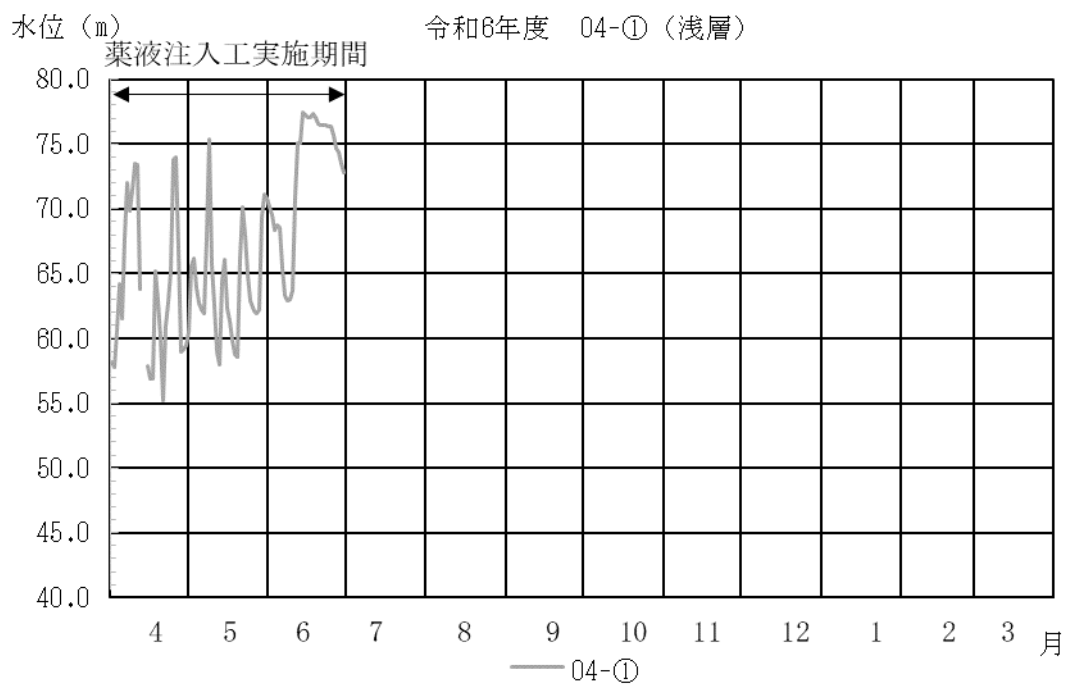


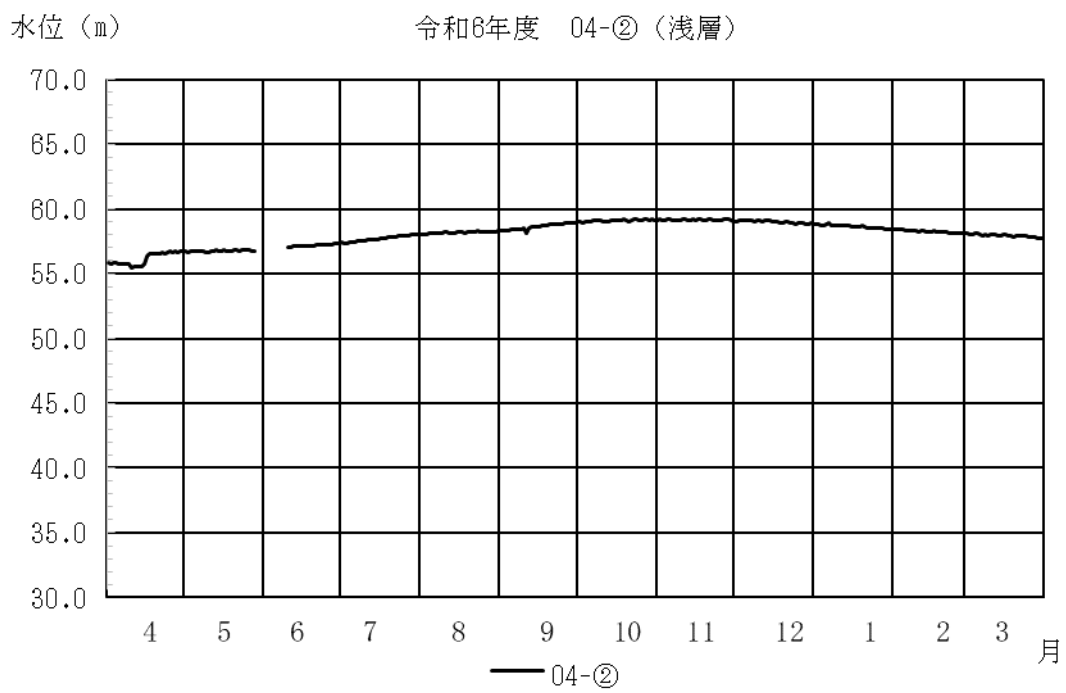
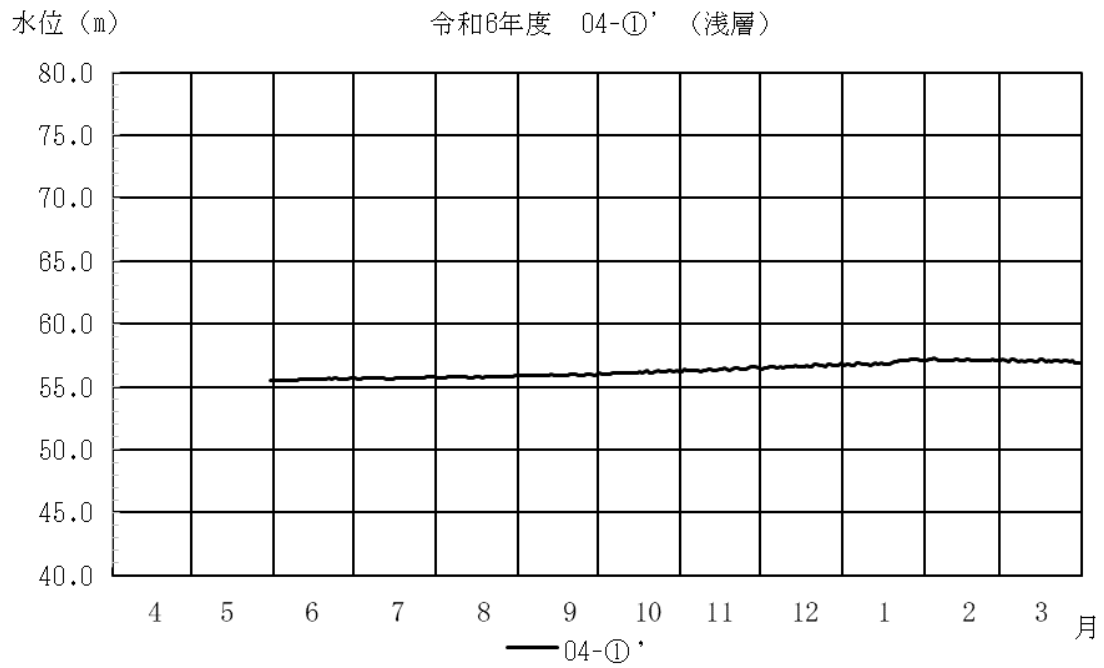
図 3-5-5-1(10) 調査結果 (03 東雪谷 (深層))



注1 : 2024 年 4 月から 6 月は、一部の地中連続壁の止水対策のため薬液注入工を実施するにあたって、薬液注入箇所が 04-① (浅層) に近いことから、薬液が井戸に入り込まないように井戸の防護対策として注水を実施した。注水作業中は毎回水位計を引き上げていたことや、注水作業完了直後から水位計測を再開していたことにより、地下水位の挙動を正しく表現していないため、薬液注入工を実施した期間は参考として、灰色の線で記載した。

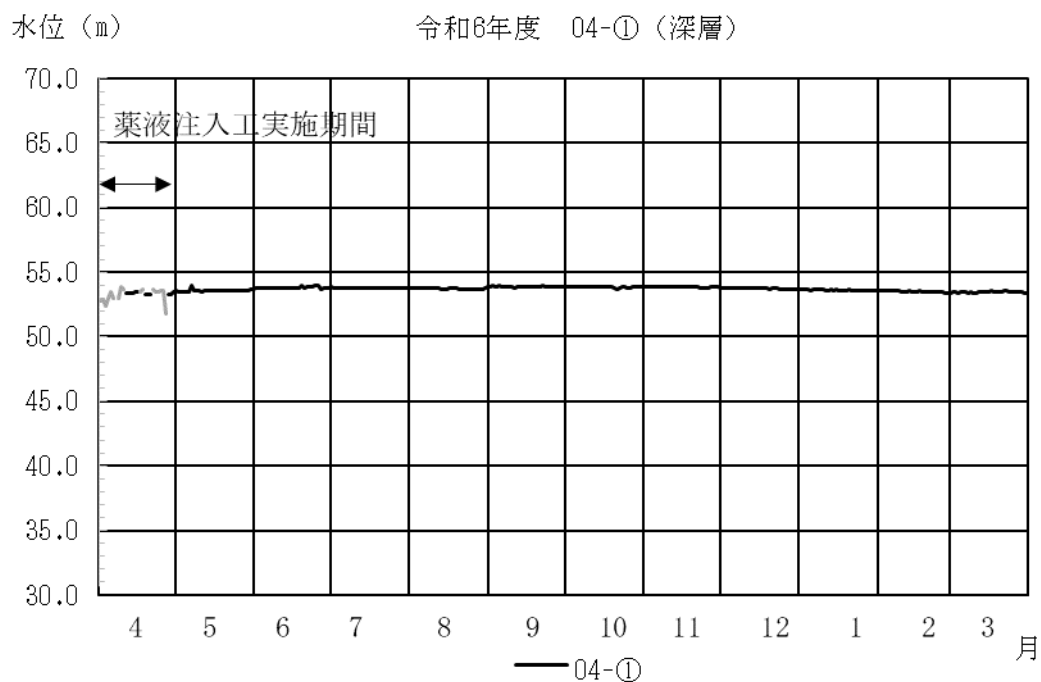
注2 : 2024 年 5 月にストレーナーの目詰まりが生じたと判断したため、04-① (浅層) から 04-①' (浅層) へ速やかに井戸の盛替えを実施した。

図 3-5-5-1 (11) 調査結果 (04 片平 (浅層))



注：2024年5月、6月に水位計のメンテナンスを実施したため一時的に欠測となった。

図 3-5-5-1(12) 調査結果 (04 片平 (浅层))



注：2024年4月は、一部の地中連続壁の止水対策を目的に実施した薬液注入工に伴い、04-①（深層）の防護対策として注水を実施した。注水作業中は毎回水位計を引き上げていたことや、注水作業完了直後から水位計測を再開していたことにより、地下水位の挙動を正しく表現した値ではないため、薬液注入工を実施した期間は参考値として、灰色の線で記載した。

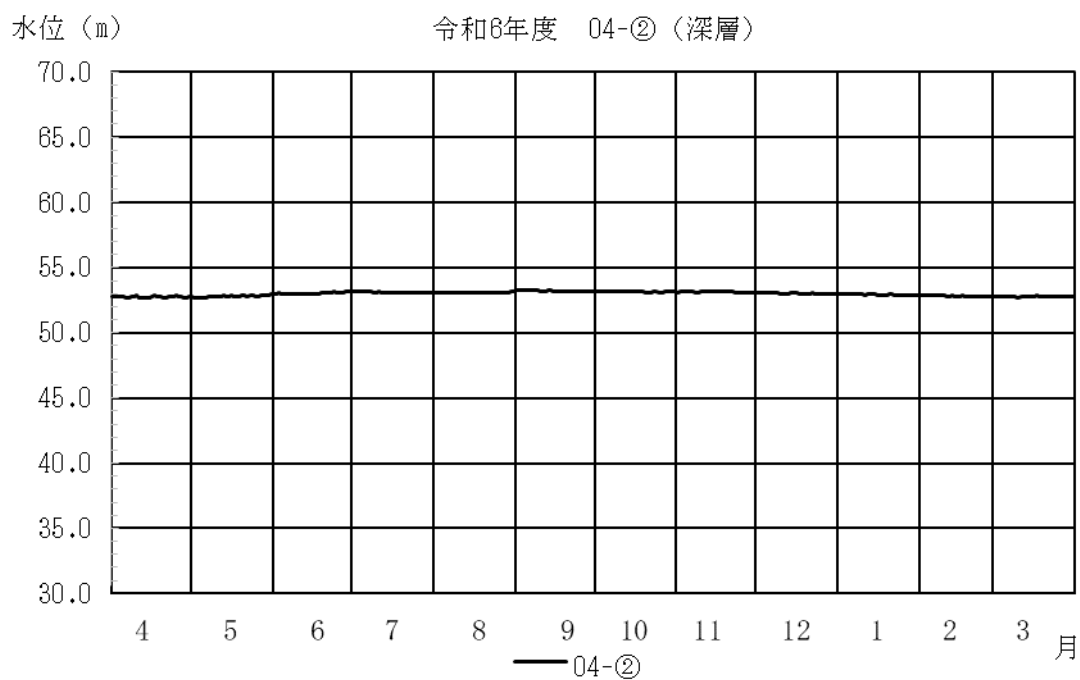
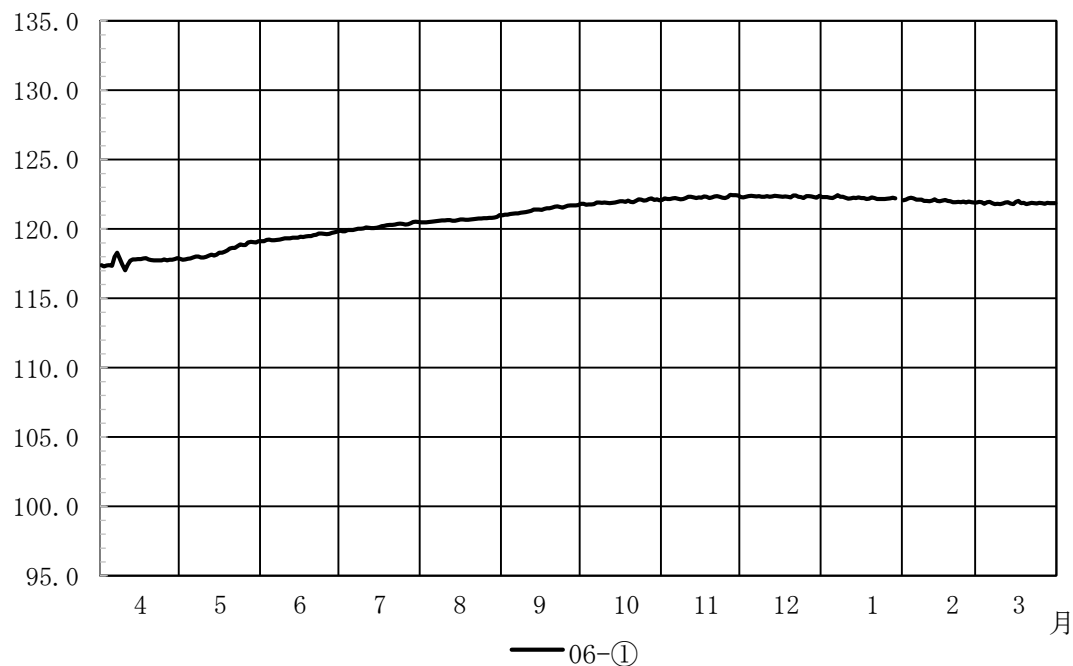


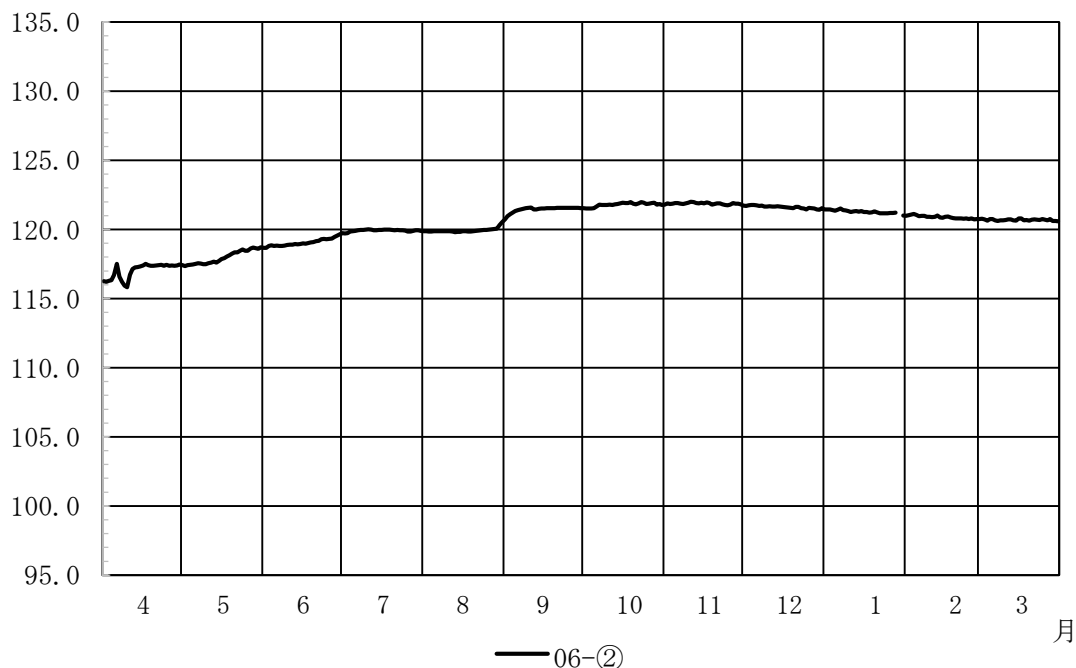
図 3-5-5-1 (13) 調査結果 (04 片平 (深層))

水位 (m) 2024年度 06-① (浅層)



注1：2023年度から実施していた揚水完了後（2024年4月中旬以降）の復水により、2024年10月頃まで水位が上昇傾向にあったが、その後は安定している。
 注2：2025年1月に、水質調査に伴い地下水を採取したため、一時的に欠測となった。

水位 (m) 2024年度 06-② (浅層)

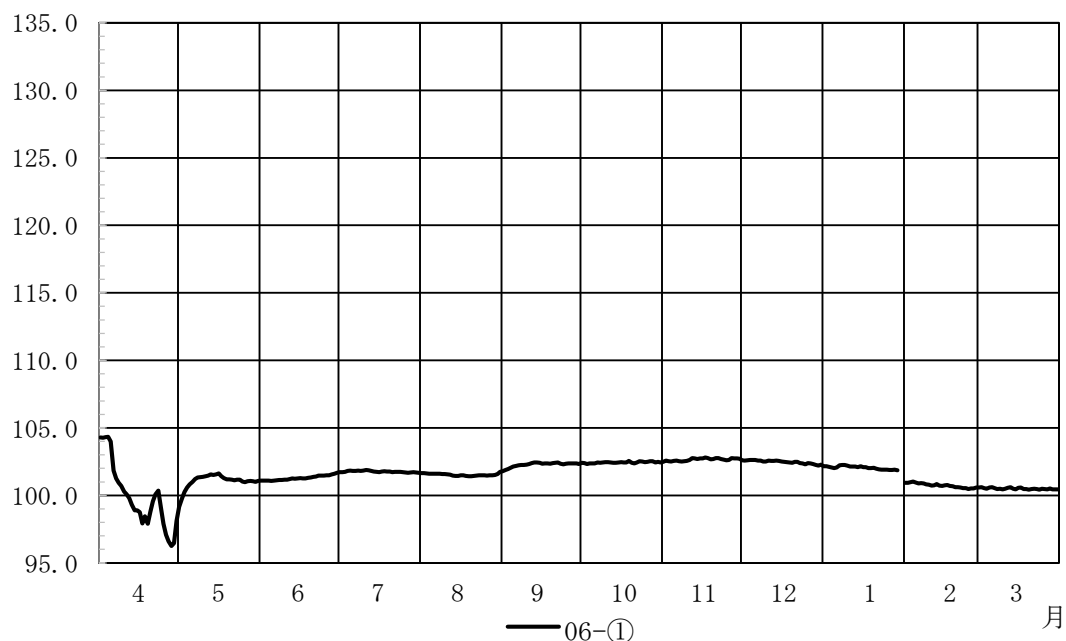


注1：2023年度から実施していた揚水完了後（2024年4月中旬以降）の復水により、2024年10月頃まで水位が上昇傾向にあったが、その後は安定している。
 注2：2025年1月に、水質調査に伴い地下水を採取したため、一時的に欠測となった。

図 3-5-5-1(14) 調査結果 (06 上小山田 (浅層))

水位 (m)

2024年度 06-① (深層)



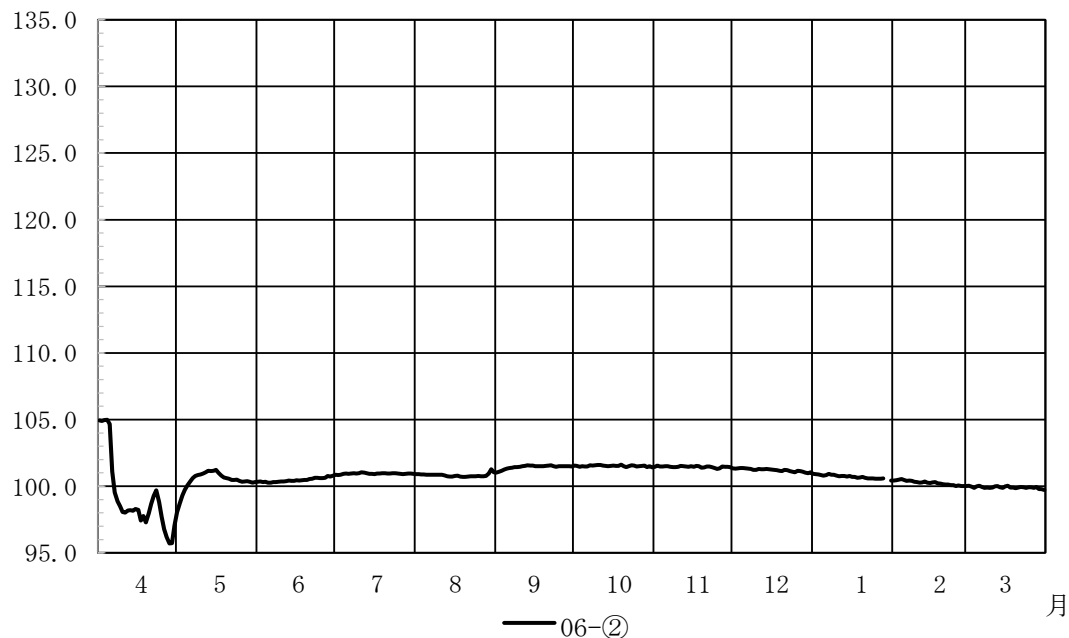
注1：2023年度末に水位の上昇が確認されたものの、2024年4月上旬に、ケーソン函内の圧気を終了した際、一時的な水位低下が確認された。

注2：2024年4月中旬から下旬に、底板部の補修に伴う揚水作業のため、一時的な水位の変動が確認された。

注3：2025年1月に、水質調査に伴い地下水を採取したため、一時的に欠測となった。

水位 (m)

2024年度 06-② (深層)



注1：2023年度末に水位の上昇が確認されたものの、2024年4月上旬に、ケーソン函内の圧気を終了した際、一時的な水位低下が確認された。

注2：2024年4月中旬から下旬に、底板部の補修に伴う揚水作業のため、一時的な水位の変動が確認された。

注3：2025年1月に、水質調査に伴い地下水を採取したため、一時的に欠測となった。

図 3-5-5-1(15) 調査結果 (06 上小山田 (深層))

3-6 水資源（地下駅、非常口（都市部）及び地下変電所）

水資源（井戸）について、工事中及び工事完了後のモニタリングを実施した。

3-6-1 調査項目

調査項目は、自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素）及び水素イオン濃度（pH）の状況とした。

3-6-2 調査方法

調査方法は、表 3-6-2-1 に示すとおりである。

表 3-6-2-1 調査方法

調査項目		調査方法
自然由来の重金属等	カドミウム	「建設工事における自然由来重金属等含有岩石・土壌への対応マニュアル（2023 年度版）」（令和 5 年 3 月、建設工事における自然由来重金属等含有土砂への対応マニュアル検討委員会）に定める測定方法に準拠する。
	六価クロム	
	水銀	
	セレン	
	鉛	
	ヒ素	
	ふっ素	
	ほう素	
水素イオン濃度 (pH)		「地下水調査および観測指針（案）」（1993 年 3 月、建設省河川局監修）に準拠する。

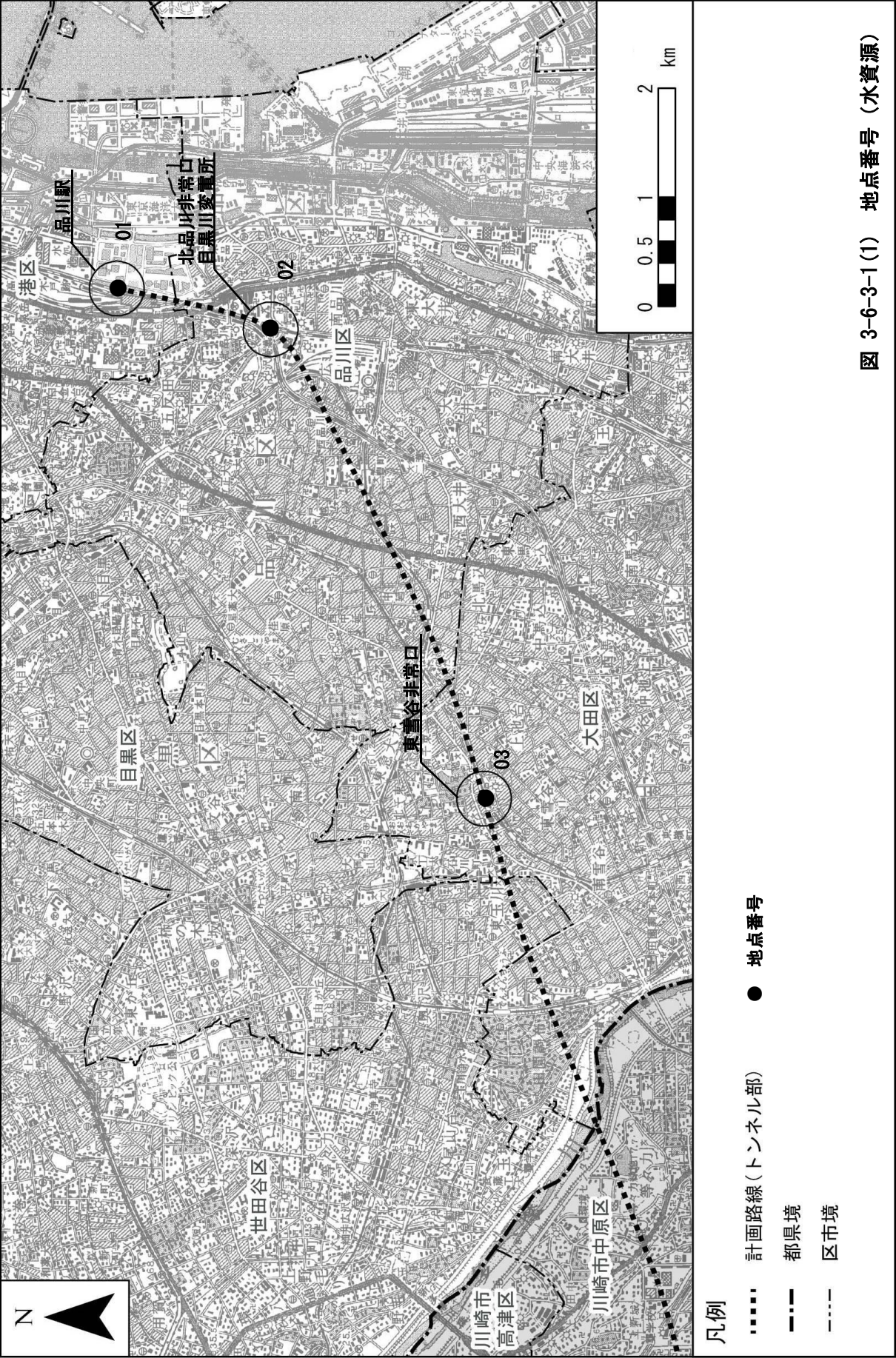
3-6-3 調査地点

調査地点は、表 3-6-3-1、図 3-6-3-1 及び図 3-6-3-2 に示すとおりである。

表 3-6-3-1 調査地点

地点※ 番号	区市名	所在地	実施箇所	調査地点		調査項目
01	港区	港南	品川駅	01-①	浅層	自然由来の重金属等 水素イオン濃度 (pH)
					深層	
				01-②	浅層	
					深層	
02	品川区	北品川	北品川非常口 目黒川変電所	02-①	浅層	
					深層	
				02-②	浅層	
					深層	
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口	03-①	浅層	
					深層	
				03-②	浅層	
					深層	
04	川崎市 麻生区	片平	片平非常口	04-① 04-①'	浅層	
					深層	
				04-②	浅層	
					深層	
06	町田市	上小山田町	上小山田非常口	06-①	浅層	
					深層	
				06-②	浅層	
					深層	

※：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。



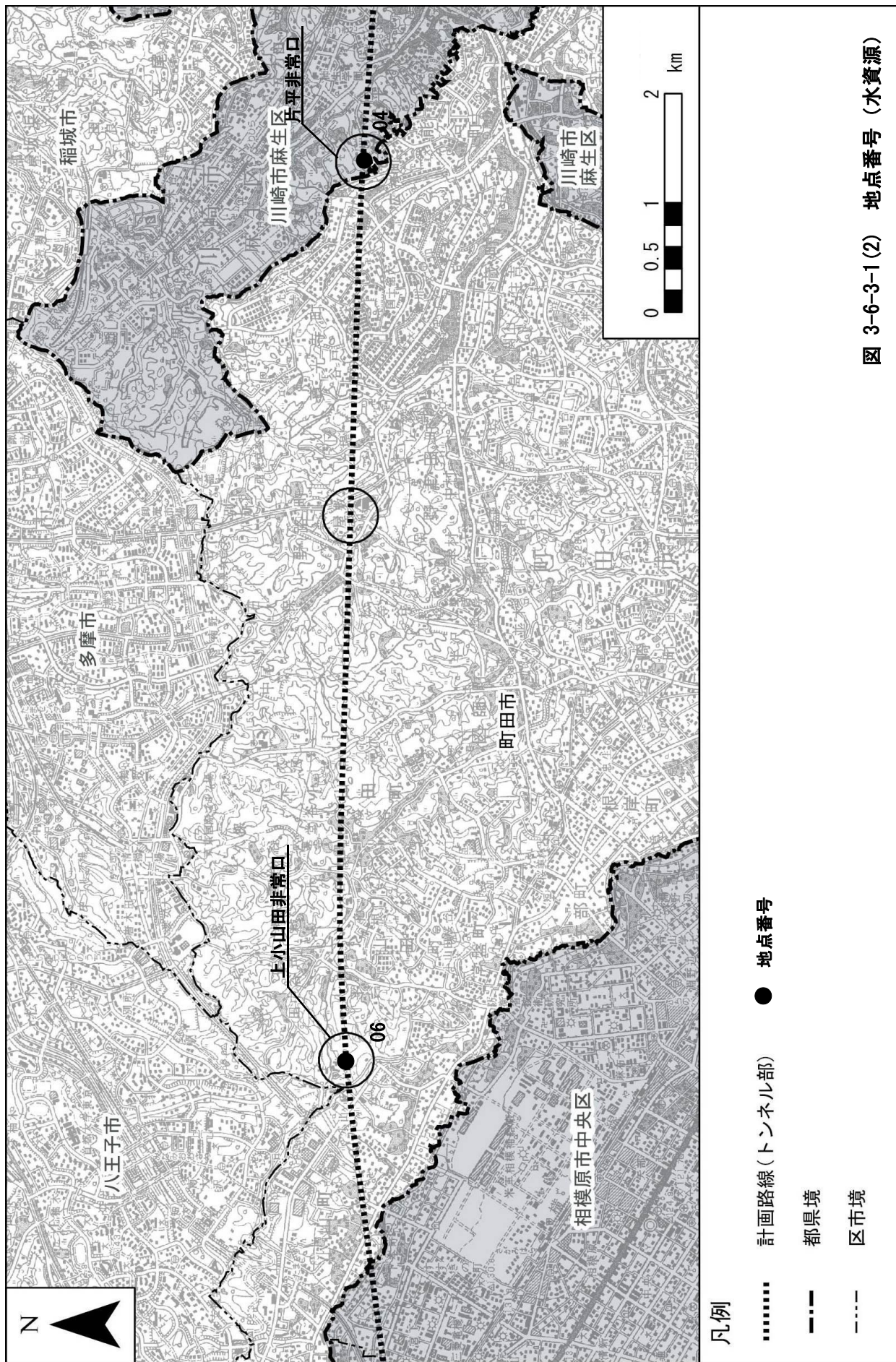


図 3-6-3-1 (2) 地点番号 (水資源)

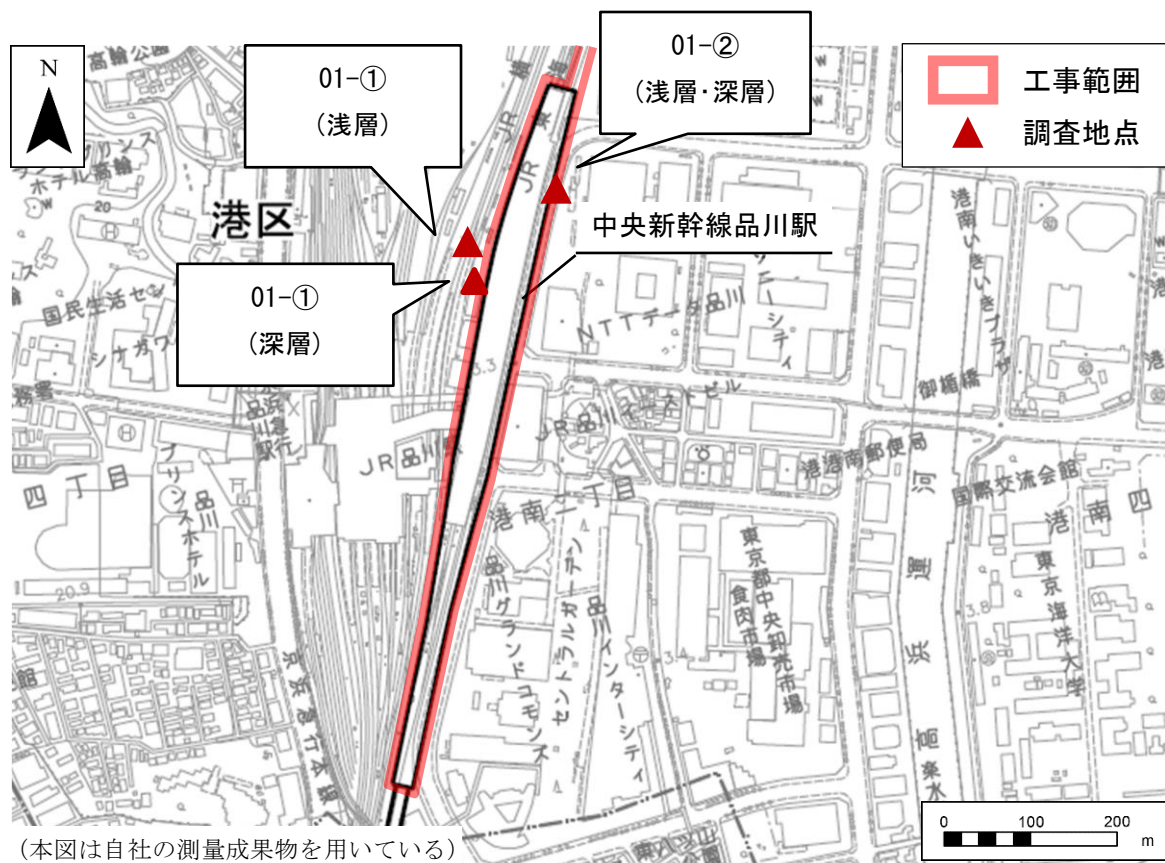


図 3-6-3-2(1) 調査地点（水資源）（01 品川駅）

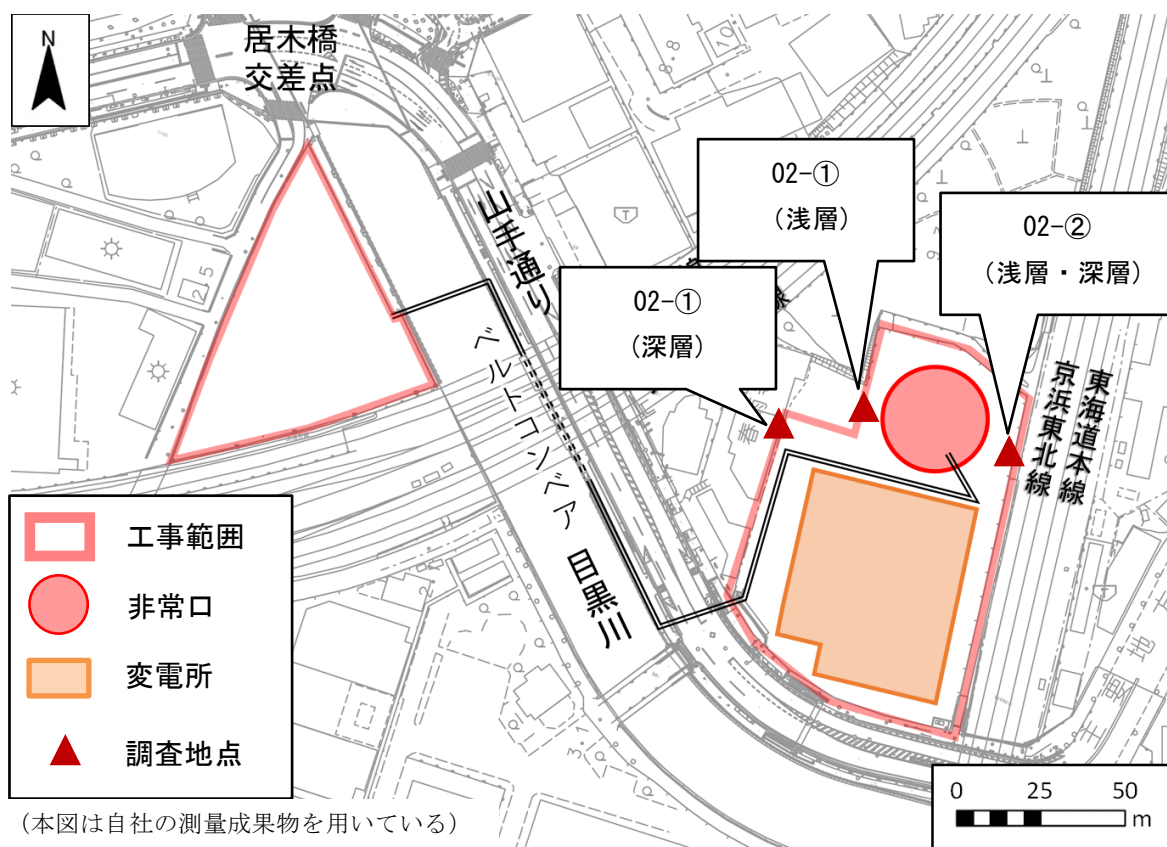


図 3-6-3-2(2) 調査地点（水資源）（02 北品川）

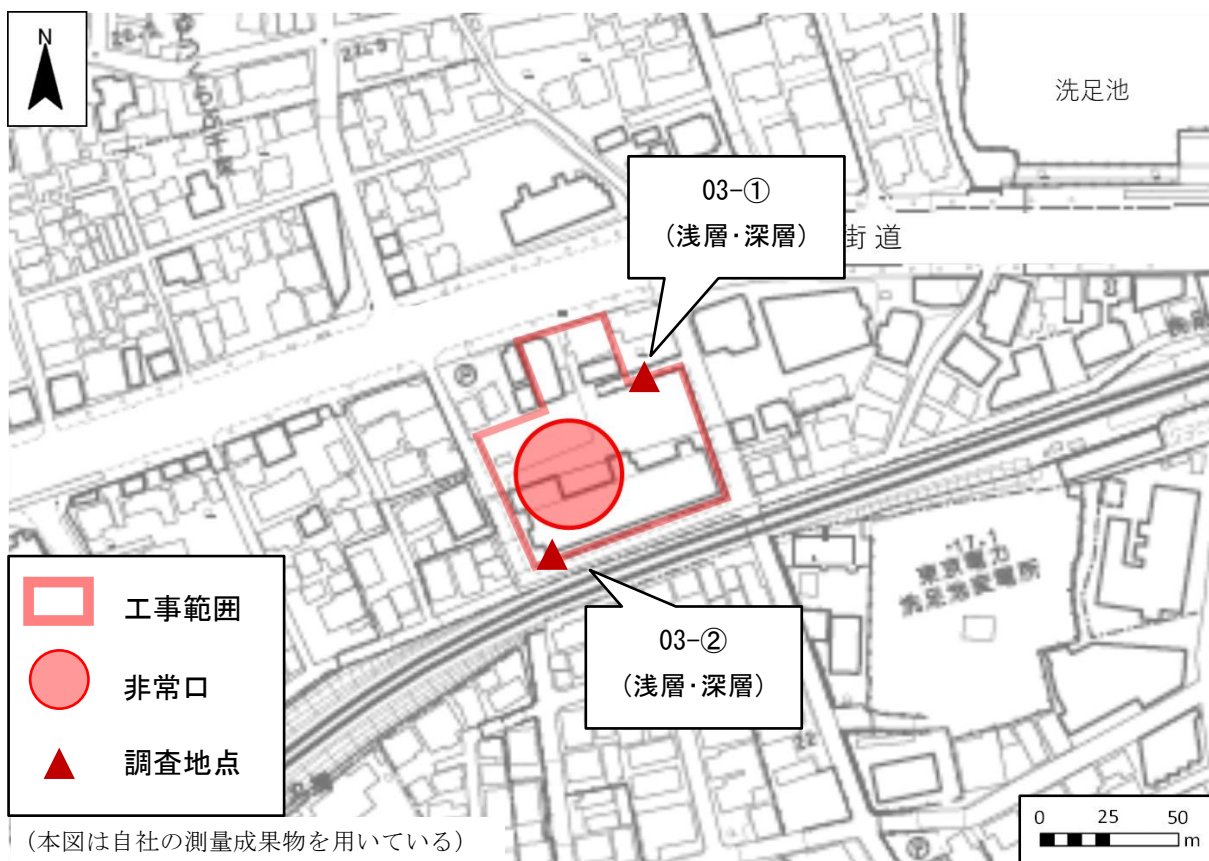
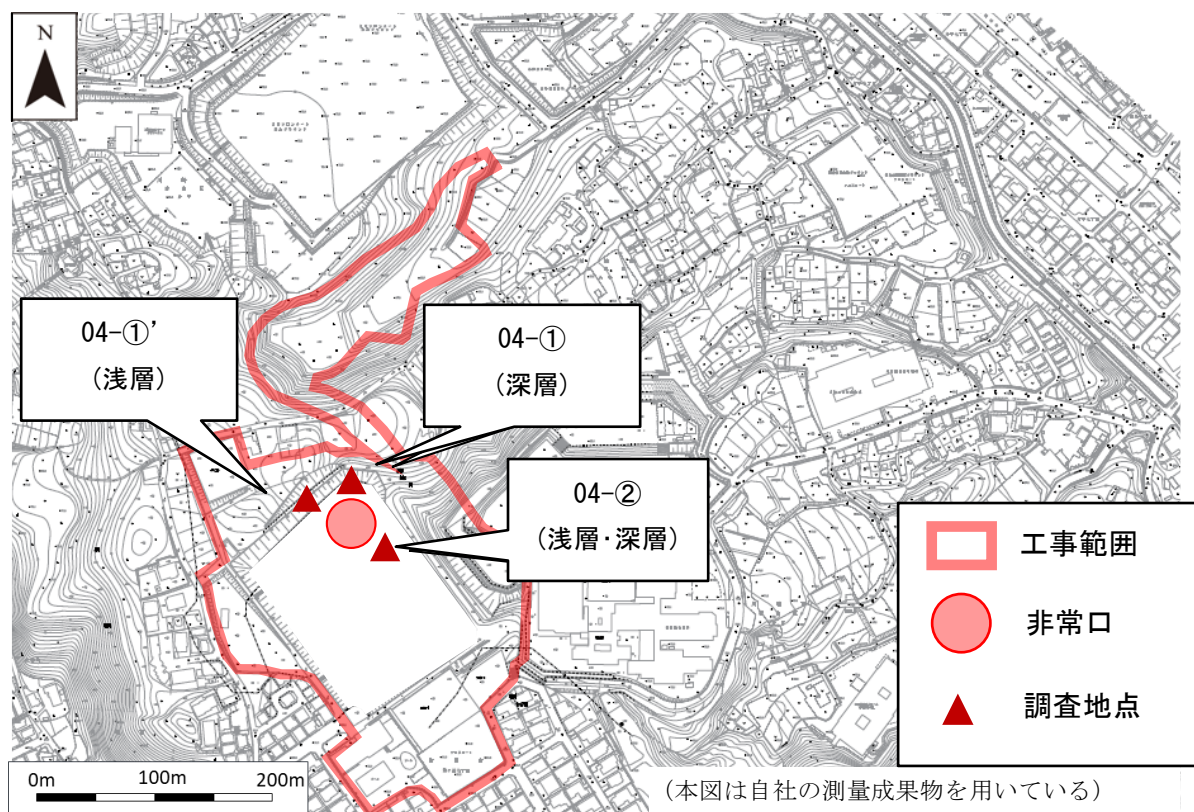


図 3-6-3-2(3) 調査地点（水資源）（03 東雪谷）



注：薬液注入工の影響により、2024年5月に04-①（浅層）から04-①'（浅層）へ盛替えを実施した。

図 3-6-3-2(4) 調査地点（水資源）（04 片平）

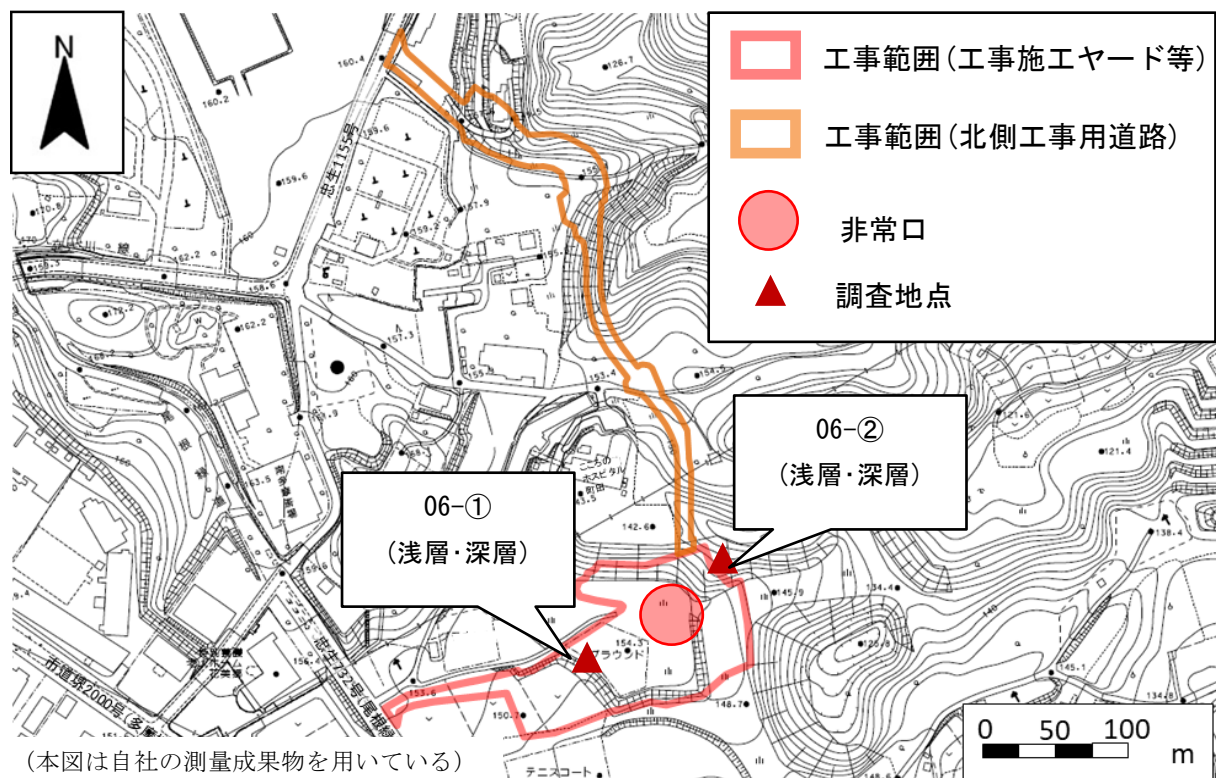


図 3-6-3-2(5) 調査地点（水資源）（06 上小山田）

3-6-4 調査期間

調査期間は、表 3-6-4-1 に示すとおりである。

表 3-6-4-1 調査期間

地点番号	調査地点	調査項目	実施時期の種別	調査日
01	01-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度(pH)	地下工事中	2025年1月21日(浅層)
				2025年1月21日(深層)
	01-②			2025年1月22日(浅層)
				2025年1月22日(深層)
02	02-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度(pH)	地下工事完了後	2025年1月24日(浅層)
				2025年1月24日(深層)
	02-②			2025年1月24日(浅層)
				2025年1月24日(深層)
03	03-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度(pH)	地下工事中	2025年2月28日(浅層)
				2025年2月28日(深層)
	03-②			2025年2月27日(浅層)
				2025年2月27日(深層)
04	04-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度(pH)	地下工事中	2025年1月22日(浅層)
	04-①'			2025年1月22日(深層)
	04-②			2025年1月22日(浅層)
				2025年1月23日(深層)
06	06-①	自然由来の重金属等 水素イオン濃度(pH)	地下工事完了後	2025年1月31日(浅層)
				2025年1月31日(深層)
	06-②			2025年1月30日(浅層)
				2025年1月30日(深層)

3-6-5 調査結果

調査結果は、表 3-6-5-1 に示すとおりである。

自然由来の重金属等について、調査地点 02-①の観測井でヒ素が環境基準の値を上回っていた。その他の地点においては、いずれも環境基準の値に適合していた。

表 3-6-5-1(1) 調査結果 (01 品川駅)

調査項目		調査地点				環境基準※
		01-①		01-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L 以下
	ヒ素	<0.002	0.002	0.002	<0.002	0.01mg/L 以下
	ふっ素	<0.1	<0.1	0.4	<0.1	0.8mg/L 以下
	ほう素	0.1	0.3	0.2	0.3	1mg/L 以下
水素イオン濃度 (pH)		7.6	8.3	7.9	7.8	—

注：「<」は未満を示す。

※：「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年3月13日、環境庁告示第10号）

表 3-6-5-1(2) 調査結果 (02 北品川)

調査項目		調査地点				環境基準※
		02-①		02-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	0.002	0.002	<0.001	0.002	0.01mg/L 以下
	ヒ素	0.013	0.001	0.004	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素	0.6	0.5	0.2	<0.2	0.8mg/L 以下
	ほう素	0.6	0.8	<0.2	0.3	1mg/L 以下
水素イオン濃度 (pH)		8.3	8.1	7.4	7.8	—

注：「<」は未満を示す。

※：「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年3月13日、環境庁告示第10号）

表 3-6-5-1 (3) 調査結果 (03 東雪谷)

調査項目		調査地点				環境基準※
		03-①		03-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素	<0.001	<0.001	<0.001	0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	0.8mg/L 以下
	ほう素	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	1mg/L 以下
水素イオン濃度 (pH)		6.9	6.9	6.8	8.1	—

注：「<」は未満を示す。

※：「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年3月13日、環境庁告示第10号）

表 3-6-5-1(4) 調査結果 (04 片平)

調査項目		調査地点				環境基準※
		04-①’	04-①	04-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	<0.001	0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素	0.001	0.003	<0.001	0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素	<0.08	0.12	<0.08	0.18	0.8mg/L 以下
	ほう素	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1	1mg/L 以下
水素イオン濃度 (pH)		6.7	7.0	6.4	7.8	—

注：「<」は未満を示す。

※：「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成 9 年 3 月 13 日、環境庁告示第 10 号）

表 3-6-5-1 (5) 調査結果 (06 上小山田)

調査項目		調査地点				環境基準※
		06-①		06-②		
		浅層	深層	浅層	深層	
自然由来の 重金属等	カドミウム	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L 以下
	六価クロム	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.02mg/L 以下
	水銀	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L 以下
	セレン	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	鉛	0.002	0.009	0.006	0.001	0.01mg/L 以下
	ヒ素	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下
	ふっ素	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	0.8mg/L 以下
	ほう素	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	1mg/L 以下
水素イオン濃度 (pH)		7.0	7.6	7.3	8.4	—

注：「<」は未満を示す。

※：「地下水の水質汚濁に係る環境基準について」（平成9年3月13日、環境庁告示第10号）

3-7 地盤沈下

工事実施箇所周辺における地盤沈下について、工事中及び工事完了後のモニタリングを実施した。

3-7-1 調査項目

調査項目は、地盤の高さとした。

3-7-2 調査方法

調査方法は、工事前に地下駅、非常口（都市部）及び地下変電所周辺に設置した測量標を用いた水準測量とした。

3-7-3 調査地点

調査地点は、表 3-7-3-1、図 3-7-3-1 及び図 3-7-3-2 に示すとおりである。

表 3-7-3-1 調査地点

地点※ 番号	区市名	所在地	実施箇所	調査地点
01	港区	港南	品川駅	01-①
				01-②
				01-③
02	品川区	北品川	北品川非常口 目黒川変電所	02-③
				02-⑤
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口	03-②
				03-③
04	川崎市 麻生区	片平	片平非常口	04-①
06	町田市	上小山田町	上小山田非常口	06-①
				06-③

※：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

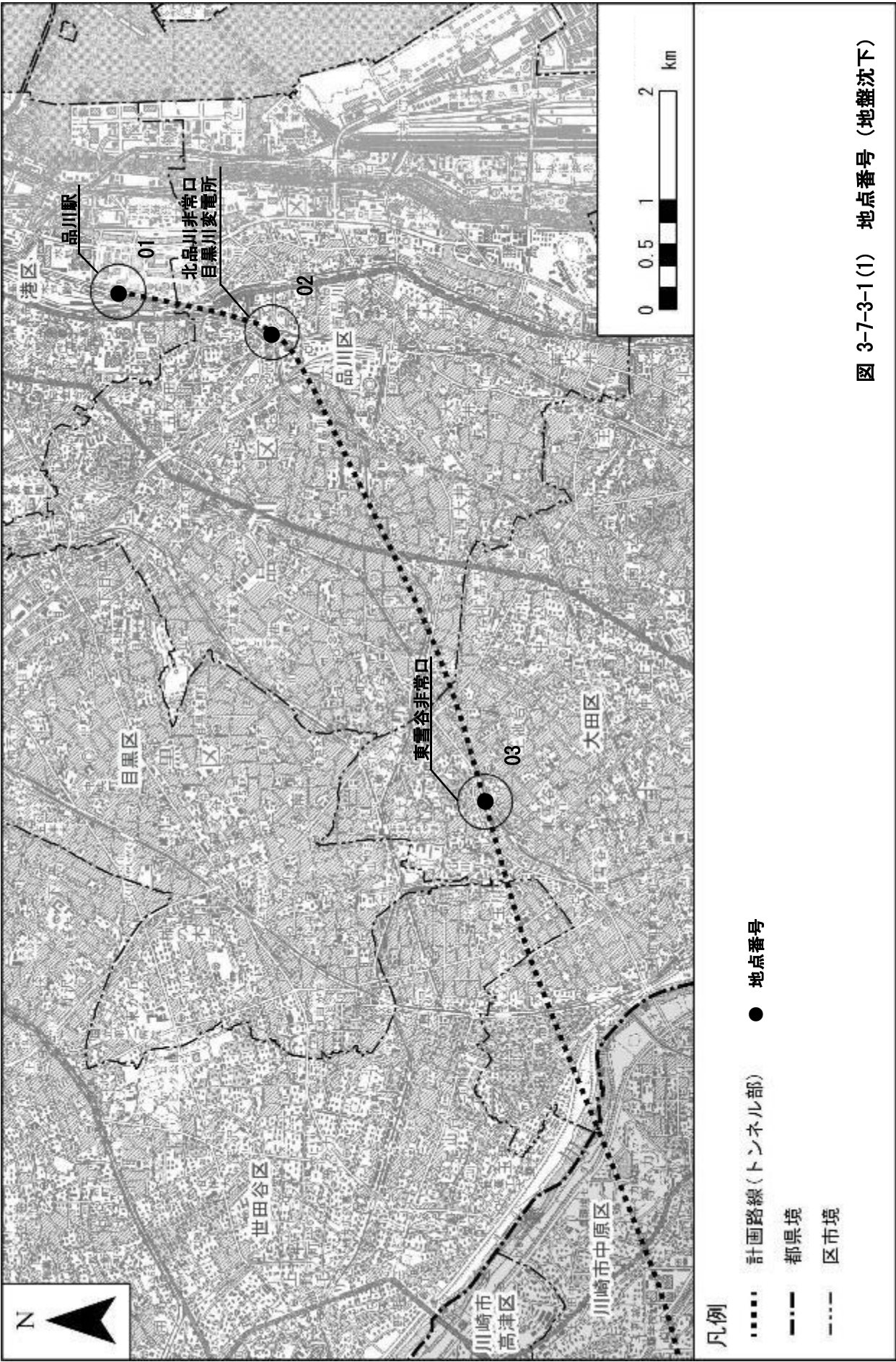
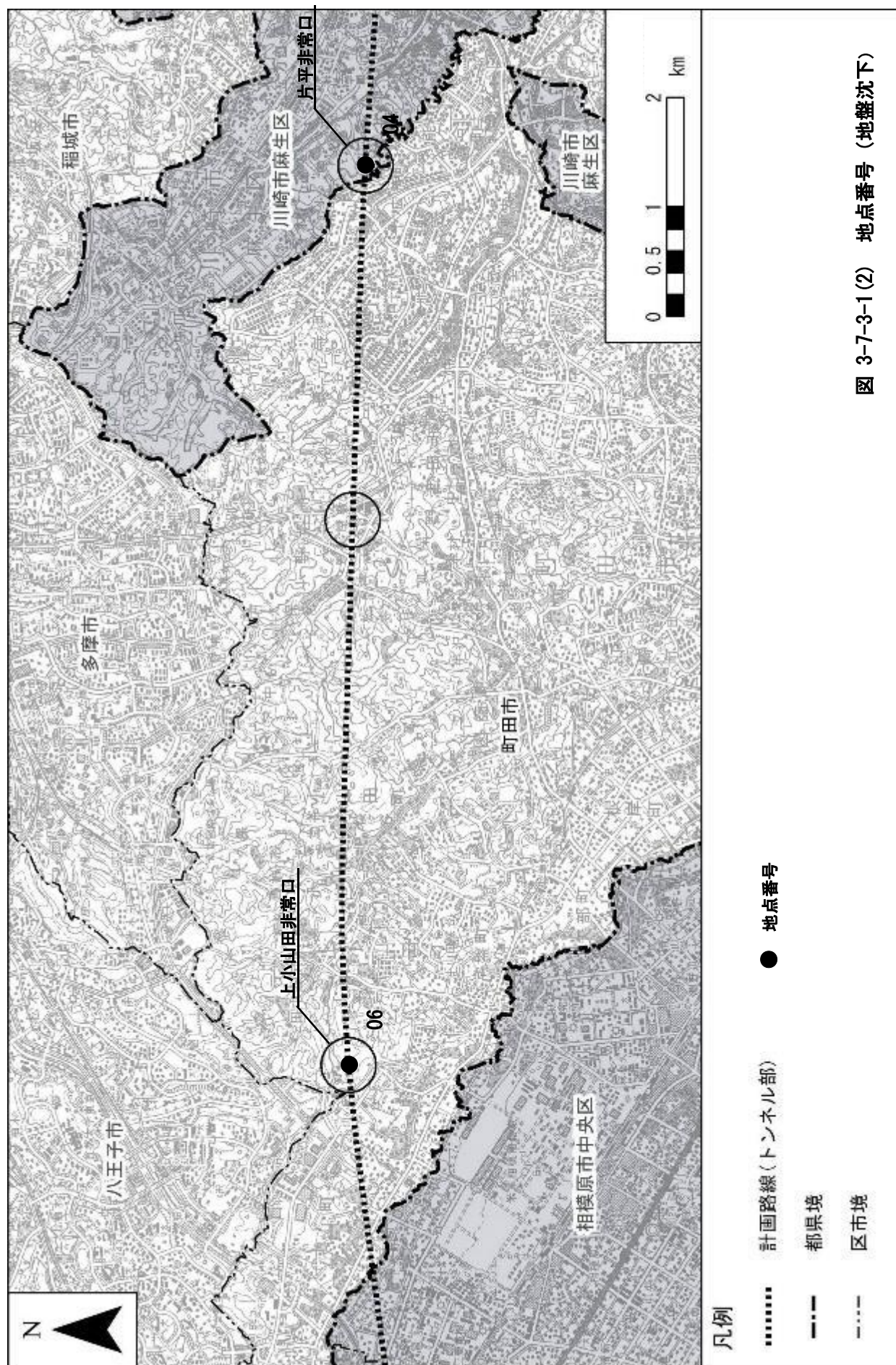
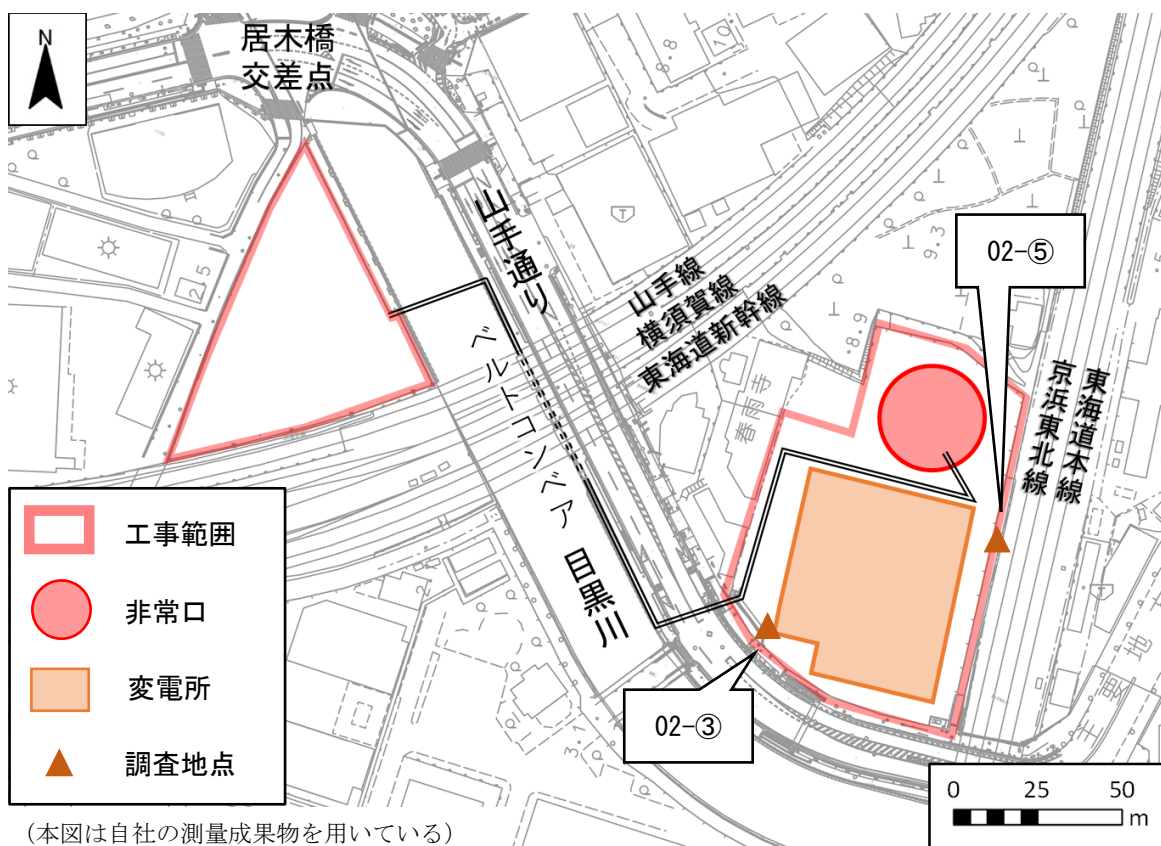
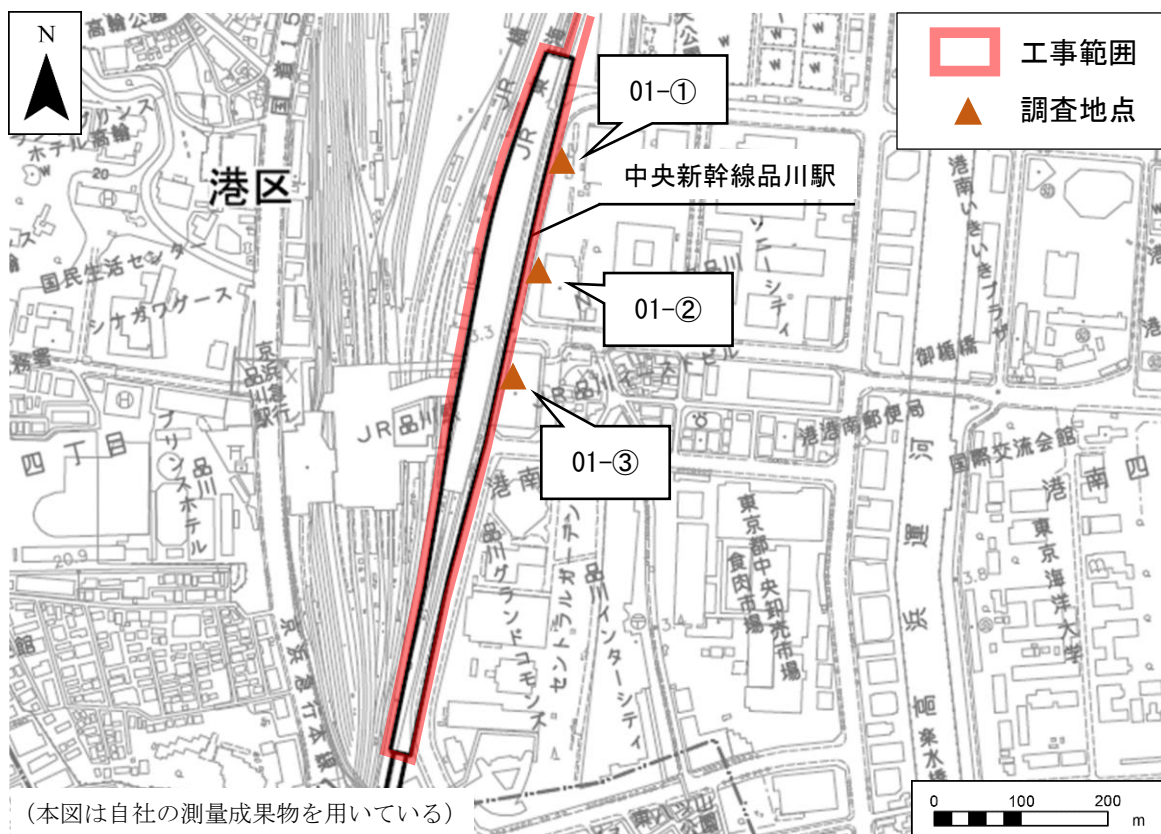


図 3-7-3-1(1) 地点番号 (地盤沈下)





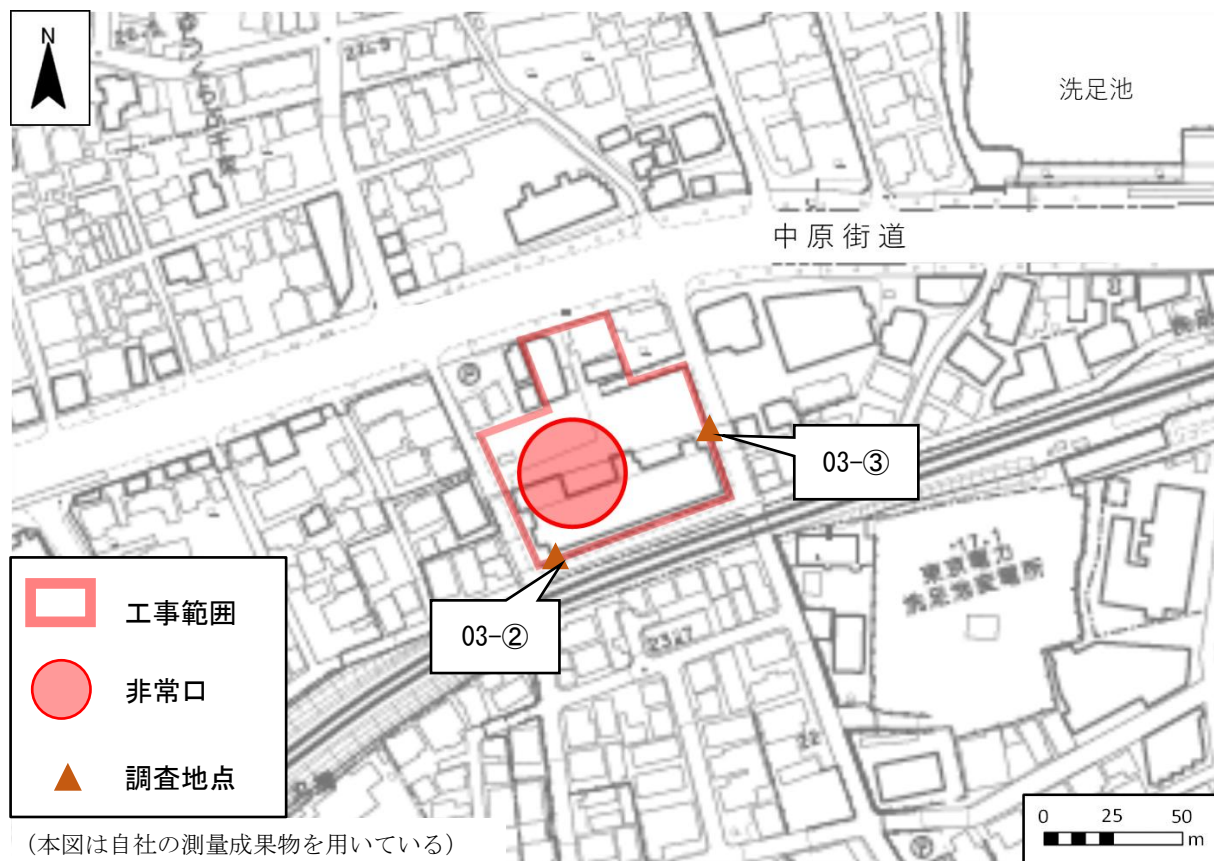


図 3-7-3-2(3) 調査地点（地盤沈下）（03 東雪谷）

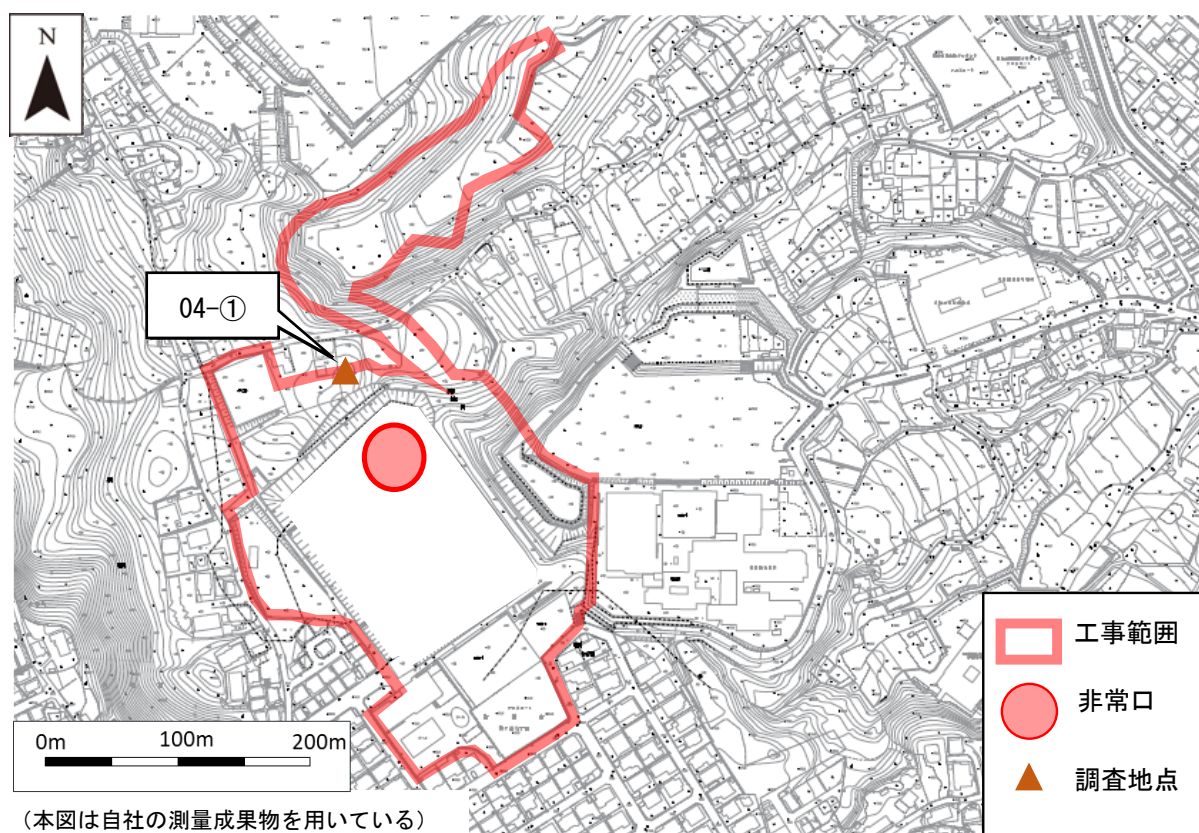


図 3-7-3-2(4) 調査地点（地盤沈下）（04 片平）

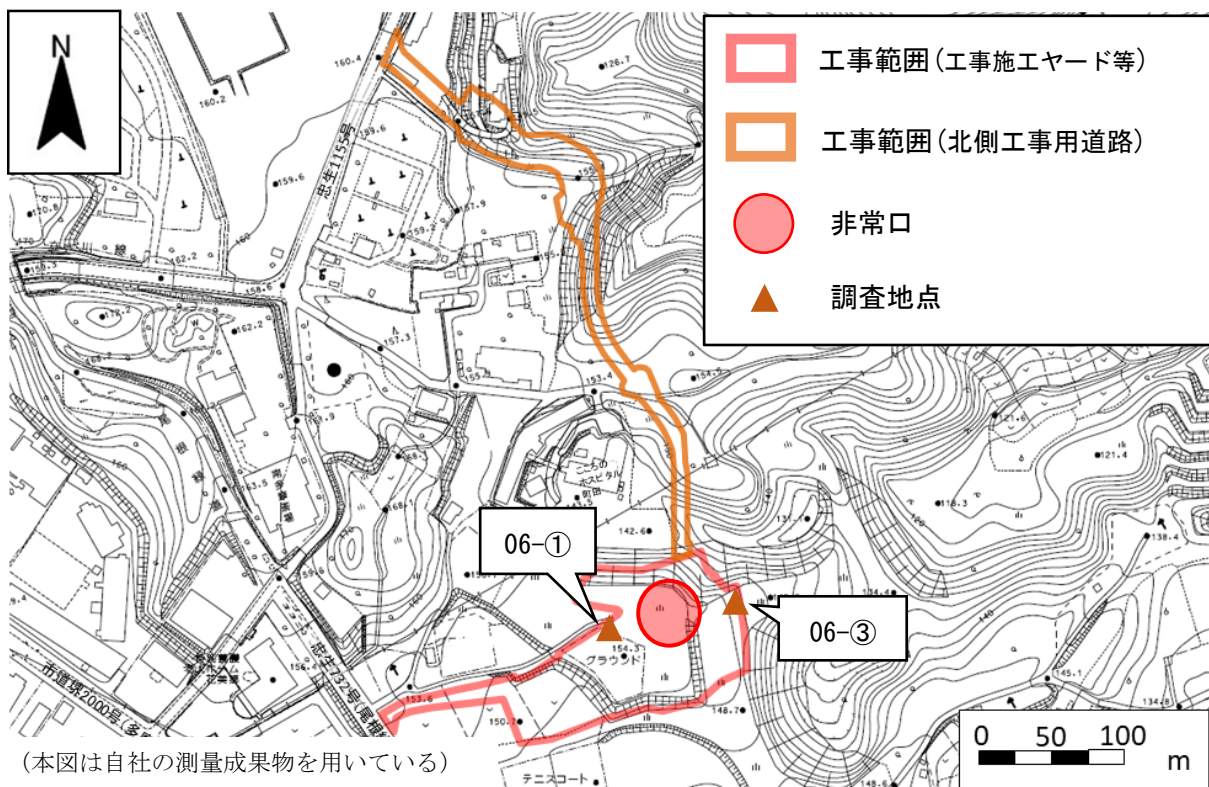


図 3-7-3-2(5) 調査地点(地盤沈下) (06 上小山田)

3-7-4 調査期間

調査期間は、表 3-7-4-1 に示すとおりである。

表 3-7-4-1(1) 調査期間

地点 番号	調査 地点	実施時期 の種別	調査期間
01	01-①	地下工事中	2024 年 4 月 15 日
			2024 年 5 月 10 日
			2024 年 6 月 17 日
			2024 年 7 月 17 日
			2024 年 8 月 27 日
			2024 年 9 月 26 日
			2024 年 10 月 25 日
			2024 年 11 月 29 日
			2024 年 12 月 20 日
	01-②	地下工事中	2025 年 1 月 22 日
			2025 年 2 月 26 日
			2025 年 3 月 26 日
			2024 年 4 月 3 日
			2024 年 5 月 9 日
			2024 年 6 月 5 日
			2024 年 7 月 1 日
			2024 年 8 月 2 日
			2024 年 9 月 13 日
	01-③	地下工事中	2024 年 10 月 2 日
			2024 年 11 月 11 日
			2024 年 12 月 9 日
			2025 年 1 月 16 日
			2025 年 2 月 6 日
			2025 年 3 月 19 日
			2024 年 4 月 10 日
			2024 年 5 月 9 日
			2024 年 6 月 10 日
	01-④	地下工事中	2024 年 7 月 18 日
			2024 年 8 月 20 日
			2024 年 9 月 5 日
			2024 年 10 月 10 日
			2024 年 11 月 15 日
			2024 年 12 月 12 日
			2025 年 1 月 6 日
			2025 年 2 月 6 日
			2025 年 3 月 3 日

表 3-7-4-1(2) 調査期間

地点 番号	調査 地点	実施時期 の種別	調査期間
02	02-③ 02-⑤	地下工事中	2024 年 4 月 2 日 2024 年 5 月 8 日 2024 年 6 月 5 日
		地下工事完了後	2024 年 7 月 4 日 2024 年 8 月 1 日 2024 年 9 月 3 日 2024 年 10 月 1 日 2024 年 11 月 6 日 2024 年 12 月 2 日 2025 年 1 月 6 日 2025 年 2 月 4 日 2025 年 3 月 5 日
03	03-② 03-③	地下工事中	2024 年 4 月 26 日 2024 年 5 月 31 日 2024 年 6 月 28 日 2024 年 7 月 31 日 2024 年 8 月 29 日 2024 年 9 月 30 日 2024 年 10 月 31 日 2024 年 11 月 30 日 2024 年 12 月 27 日 2025 年 1 月 31 日 2025 年 2 月 28 日 2025 年 3 月 27 日
04	04-①	地下工事中	2024 年 4 月 20 日 2024 年 5 月 31 日 2024 年 6 月 28 日 2024 年 7 月 29 日 2024 年 8 月 21 日 2024 年 9 月 27 日 2024 年 10 月 30 日 2024 年 11 月 28 日 2024 年 12 月 25 日 2025 年 1 月 31 日 2025 年 2 月 26 日 2025 年 3 月 26 日

表 3-7-4-1(3) 調査期間

地点 番号	調査 地点	実施時期 の種別	調査期間
06	06-① 06-③	地下工事中	2024 年 4 月 26 日 2024 年 5 月 30 日
		地下工事完了後	2024 年 6 月 27 日 2024 年 7 月 26 日 2024 年 8 月 30 日 2024 年 9 月 27 日 2024 年 10 月 25 日 2024 年 11 月 20 日 2024 年 12 月 23 日 2025 年 1 月 28 日 2025 年 2 月 26 日 2025 年 3 月 28 日

3-7-5 調査結果

調査結果は、図 3-7-5-1に示すとおりである。なお、地盤高は東京湾平均海面（T.P.）を0mとした場合の高さを示す。

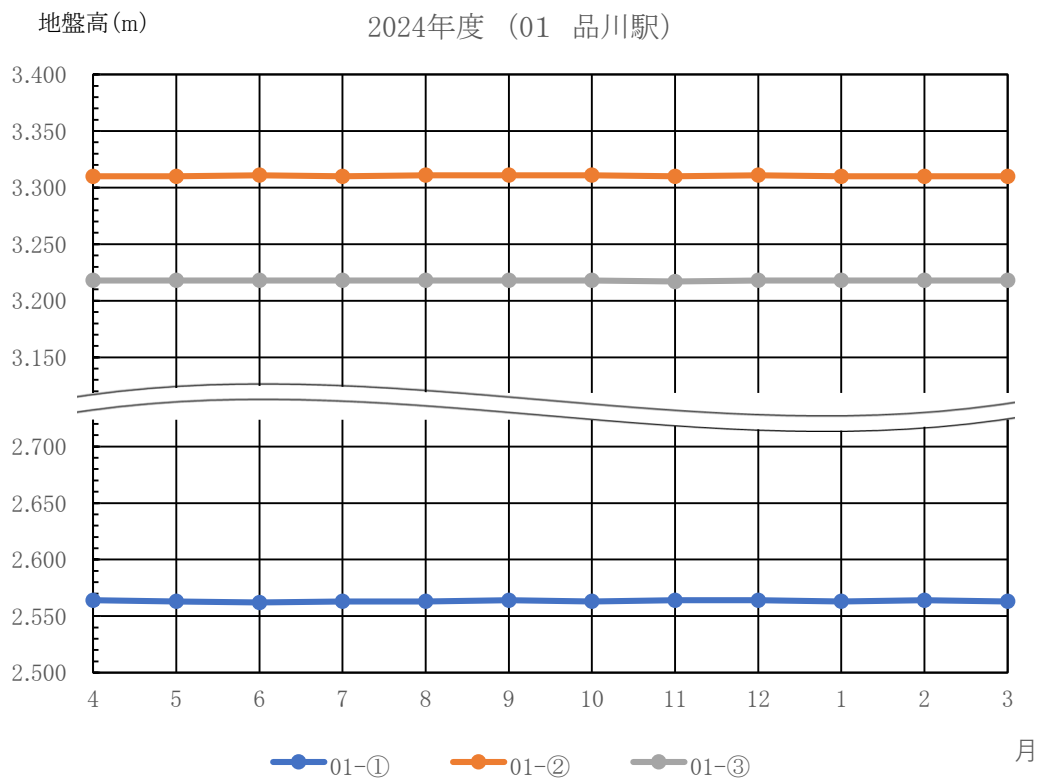


図 3-7-5-1 (1) 調査結果 (01 品川駅)

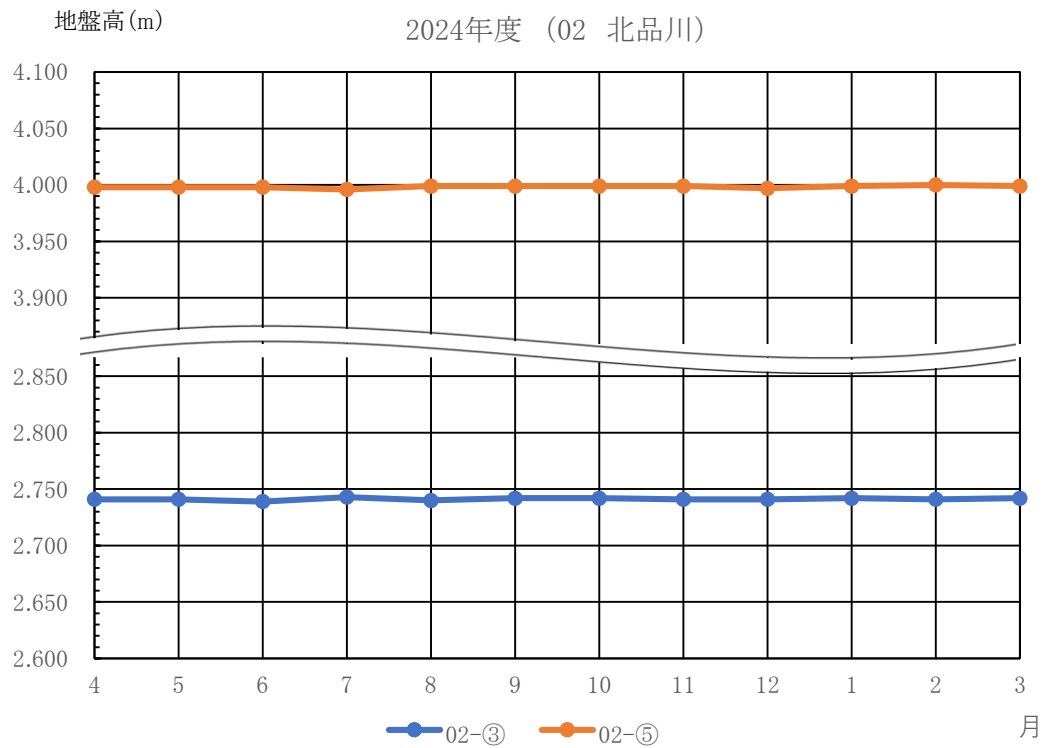


図 3-7-5-1 (2) 調査結果 (02 北品川)

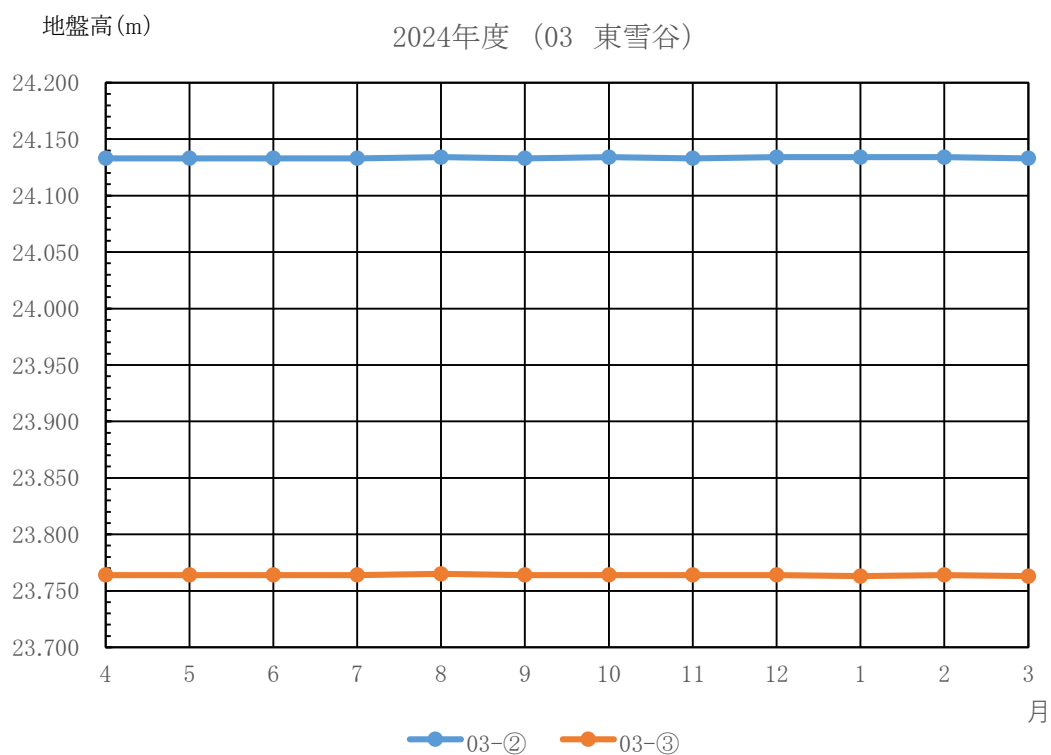


図 3-7-5-1 (3) 調査結果 (03 東雪谷)

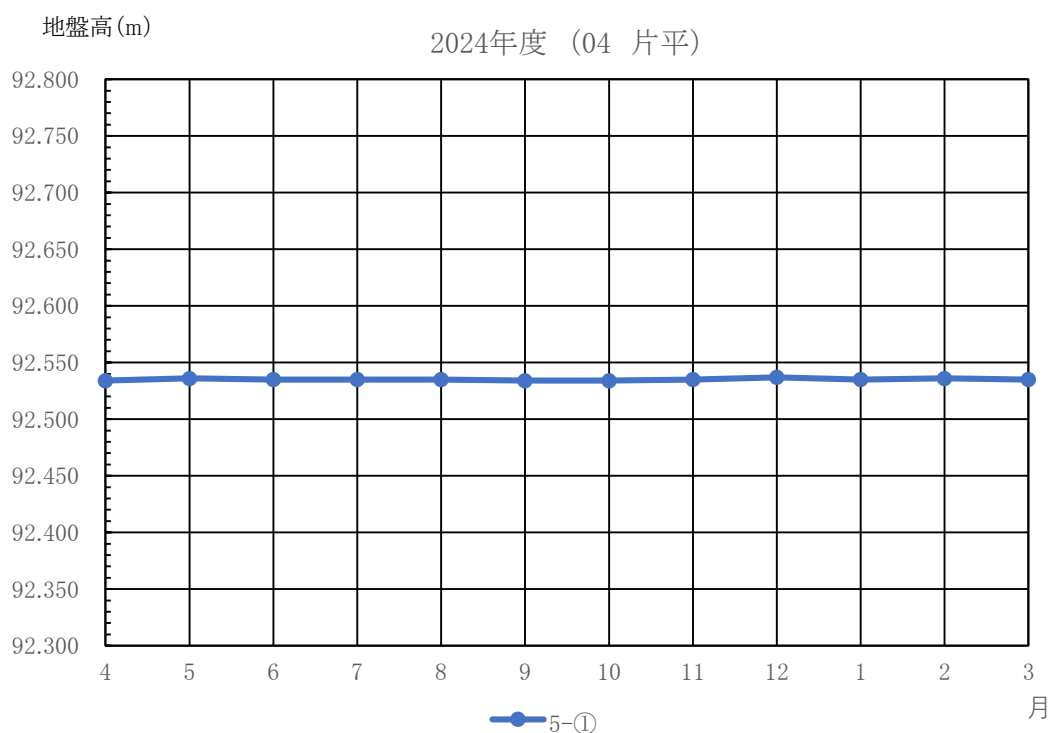


図 3-7-5-1 (4) 調査結果 (04 片平)

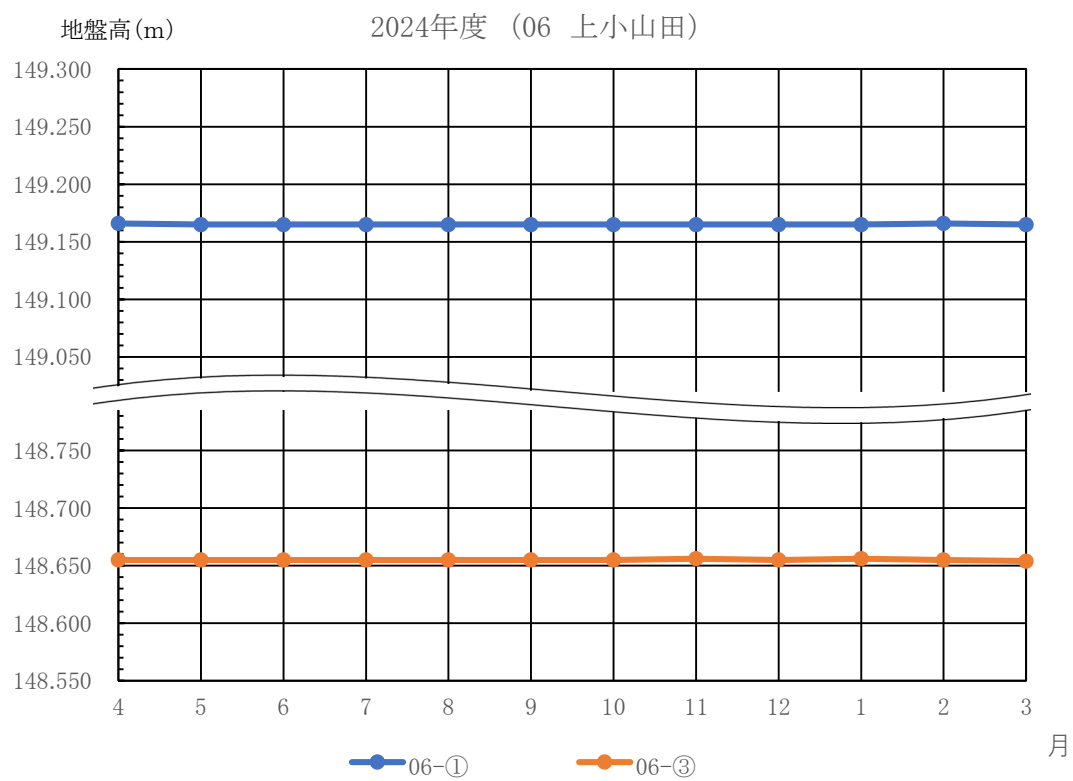


図 3-7-5-1 (5) 調査結果 (06 上小山田)

3-8 土壌汚染

工事実施箇所における発生土に係る土壌汚染について、工事前及び工事中のモニタリングを実施した。

3-8-1 調査項目

調査項目は、土壌汚染の状況（自然由来の重金属等（カドミウム、六価クロム、水銀、セレン、鉛、ヒ素、ふっ素、ほう素））とした。

3-8-2 調査方法

調査方法は、表 3-8-2-1 に示すとおりである。

表 3-8-2-1 調査方法

調査項目	地点番号	調査方法
土壌溶出量 （自然由来の重金属等）	01、02、04、05	「土壌溶出量調査に係る測定方法を定める件」（平成 15 年 3 月 6 日、環境省告示第 18 号）
	01、02、04、05	「海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律施行令第五条第一項に規定する埋立場所等に排出しようとする廃棄物に含まれる金属等の検定方法」（昭和 48 年 2 月 17 日、環境庁告示第 14 号）
土壌含有量 （自然由来の重金属等）	01、02、04、05	「土壌含有量調査に係る測定方法を定める件」（平成 15 年 3 月 6 日、環境省告示第 19 号）
	01、02、04、05	「底質調査方法」について」（平成 24 年 8 月 8 日、環水大 wat 第 120725002 号）

3-8-3 調査地点

調査地点は、表 3-8-3-1 及び図 3-8-3-1 に示すとおりである。

表 3-8-3-1 調査地点

地点※ 番号	区市名	所在地	実施箇所
01	港区	港南	品川駅
02	品川区	北品川	第一首都圏トンネル （北品川工区）
04	川崎市	片平	片平非常口
05	町田市	小野路町	第一首都圏トンネル （小野路工区）

※：地点番号は、評価書【東京都】に記載している地点番号と同じである。

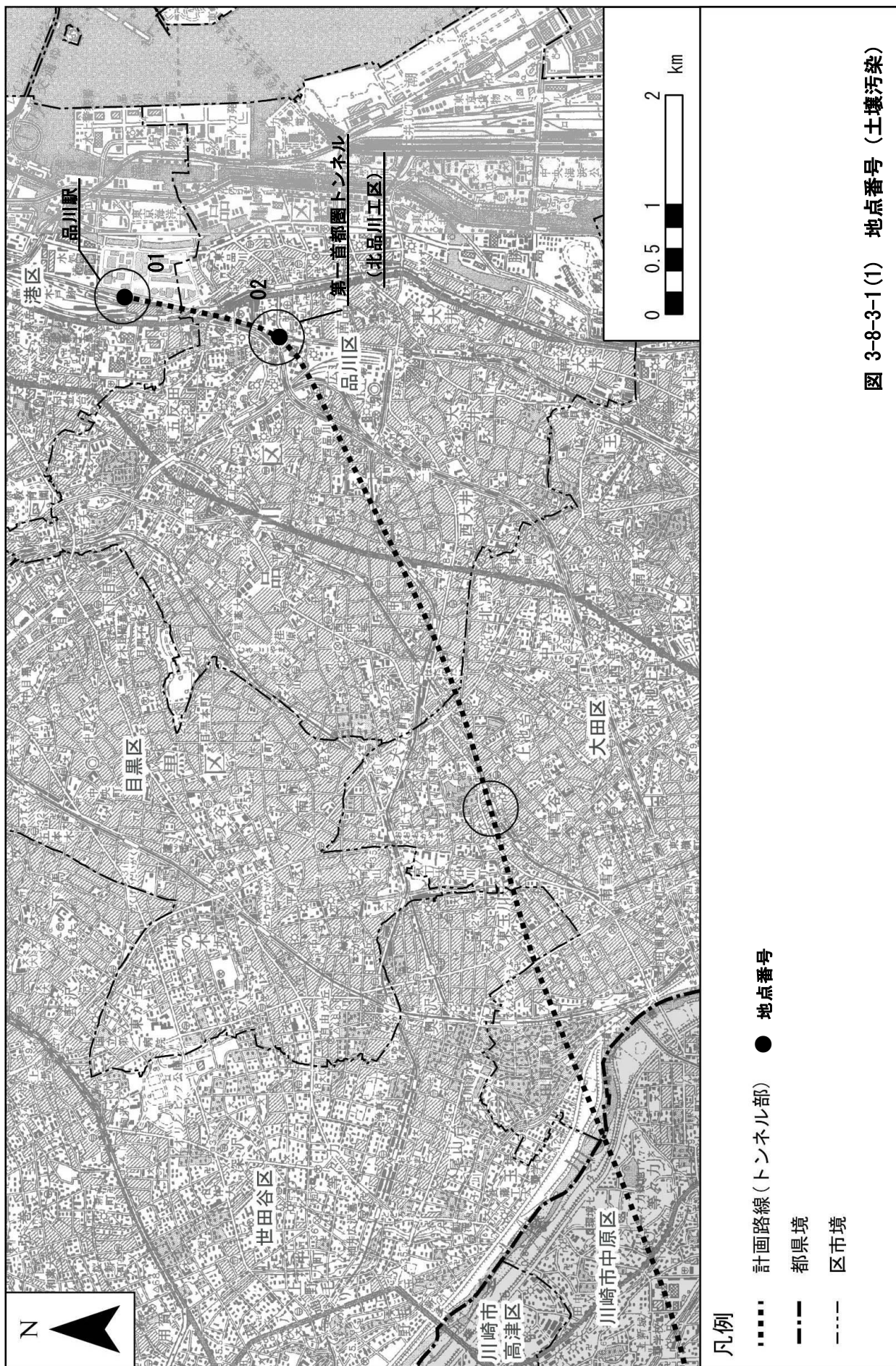


図 3-8-3-1 (1) 地点番号 (土壌汚染)

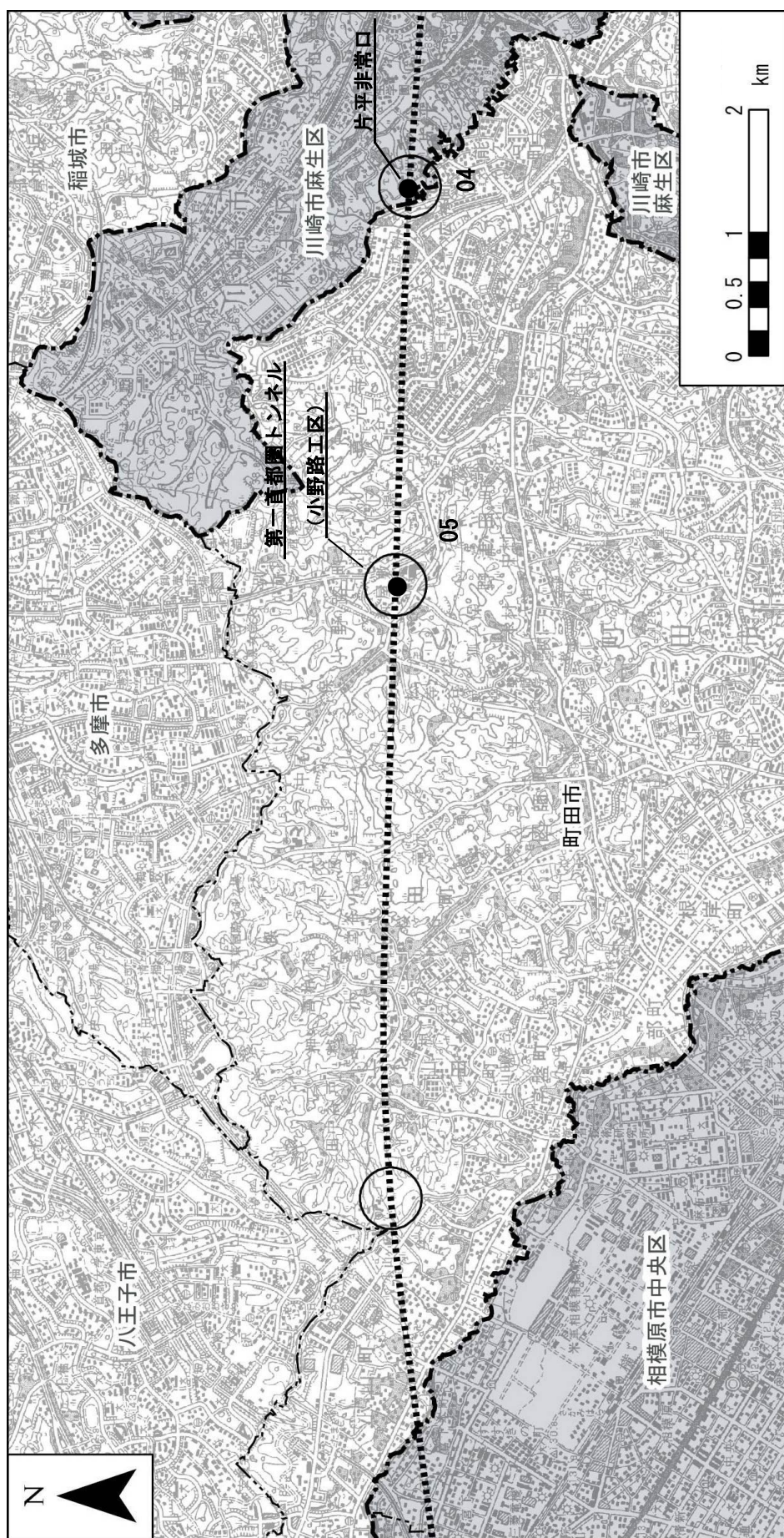


图 3-8-3-1(2) 地点番号 (土壤汚染)

3-8-4 調査期間

調査期間は、表 3-8-4-1 に示すとおりである。

表 3-8-4-1 調査期間

地点番号	調査項目	調査期間※
01	土壌溶出量 土壌含有量	2024 年 2 月 19 日、3 月 13 日
02	土壌溶出量 土壌含有量	2021 年 1 月 8 日
04	土壌溶出量 土壌含有量	2024 年 3 月 27 日
05	土壌溶出量 土壌含有量	2021 年 1 月 8 日

※：掘削前に採取した試料を用いて調査した。

3-8-5 調査結果

調査結果は、表 3-8-5-1、表 3-8-5-2 に示すとおりである。

いずれの調査地点において、全ての調査項目で受入先基準に適合していた。

なお、自然由来の重金属等の調査結果は当該月における最大値を記載した。

表 3-8-5-1(1)
自然由来の重金属等の受入先基準による溶出量試験結果(月別最大値)(地点番号 01)

調査時期	カドミウム	六価クロム	水銀	セレン	鉛	ヒ素	ふっ素	ほう素
	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
受入先基準 01	0.1	0.5	0.005	0.1	0.1	0.1	15	1
2024 年 2 月	<0.003	<0.02	<0.0005	<0.002	<0.005	0.003	1.0	0.1
2024 年 3 月	－	－	－	－	－	－	<1	－

注：「<」は未満を示す。

表 3-8-5-1(2)
自然由来の重金属等の受入先基準による溶出量試験結果(月別最大値)(地点番号 02)

調査時期	カドミウム	六価クロム	水銀	セレン	鉛	ヒ素	ふっ素	ほう素
	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
受入先基準 02	0.1	0.5	0.005	0.1	0.1	0.1	15	1
2021 年 1 月	<0.001	<0.02	<0.0005	0.013	<0.005	0.08	0.2	<0.2

注：「<」は未満を示す。

表 3-8-5-1(3)
自然由来の重金属等の受入先基準による溶出量試験結果(月別最大値)(地点番号 04)

調査時期	カドミウム	六価クロム	水銀	セレン	鉛	ヒ素	ふっ素	ほう素
	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
受入先基準 04	0.003	0.05	0.0005	0.01	0.01	0.01	0.8	1
2024 年 3 月	<0.0003	<0.005	<0.0005	<0.001	0.003	<0.001	<0.08	<0.1

注：「<」は未満を示す。

表 3-8-5-1(4)
自然由来の重金属等の受入先基準による溶出量試験結果(月別最大値)(地点番号 05)

調査時期	カドミウム	六価クロム	水銀	セレン	鉛	ヒ素	ふっ素	ほう素
	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
受入先基準 05	0.1	0.5	0.005	0.1	0.1	0.1	15	1
2021 年 1 月	<0.001	<0.02	<0.0005	0.002	<0.005	0.021	0.1	<0.1

注：「<」は未満を示す。

表 3-8-5-2(1)
自然由来の重金属等の受入先基準による含有量試験結果(月別最大値)(地点番号 01)

調査時期	水銀	ふっ素
	(mg/kg)	(mg/kg)
受入先基準 01	25	700
2024 年 2 月	0.13	-
2024 年 3 月	-	71

表 3-8-5-2(2)
自然由来の重金属等の受入先基準による含有量試験結果(月別最大値)(地点番号 02)

調査時期	カドミウム	六価クロム	水銀	セレン	鉛	ヒ素	ふっ素	ほう素
	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)
受入先基準 02	1.4	-	25	2	140	39	700	100
2021 年 1 月	0.1	<0.5	<0.1	0.4	16	19	0.19	46

注：「<」は未満を示す。

表 3-8-5-2(3)
自然由来の重金属等の受入先基準による含有量試験結果(月別最大値)(地点番号 04)

調査時期	水銀
	(mg/kg)
受入先基準 04	25
2024 年 3 月	<2.5

注：「<」は未満を示す。

表 3-8-5-2(4)
自然由来の重金属等の受入先基準による含有量試験結果(月別最大値)(地点番号 05)

調査時期	カドミウム	六価クロム	水銀	セレン	鉛	ヒ素	ふっ素	ほう素
	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)	(mg/kg)
受入先基準 05	1.4	-	25	2	140	39	700	100
2021 年 1 月	0.1	<0.5	0.03	0.5	10	12	0.16	36

注：「<」は未満を示す。

4 環境保全措置の実施状況

2024年度に実施した環境保全装置は以下のとおりである。

4-1 工事の実施、資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による影響を低減させるための環境保全措置

4-1-1 品川駅

環境保全措置の実施状況は表 4-1-1-1、写真 4-1-1-1～写真 4-1-1-15 に示すとおりである。なお、本工区の 2024 年度の工事については、地中連壁工、掘削工等を実施しているため、当該工事に係る報告とする。

表 4-1-1-1(1) 2024 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（粉じん等） ・騒音	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-1-1
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-1-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動	工事の平準化	
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-1-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-1-3
・大気質（粉じん等）	工事現場の清掃、散水	写真 4-1-1-4

表 4-1-1-1(2) 2024 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-1-5
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染	工事排水の適切な処理	写真 4-1-1-6
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	下水道への排水	写真 4-1-1-6
・地下水（地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下	止水性の高い山留め工法等の採用	
・地下水（地下水の水質） ・土壌汚染	資機材置き場における発生土の適切な管理	写真 4-1-1-7
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	工事排水の監視	写真 4-1-1-6
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	処理設備の点検・整備による性能維持	写真 4-1-1-8
・地下水（地下水の水質） ・水資源 ・土壌汚染	薬液注入工法における指針の順守	
・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下	地下水の継続的な監視	写真 4-1-1-9
・地盤沈下	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
・地盤沈下	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真 4-1-1-10

表 4-1-1-1 (3) 2024 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
・ 土壌汚染	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	
・ 土壌汚染	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
・ 廃棄物等	建設汚泥の脱水処理	写真 4-1-1-11
・ 廃棄物等	建設発生土の再利用	
・ 温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-1-12
・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-1-13
・ 廃棄物等	発生土を有効利用する事業者への情報提供	
・ 温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-1-3
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・ 騒音 ・ 振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
・ 大気質（粉じん等）	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-1-14
・ 大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-1-15
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	低公害型の工事用車両の選定	写真 4-1-1-12



写真 4-1-1-1 仮囲い・防音シート等の設置状況



写真 4-1-1-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用、建設機械使用時における配慮



写真 4-1-1-3 建設機械の点検及び整備による性能維持

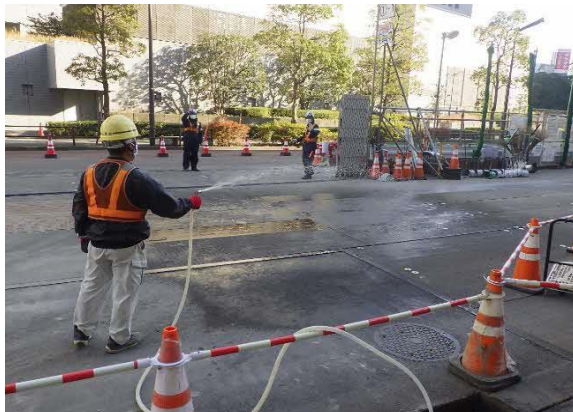


写真 4-1-1-4 工事現場の清掃、散水



写真 4-1-1-5 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-1-6 工事排水の適切な処理、下水道への排水



写真 4-1-1-7 資機材置き場における発生土の適切な管理



写真 4-1-1-8 処理設備の点検・整備による性能維持

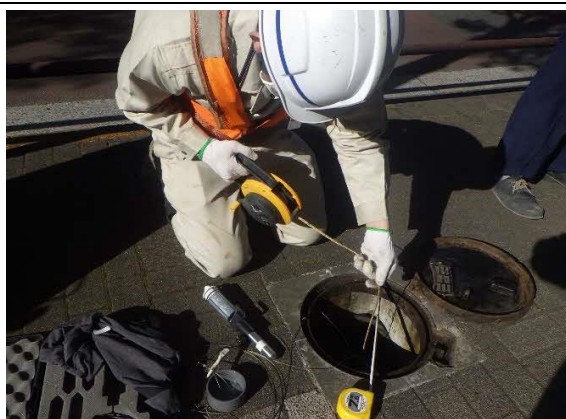


写真 4-1-1-9 地下水の継続的な監視



写真 4-1-1-10 山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真 4-1-1-11 建設汚泥の脱水処理



写真 4-1-1-12 低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化、低公害型の工事用車両の選定



写真 4-1-1-13 副産物の分別、再資源化



写真 4-1-1-14 荷台への防じんシート敷設及び散水



写真 4-1-1-15 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄

4-1-2 第一首都圏トンネル（北品川工区）

環境保全措置の実施状況は表 4-1-2-1、写真 4-1-2-1～写真 4-1-2-8 に示すとおりである。なお、本工区の 2024 年度の工事については、調査掘進等を実施しているため、当該工事に係る報告とする。

表 4-1-2-1(1) 2024年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（粉じん等） ・騒音	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-2-1
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-2-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動	工事の平準化	
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-2-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-2-3
・大気質（粉じん等）	工事現場の清掃、散水	写真 4-1-2-4
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-2-5
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染	工事排水の適切な処理	写真 4-1-2-6
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	下水道への排水	写真 4-1-2-6

表 4-1-2-1 (2) 2024年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
- 地下水（地下水の水位） - 水資源	適切な構造及び工法の採用	写真 4-1-2-7
- 水質（水の濁り、水の汚れ） - 水資源	工事排水の監視	写真 4-1-2-8
- 水質（水の濁り、水の汚れ） - 水資源	処理設備の点検・整備による性能維持	写真 4-1-2-9
土壌汚染	有害物質の有無の確認と土壌汚染の適切な処理	
土壌汚染	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	
土壌汚染	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
廃棄物等	建設発生土の再利用	
- 廃棄物等 - 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-2-10
温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
- 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） - 騒音 - 振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
大気質（粉じん等）	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-2-11
大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-2-4
- 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） - 騒音 - 振動 - 温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	
- 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） - 騒音 - 振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	低公害型の工事用車両の選定	
温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	



写真 4-1-2-1 仮囲い・防音シート等の設置状況



写真 4-1-2-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-2-3 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-2-4 工事現場の清掃、散水、資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄



写真 4-1-2-5 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-2-6 工事排水の適切な処理、下水道への排水

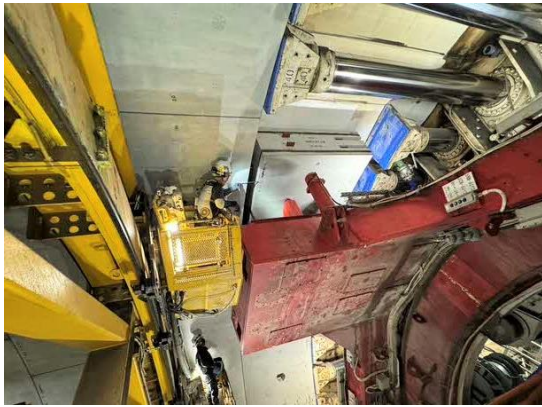


写真 4-1-2-7 適切な構造及び工法の採用
(密閉性の高いシールド工法の採用)

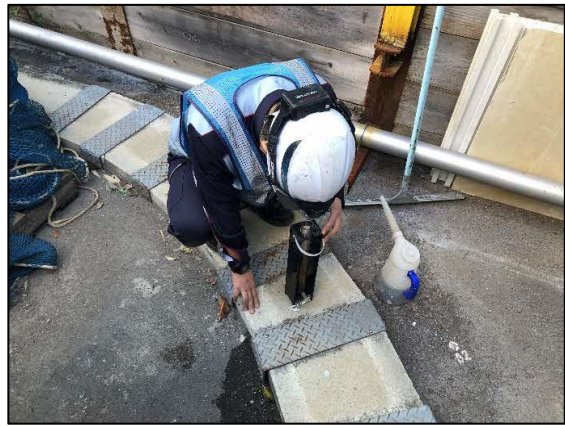


写真 4-1-2-8 工事排水の監視



写真 4-1-2-9 処理設備の点検・整備による性能維持



写真 4-1-2-10 副産物の分別、再資源化



写真 4-1-2-11 荷台への防じんシート敷設及び散水

4-1-3 目黒川変電所

環境保全措置の実施状況は表 4-1-3-1、写真 4-1-3-1～写真 4-1-3-10 に示すとおりである。なお、本工区の 2024 年度の工事については、地下躯体構築工等を実施したため、当該工事に係る報告とする。

表 4-1-3-1(1) 2024年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（粉じん等） ・騒音	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-3-1
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-3-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動	工事の平準化	
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-3-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-3-3
・大気質（粉じん等）	工事現場の清掃、散水	写真 4-1-3-4
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-3-5
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染	工事排水の適切な処理	
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	下水道への排水	

表 4-1-3-1 (2) 2024年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
- 地下水（地下水の水位） - 水資源 - 地盤沈下	止水性の高い山留め工法等の採用	写真 4-1-3-6
- 水質（水の濁り、水の汚れ） - 水資源	工事排水の監視	
- 水質（水の濁り、水の汚れ） - 水資源	処理設備の点検・整備による性能維持	
- 地下水（地下水の水質、地下水の水位） - 水資源 - 地盤沈下	地下水の継続的な監視	写真 4-1-3-7
地盤沈下	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
地盤沈下	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真 4-1-3-8
温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-3-9
- 廃棄物等 - 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-3-10
温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
- 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） - 騒音 - 振動 - 温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	
- 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） - 騒音 - 振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	
- 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） - 騒音 - 振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	低公害型の工事用車両の選定	写真 4-1-3-9



写真 4-1-3-1 仮囲い・防音シート等の設置状況



写真 4-1-3-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-3-3 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-3-4 工事現場の清掃、散水



写真 4-1-3-5 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-3-6 止水性の高い土留め工法等の採用

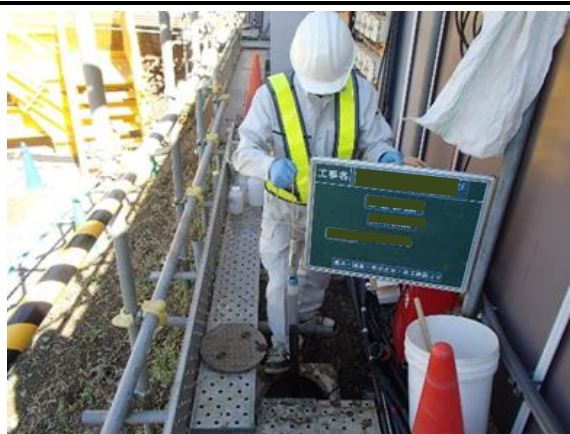


写真 4-1-3-7 地下水の継続的な監視



写真 4-1-3-8 山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真 4-1-3-9 低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化、低公害型の工事用車両の選定



写真 4-1-3-10 副産物の分別、再資源化

4-1-4 東雪谷非常口

環境保全措置の実施状況は表 4-1-4-1、写真 4-1-4-1～写真 4-1-4-12 に示すとおりである。なお、本工区の 2024 年度の工事については、シールド機到達準備工等を実施しているため、当該工事に係る報告とする。

表 4-1-4-1(1) 2024 年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（粉じん等） ・騒音	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-4-1
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-4-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動	工事の平準化	
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-4-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮	写真 4-1-4-5
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-4-3
・大気質（粉じん等）	工事現場の清掃、散水	写真 4-1-4-4
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-4-5
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染	工事排水の適切な処理	
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	下水道への排水	

表 4-1-4-1(2) 2024年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
- 地下水（地下水の水位） - 水資源 - 地盤沈下	止水性の高い山留め工法等の採用	写真 4-1-4-6
- 水質（水の濁り、水の汚れ） - 水資源	工事排水の監視	
- 水質（水の濁り、水の汚れ） - 水資源	処理設備の点検・整備による性能維持	写真 4-1-4-14
- 地下水（地下水の水質、地下水の水位） - 水資源 - 地盤沈下	地下水の継続的な監視	写真 4-1-4-7
地盤沈下	地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
地盤沈下	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真 4-1-4-8
土壌汚染	有害物質の有無の確認と土壌汚染の適切な処理	
土壌汚染	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	
土壌汚染	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
廃棄物等	建設発生土の再利用	
- 廃棄物等 - 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-4-9
温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	写真 4-1-4-10
温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
- 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） - 騒音 - 振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
大気質（粉じん等）	荷台への防じんシート敷設	写真 4-1-4-13
大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-4-11

表 4-1-4-1 (3) 2024年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-4-12
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	低公害型の工事用車両の選定	写真 4-1-4-10



写真 4-1-4-1 仮囲い・防音シート等の設置状況



写真 4-1-4-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-4-3 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-4-4 工事現場の清掃、散水



写真 4-1-4-5 建設機械の使用時における配慮、工事従事者への講習・指導



写真 4-1-4-6 止水性の高い山留め工法等の採用

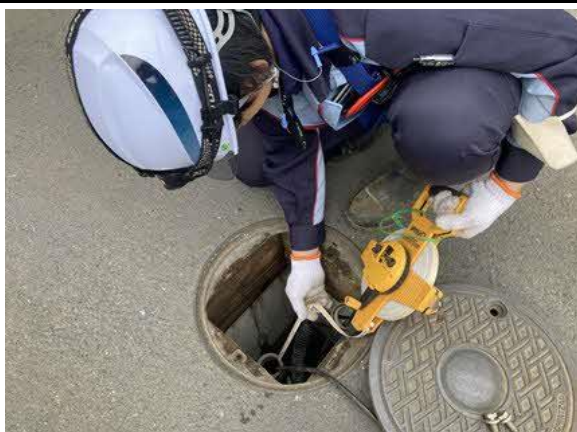


写真 4-1-4-7 地下水の継続的な監視

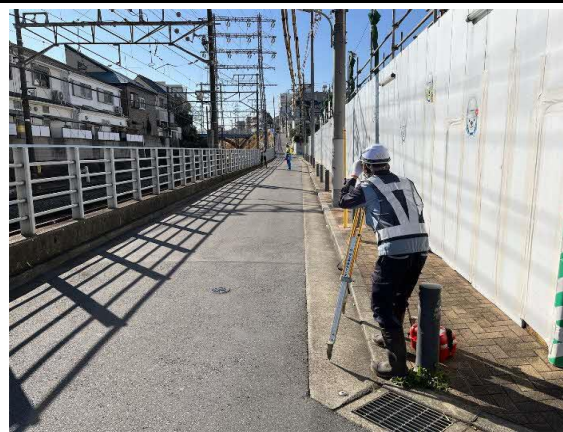


写真 4-1-4-8 山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真 4-1-4-9 副産物の分別、再資源化



写真 4-1-4-10 低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化、低公害型の工事用車両の選定



写真 4-1-4-11 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄



写真 4-1-4-12 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-4-13 荷台への防じんシート敷設



写真 4-1-4-14 処理設備の点検・整備による性能維持

4-1-5 片平非常口

環境保全措置の実施状況は表 4-1-5-1、写真 4-1-5-1～写真 4-1-5-14 に示すとおりである。なお、本工区の 2024 年度の工事については、地中連続壁工、掘削工を実施しているため、当該工事に係る報告とする。

表 4-1-5-1(1) 2024年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（粉じん等） ・騒音	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-5-1
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	排出ガス対策型建設機械の採用 低公害型の工事用車両の選定	写真 4-1-5-2 写真 4-1-5-3
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動	工事の平準化	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-5-4
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-5-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-5-5
・大気質（粉じん等）	工事現場の清掃及び散水	写真 4-1-5-6
・大気質（粉じん等）	荷台への防塵シート敷設及び散水	写真 4-1-5-7
・大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口等の清掃、散水及びタイヤの洗浄	写真 4-1-5-8
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	下水道への排水	写真 4-1-5-9
・地下水（地下水の水位） ・水資源	止水性の高い山留め工法等の採用	

表 4-1-5-1 (2) 2024年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	工事排水の監視	写真 4-1-5-9
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	処理設備の点検・整備による性能維持	写真 4-1-5-10
・地下水（地下水の水質） ・水資源 ・地盤沈下	薬液注入工法における指針等の遵守	
・地下水（地下水の水質、地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下	地下水の継続的な監視	写真 4-1-5-11
・地盤沈下	適切な構造及び工法の採用 地質の状況等に応じた山留め工法等の採用	
・地盤沈下	山留め材及び周辺地盤の計測管理	写真 4-1-5-12
・土壌汚染	工事排水の適切な処理	写真 4-1-5-9
・土壌汚染	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	
・土壌汚染	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	
・土壌汚染	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
・動物 ・生態系	外来種の拡大抑制	写真 4-1-5-8
・動物 ・生態系	濁水処理設備の設置	写真 4-1-5-13
・動物 ・生態系	防音シート、低騒音型の建設機械の採用	写真 4-1-5-1 写真 4-1-5-2
・廃棄物等	建設発生土の再利用 発生土を有効利用する事業者への情報提供	
・廃棄物等 ・温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-5-14
・温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
・温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、 運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	

表 4-1-5-1(3) 2024年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-5-15
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底（資材及び機械の運搬に用いる車両の適正な運転）	



写真 4-1-5-1(1) 仮囲い・防音シート等の設置状況



写真 4-1-5-1(2) 仮囲い・防音シート等の設置状況(エンジン周りに防音シートを設置)



写真 4-1-5-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-5-3 低公害型の工事用車両の選定、低燃費車種の選定



写真 4-1-5-4 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-5-5 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-5-6 工事現場の清掃及び散水



写真 4-1-5-7 荷台への防塵シート敷設



写真 4-1-5-8 散水及びタイヤの洗浄



写真 4-1-5-9 下水道への排水、工事排水の監視、工事排水の適切な処理



写真 4-1-5-10 処理設備の点検・整備による性能維持



写真 4-1-5-11 地下水の継続的な監視



写真 4-1-5-12 山留め材及び周辺地盤の計測管理



写真 4-1-5-13 濁水処理設備の設置



写真 4-1-5-14 副産物の分別、再資源化



写真 4-1-5-15 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持

4-1-6 第一首都圏トンネル（小野路工区）

環境保全措置の実施状況は表 4-1-6-1、写真 4-1-6-1～写真 4-1-6-11 に示すとおりである。なお、本工区の 2024 年度の工事については、調査掘進等を実施しているため、当該工事に係る報告とする。

表 4-1-6-1(1) 2024年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（粉じん等） ・騒音	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-6-1 写真 4-1-6-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-6-3
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動	工事の平準化	
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-6-3
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	建設機械の使用時における配慮	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-6-4
・大気質（粉じん等）	工事現場の清掃、散水	写真 4-1-6-5
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-6-6
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染	工事排水の適切な処理	写真 4-1-6-7
・地下水（地下水の水位） ・水資源	適切な構造及び工法の採用	写真 4-1-6-8
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	工事排水の監視	
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	処理設備の点検・整備による性能維持	

表4-1-6-1 (2) 2024年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
・ 土壌汚染	仮置場における発生土の適切な管理	
・ 土壌汚染	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	
・ 土壌汚染	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
・ 動物 ・ 生態系	濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置	写真 4-1-6-7
・ 動物 ・ 生態系	防音シート、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-6-1 写真 4-1-6-2 写真 4-1-6-3
・ 植物 ・ 生態系	外来種の拡大抑制のためのタイヤ洗浄	
・ 廃棄物等 ・ 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-6-9
・ 温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動 ・ 温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-6-10
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・ 騒音 ・ 振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
・ 動物 ・ 生態系	資材運搬等の適切化	
・ 大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄	写真 4-1-6-11
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・ 騒音 ・ 振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・ 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	低公害型の工事用車両の選定	写真 4-1-6-12



写真 4-1-6-1 仮囲い・防音シート等の設置状況



写真 4-1-6-2 仮囲い・防音シート等（防音ハウス）の設置状況



写真 4-1-6-3 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用

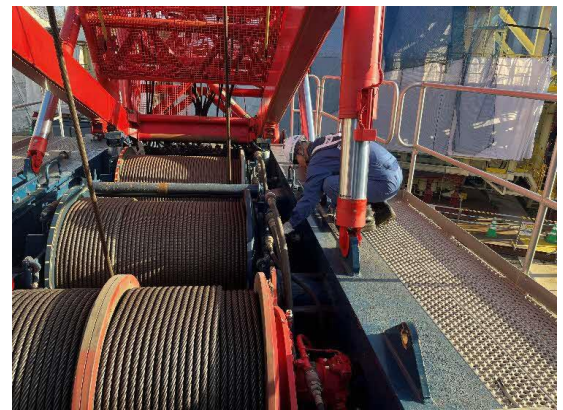


写真 4-1-6-4 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-6-5 工事現場の清掃、散水



写真 4-1-6-6 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-6-7 工事排水の適切な処理、濁水処理施設及び仮設沈砂池の設置

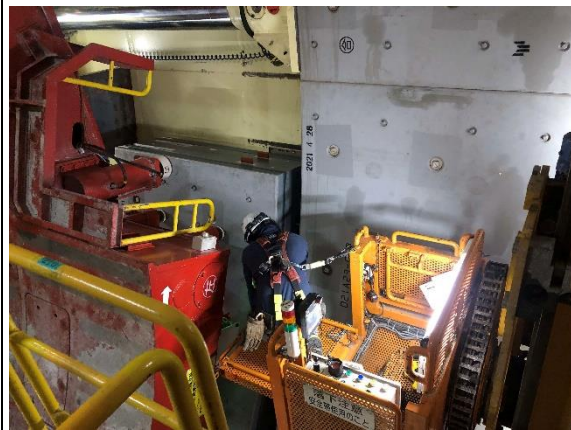


写真 4-1-6-8 適切な構造及び工法の採用



写真 4-1-6-9 副産物の分別、再資源化

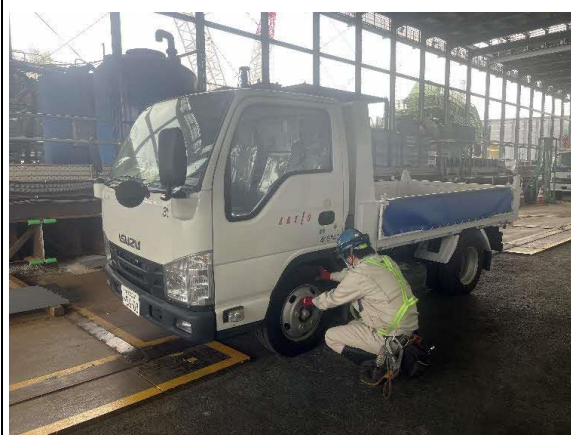


写真 4-1-6-10 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-6-11 資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤの洗浄



写真 4-1-6-12 低公害型の工事用車両の選定

4-1-7 上小山田非常口

環境保全措置の実施状況を表 4-1-7-1、写真 4-1-7-1～写真 4-1-7-11 に示すとおりである。なお、本工区の 2024 年度の工事については、ニューマチックケーソン工（躯体構築、掘削・沈設）等を実施したため、当該工事に係る報告とする。

表 4-1-7-1(1) 2024年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（粉じん等） ・騒音	仮囲い・防音シート等の設置	写真 4-1-7-1
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	排出ガス対策型建設機械の採用	写真 4-1-7-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事規模に合わせた建設機械の設定	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） ・騒音 ・振動	工事の平準化	
・騒音	低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-7-2
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	建設機械使用時における配慮	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	建設機械の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-7-3
・大気質（粉じん等）	工事現場の清掃、散水	写真 4-1-7-4
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	工事従事者への講習・指導	写真 4-1-7-5
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源 ・土壌汚染	工事排水の適切な処理	写真 4-1-7-6
・地下水（地下水の水位） ・水資源 ・地盤沈下	止水性の高い山留め工法等の採用	
・水質（水の濁り、水の汚れ） ・水資源	工事排水の監視	

表 4-1-7-1 (2) 2024年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
- 地下水（地下水の水質、地下水の水位） - 水資源 - 地盤沈下	地下水の継続的な監視	写真 4-1-7-7
地盤沈下	地質の状況等に応じた工法の採用	
地盤沈下	周辺地盤の計測管理	写真 4-1-7-11
土壌汚染	有害物質の有無の確認と汚染土壌の適切な処理	
土壌汚染	発生土に含まれる重金属等の定期的な調査	
土壌汚染	発生土を有効利用する事業者への土壌汚染に関する情報提供の徹底	
- 動物 - 生態系	防音シート、低騒音型建設機械の採用	写真 4-1-7-1 写真 4-1-7-2
- 植物 - 生態系	外来種の拡大抑制のためのタイヤ洗浄	
廃棄物等	建設発生土の再利用	
- 廃棄物等 - 温室効果ガス	副産物の分別、再資源化	写真 4-1-7-8
廃棄物等	発生土を有効利用する事業者への情報提供	
温室効果ガス	高負荷運転の抑制	
- 大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等） - 騒音 - 振動	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行計画の配慮	
- 動物 - 生態系	資材運搬等の適切化	
大気質（粉じん等）	荷台への防じんシート敷設及び散水	写真 4-1-7-9
大気質（粉じん等）	資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤ洗浄	写真 4-1-7-4

表 4-1-7-1 (3) 2024年度の環境保全措置の実施状況

環境要素	2024年度に実施した環境保全措置	備考
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動 ・温室効果ガス	資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持	写真 4-1-7-10
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質） ・騒音 ・振動	環境負荷低減を意識した運転の徹底	
・大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質）	低公害型の工事用車両の選定	
・温室効果ガス	低燃費車種の選定、積載の効率化、運搬計画の合理化による運搬距離の最適化	



写真 4-1-7-1 仮囲い・防音シート等の設置状況



写真 4-1-7-2 排出ガス対策型建設機械の採用、低騒音型建設機械の採用



写真 4-1-7-3 建設機械の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-7-4 工事現場の清掃、散水、資材及び機械の運搬に用いる車両の出入口、周辺道路の清掃及び散水、タイヤ洗浄



写真 4-1-7-5 工事従事者への講習・指導



写真 4-1-7-6 工事排水の適切な処理（沈砂池の設置）



写真 4-1-7-7 地下水の継続的な監視



写真 4-1-7-8 副産物の分別、再資源化



写真 4-1-7-9 荷台への防じんシート敷設及び散水



写真 4-1-7-10 資材及び機械の運搬に用いる車両の点検及び整備による性能維持



写真 4-1-7-11 周辺地盤の計測管理

5 その他特に実施した調査

5-1 希少猛禽類の営巣地の状況調査

「中央新幹線 品川・名古屋間 事後調査計画（東京都）平成 26 年 11 月」において調査の対象とした鳥類（希少猛禽類）について、営巣地の状況を確認した。本調査では、2024 年度に完了した調査結果を記載した。

5-1-1 調査方法

調査方法は、表 5-1-1-1 に示すとおりである。なお、評価書【東京都】時点で確認したオオタカの小野路ペアを A ペア、上小山田ペアを B ペアとする。

表 5-1-1-1 希少猛禽類の調査方法

調査項目		調査方法
希少猛禽類	営巣地の状況調査	2022 年度※の営巣地の状況調査で確認された A ペア及び 2023 年度の営巣地の状況調査で確認された B ペアの営巣地において、双眼鏡等を利用し、巣の使用状況の確認を行った。また、A ペアについては 2022 年度に確認した巣を使用していなかったため、その他の古巣を確認するとともに、周辺の林内を踏査し、新たな営巣地の有無の確認を行った。
	営巣木調査	営巣地の状況調査で新たに確認された A ペアの営巣木について、樹種、樹高、胸高直径、巣の状況等を記録した。

※：A ペアについて、2023 年度における営巣地の状況調査では繁殖に繋がる痕跡は見られなかった。

5-1-2 調査地点

調査地点は、2022 年度の営巣地の状況調査で確認された A ペア及び 2023 年度の営巣地の状況調査で確認された B ペアの巣の周辺とした。また、A ペアについては 2022 年度に確認した巣を使用していなかったため、過去に確認されたオオタカの巣の周辺も調査することとした。なお、設定にあたっては専門家等から意見を聴取した。

5-1-3 調査期間

調査期間は、表 5-1-3-1 に示すとおりである。

表 5-1-3-1 希少猛禽類の調査期間

調査項目	調査手法	ペア名	調査実施日	
希少猛禽類	営巣地の状況調査	オオタカ (A ペア)	繁殖期	2024 年 3 月 26 日～2024 年 3 月 28 日※ 2024 年 6 月 5 日
		オオタカ (B ペア)		2024 年 6 月 6 日
	営巣木調査	オオタカ (A ペア)	非繁殖期	2024 年 9 月 3 日

※：2023 年度における営巣地の状況調査において繁殖に繋がる痕跡が見られなかったことを踏まえ、2024 年度における営巣地の状況調査にあたって実施した補足調査日を示す。

5-1-4 調査結果

希少猛禽類の調査における確認状況は、表 5-1-4-1 に示すとおりである。

表 5-1-4-1 調査結果

ペア名	確認状況
オオタカ（Aペア）	2023 年度の営巣地の状況調査で確認した営巣地の近傍において、オオタカの行動を観察し、新規巣及び交尾声等を確認した。その後、新規巣及びその周辺で踏査を実施したが、繁殖に繋がる痕跡は確認できなかった。なお、非繁殖期において、今回発見した新巣について営巣木の調査を実施した。今後も、専門家の意見を踏まえ、継続して調査を実施する。
オオタカ（Bペア）	2023 年度の営巣地の状況調査で確認した営巣地の近傍にて調査を実施したところ、2023 年度で確認した営巣地において雛の確認には至らなかったが、巣上に座る成鳥や巣へ出入りする成鳥を確認したことから育雛中であると考えられた。今後も、専門家の意見を踏まえ、継続して調査を実施する。

6 工事の実施に伴う廃棄物等及び温室効果ガスの実績

6-1 廃棄物等

工事の実施に伴う、建設発生土及び建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況は、次のとおりである。

6-1-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う、廃棄物等の状況（建設発生土及び建設廃棄物）とした。

6-1-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績やマニフェスト等による確認とした。

6-1-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、品川駅、第一首都圏トンネル（北品川工区）、目黒川変電所、東雪谷非常口、片平非常口、第一首都圏トンネル（小野路工区）及び上小山田非常口とした。

6-1-4 集計期間

集計期間は、2024 年度とした。

6-1-5 集計結果

集計結果は、表 6-1-5-1 に示すとおりである。

表 6-1-5-1(1) 建設発生土の発生量

主な副産物の種類	発生量
建設発生土	87,165m ³

注：建設発生土の発生量は、ほぐし土量である。

表 6-1-5-1(2) 建設廃棄物の発生量及び再資源化の状況

主な副産物の種類		発生量	再資源化等の量※ ¹	再資源化等の率※ ²
建設廃棄物	建設汚泥	48,272m ³	48,272m ³	100%
	コンクリート塊	2,282m ³	2,238m ³	98%
	アスファルト・コンクリート塊	490m ³	486m ³	99%
	建設発生木材	280t	280t	100%

※1：「再資源化等の量」の定義は以下のとおりとする。

- ・コンクリート塊及びアスファルト・コンクリート塊：再資源化された量と工事間利用された量の合計
- ・建設汚泥、建設発生木材：再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計

なお、再資源化された量、再資源化及び縮減された量は、運搬先の施設ごとに、発生量にその施設における項目ごとの「再資源化された割合」、「再資源化及び縮減された割合」の実績値を乗じて推計した。

※2：「再資源化等の率」はそれぞれの項目について「再資源化等の量」を「発生量」で除した値（再資源化率または再資源化・縮減率）を示す。なお、割合は小数点以下を四捨五入している。

6-2 温室効果ガス

工事の実施に伴う、温室効果ガスの排出の状況は、次のとおりである。

6-2-1 集計項目

集計項目は、工事の実施に伴う温室効果ガスの排出の状況とした。

6-2-2 集計方法

集計方法は、各工事における施工実績や電力会社発行の使用明細等による確認とし、二酸化炭素（CO₂）換算で算出した。

6-2-3 集計対象箇所

集計対象箇所は、品川駅、第一首都圏トンネル（北品川工区）、目黒川変電所、東雪谷非常口、片平非常口、第一首都圏トンネル（小野路工区）及び上小山田非常口とした。

6-2-4 集計期間

集計期間は、2024 年度とした。

6-2-5 集計結果

集計結果は、表 6-2-5-1 に示すとおりである。

表 6-2-5-1 温室効果ガス（CO₂換算）排出量の状況

区分			温室効果ガス（CO ₂ 換算）排出量 （tCO ₂ ）	
			小計	行為別合計
建設機械の稼働	燃料消費（CO ₂ ）		2,053	6,802
	燃料消費（N ₂ O）		13	
	電力消費（CO ₂ ）		4,736	
資材及び機械の運搬に 用いる車両の運行	CO ₂		2,137	2,148
	CH ₄		1	
	N ₂ O		10	
建設資材の使用	CO ₂		12,304	12,304
廃棄物の発生	焼却	CO ₂	130	132
		N ₂ O	2	
	埋立	CH ₄	－	
CO ₂ 換算排出量の合計				21,386

注：排出がない場合は「－」と記載した。

7 業務の委託先

環境調査等に係る一部の業務は、表 7-1 に示す者に委託して実施した。なお、委託した業務のうち、東京都においては、主にパシフィックコンサルタンツ株式会社が担当した。

表 7-1 事後調査及びモニタリングに係る業務の委託先

名 称	代表者の氏名	主たる事務所の所在地
ジェイアール東海 コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 岩田 眞	愛知県名古屋市中村区 名駅五丁目 33 番 10 号
アジア航測株式会社	代表取締役社長 畠山 仁	東京都新宿区 西新宿六丁目 14 番 1 号
パシフィック コンサルタンツ株式会社	代表取締役社長 大本 修	東京都千代田区 神田錦町三丁目 22 番地
国際航業株式会社	代表取締役社長 藤原 協	東京都新宿区 北新宿二丁目 21 番 1 号
株式会社 トーニチコンサルタント	代表取締役社長 横井 輝明	東京都渋谷区 本町一丁目 13 番 3 号
株式会社 復建エンジニアリング	代表取締役社長 川村 栄一郎	東京都中央区 日本橋堀留町一丁目 11 番 12 号

注：2025 年 6 月 1 日時点の情報

上記のほか、工事中の環境調査等に係る業務のうち、工事の実施に係る一部の測定は、表 7-2 に示す工事請負業者が実施した。

表 7-2 測定を実施した工事請負業者

主な実施箇所	工事請負業者の名称
品川駅	中央新幹線品川駅新設（北工区）工事共同企業体
	中央新幹線品川駅新設（南工区）工事共同企業体
	株式会社安藤・間
目黒川変電所	中央新幹線北品川非常口及び変電施設（地下部）新設工事共同企業体
東雪谷非常口	中央新幹線東雪谷非常口新設工事共同企業体
片平非常口	中央新幹線第一首都圏トンネル新設（東百合丘工区）ほか工事共同企業体
上小山田非常口	戸田・りんかい日産 中央新幹線、上小山田非常口特定建設工事共同企業体
第一首都圏トンネル	中央新幹線第一首都圏トンネル新設（北品川工区）工事共同企業体
	中央新幹線第一首都圏トンネル新設（小野路工区）工事共同企業体

参考資料 1：事業の実施状況

1-1 トンネルの施工状況

2024 年度までのトンネル（立坑を含む）の施工状況は、以下に示すとおりである。

北品川非常口※¹について、立坑（約 90m）が 2019 年度に完成した。

第一首都圏トンネル（北品川工区）について、約 270m の調査掘進（北品川非常口～等々力非常口）が完了した。

東雪谷非常口※¹について、立坑の躯体構築を 6 割程度（約 35m）施工した。

片平非常口※¹について、立坑（約 115m）を 3 割程度（約 30m）掘削した。

小野路非常口※²について、立坑（約 80m）が 2020 年度に完成した。

第一首都圏トンネル（小野路工区）について、約 300m（計画は約 321m）の調査掘進（小野路非常口～上小山田非常口）を実施した。

上小山田非常口※²について、立坑（約 110m）が 2024 年度に完成した。

※ 1：地中連続壁工法

※ 2：ニューマチックケーソン工法

1-2 建設発生土の主な搬出先と土量

2024 年度の各工事実施箇所における建設発生土の主な搬出先と土量は、以下に示すとおりである。

品川駅、第一首都圏トンネル（北品川工区）、東雪谷非常口、片平非常口、第一首都圏トンネル（小野路工区）及び上小山田非常口からの建設発生土は、公共事業等に約 6 万 m³、UCR（株式会社建設資源広域利用センター）の斡旋による受入先に約 2 万 m³を活用した。

参考資料 2：騒音・振動の簡易計測

工事最盛期のモニタリングとは別に、各工区において、建設機械の稼働に係る騒音・振動の状況を確認するための簡易計測を実施している。計測中は、周辺からも確認できる位置にモニターを設置して騒音・振動の値を常時表示するとともに、作業中は適宜、騒音・振動の状況を確認して作業騒音・振動の低減に努めた。騒音・振動の計測地点は、表 参 2-1、図 参 2-1 及び図 参 2-2 に示すとおりである。また、モニター表示例は写真 参 2-1 に示すとおりである。

表 参 2-1 簡易計測の実施地点

地点 番号	区市名	所在地	実施箇所
01	港区	港南	品川駅
02	品川区	北品川	第一首都圏トンネル（北品川工区） 目黒川変電所
03	大田区	東雪谷	東雪谷非常口
04	町田市	能ヶ谷	片平非常口
05		小野路町	第一首都圏トンネル（小野路工区）
06		上小山田町	上小山田非常口

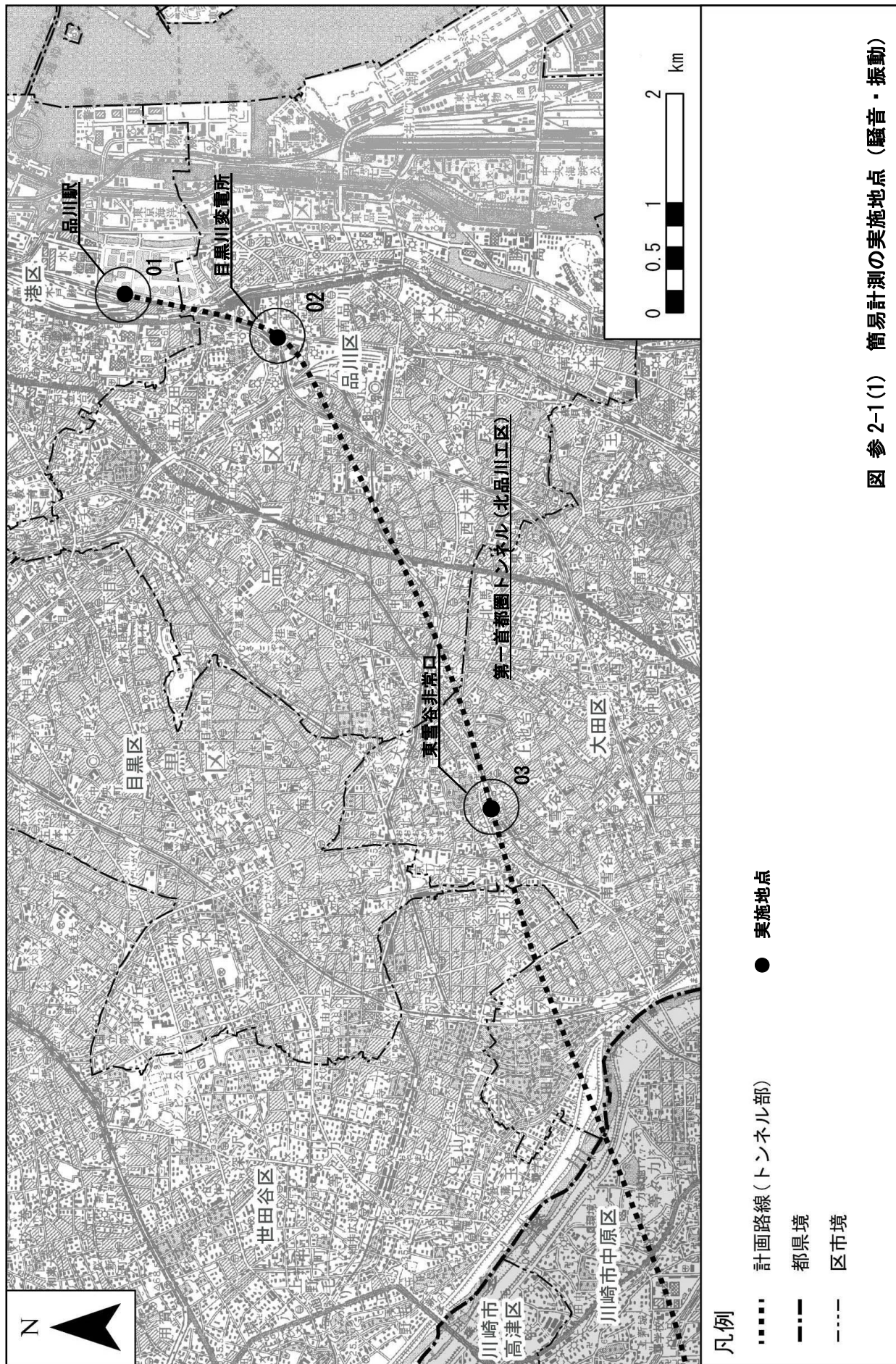


図 参 2-1(1) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動)

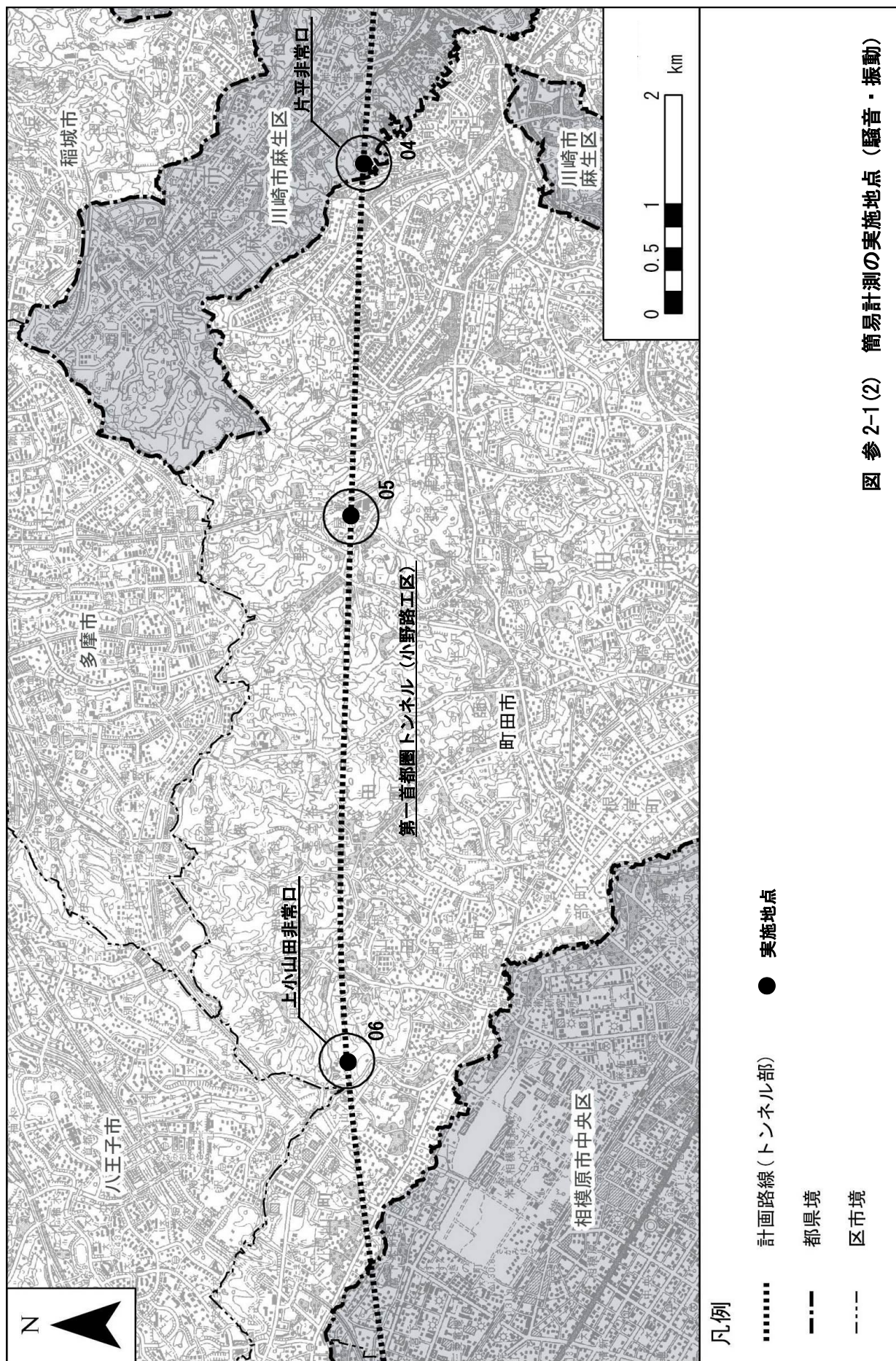


図 参 2-1(2) 簡易計測の実施地点 (騒音・振動)

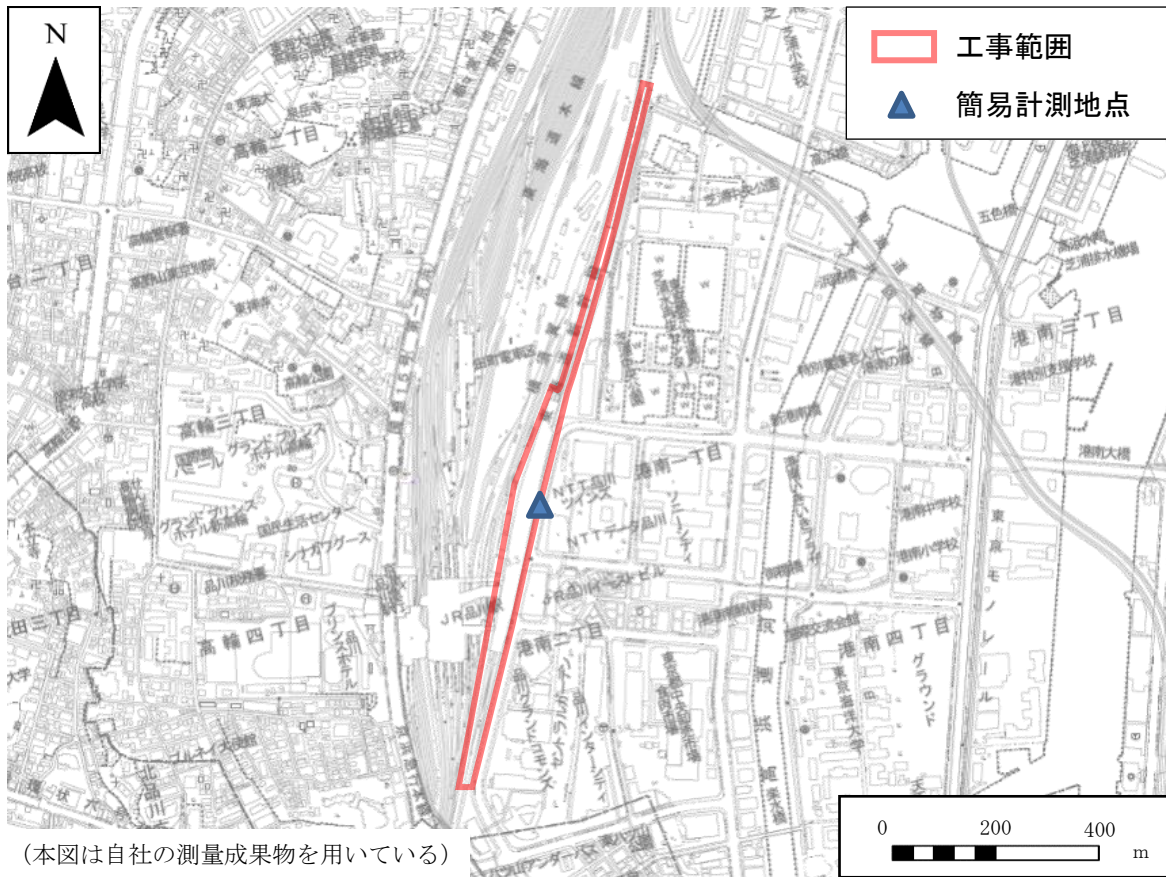


図 参 2-2(1) 簡易計測の実施地点（騒音・振動）(01 港南)

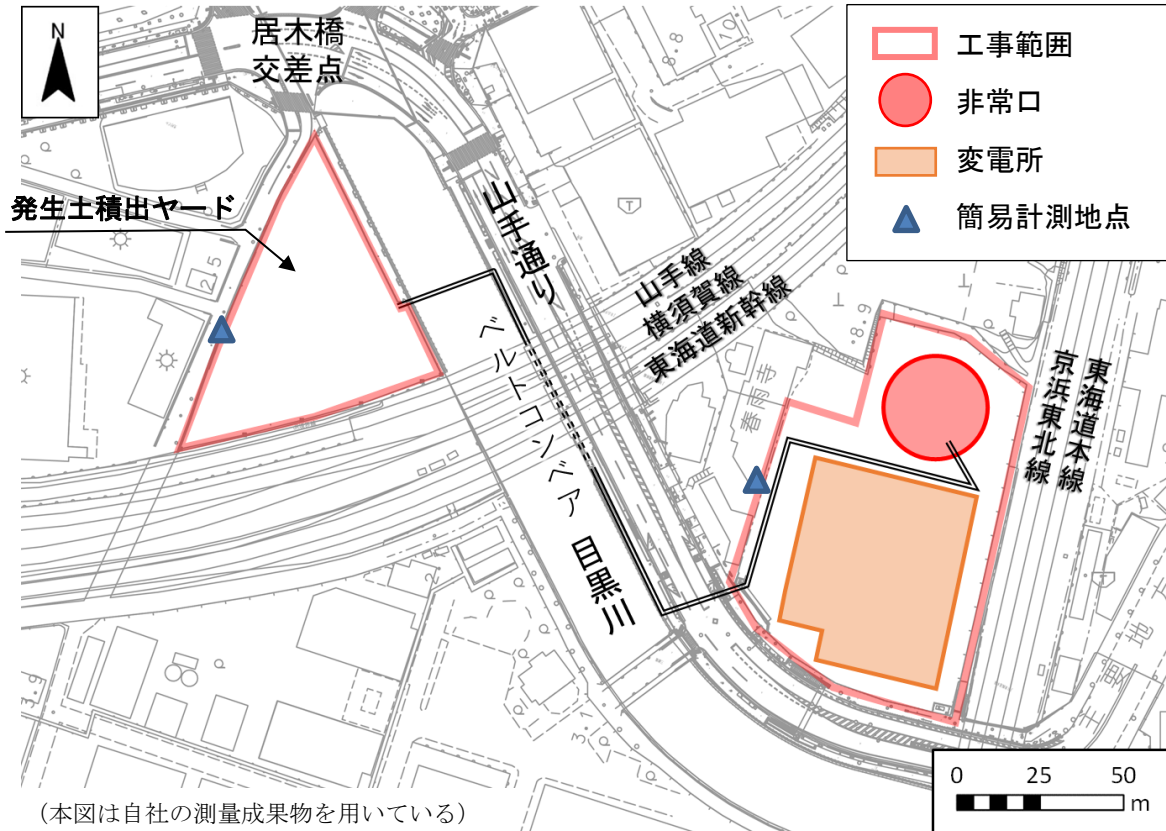


図 参 2-2(2) 簡易計測の実施地点（騒音・振動）(02 北品川)

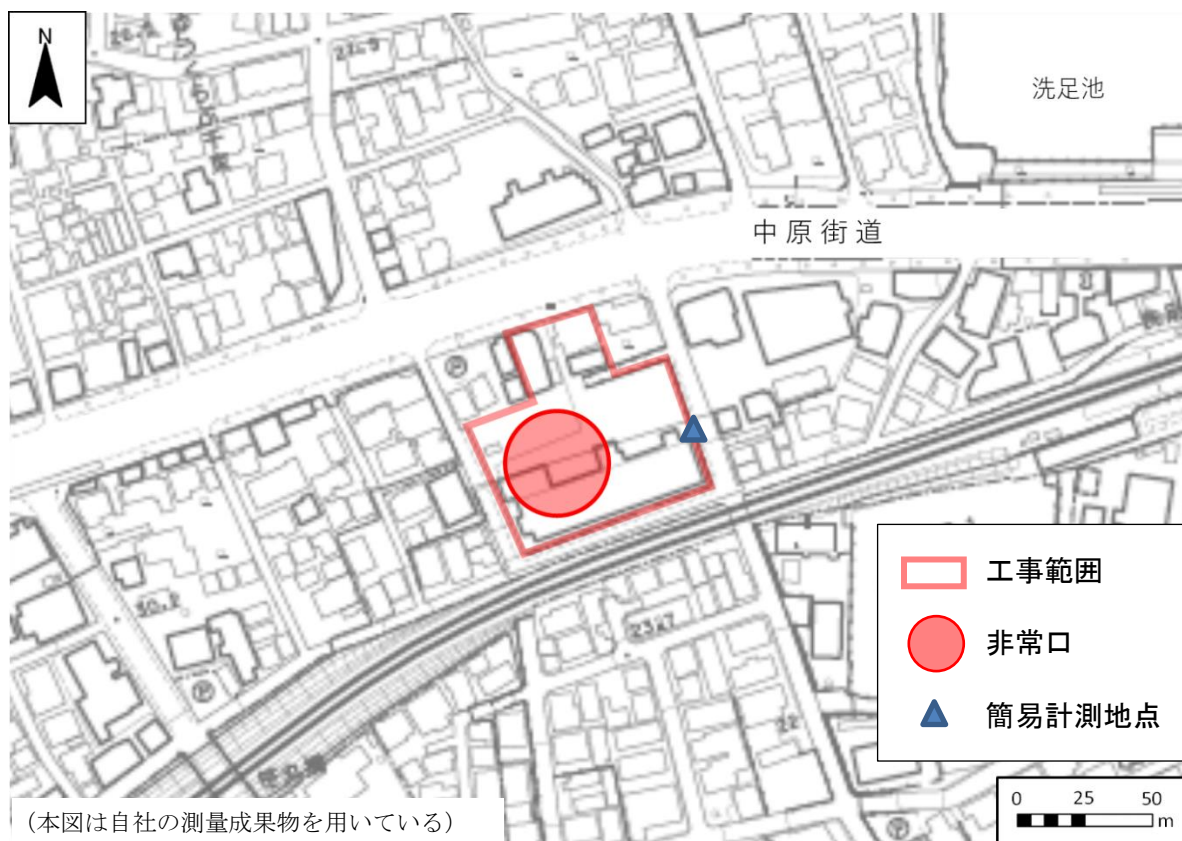


図 参 2-2(3) 簡易計測の実施地点（騒音・振動）（03 東雪谷）

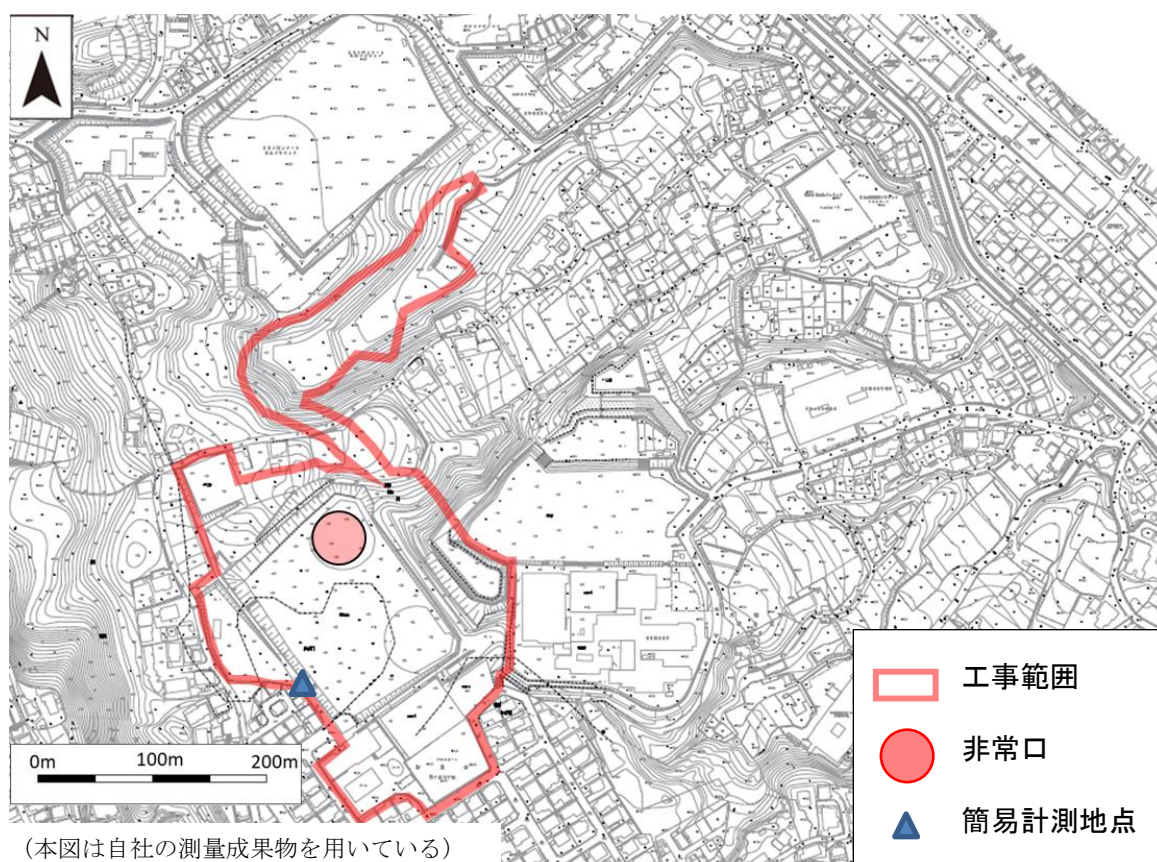


図 参 2-2(4) 簡易計測の実施地点（騒音・振動）（04 能ヶ谷）

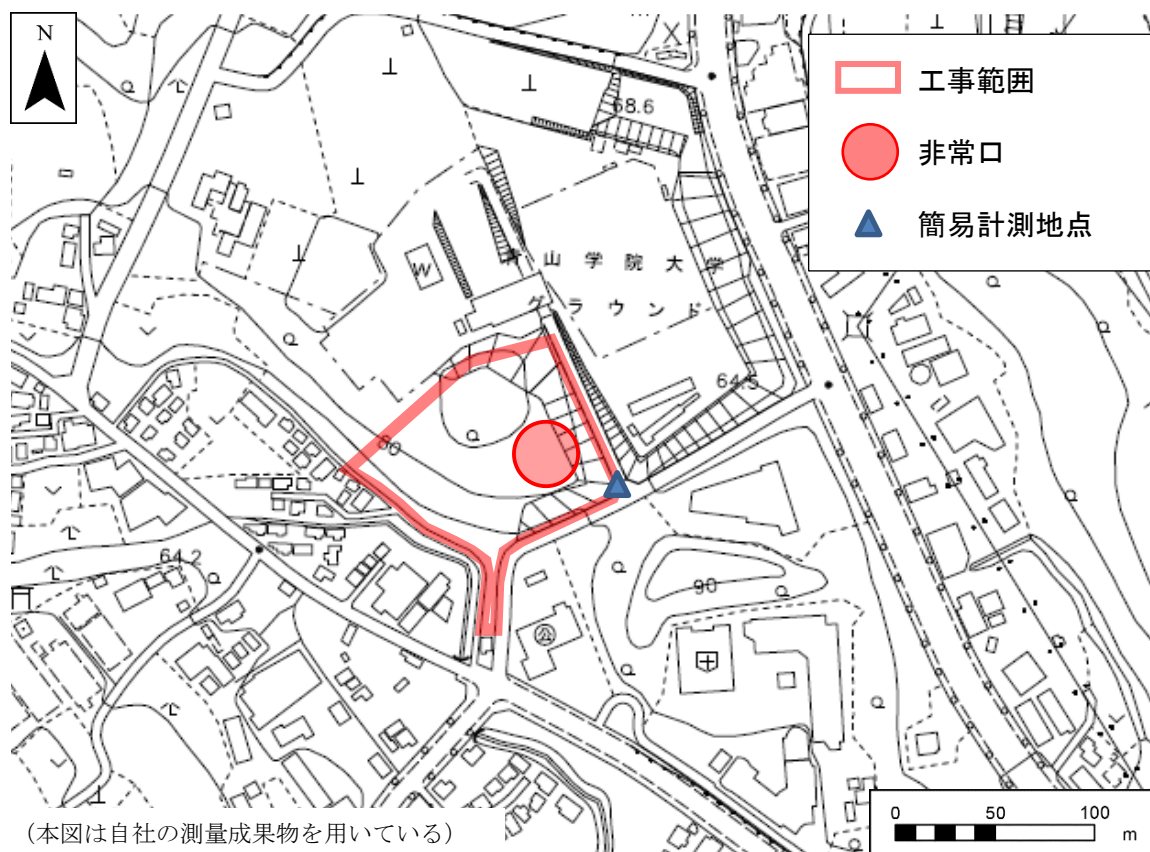


図 参 2-2(5) 簡易計測の実施地点（騒音・振動）（05 小野路町）

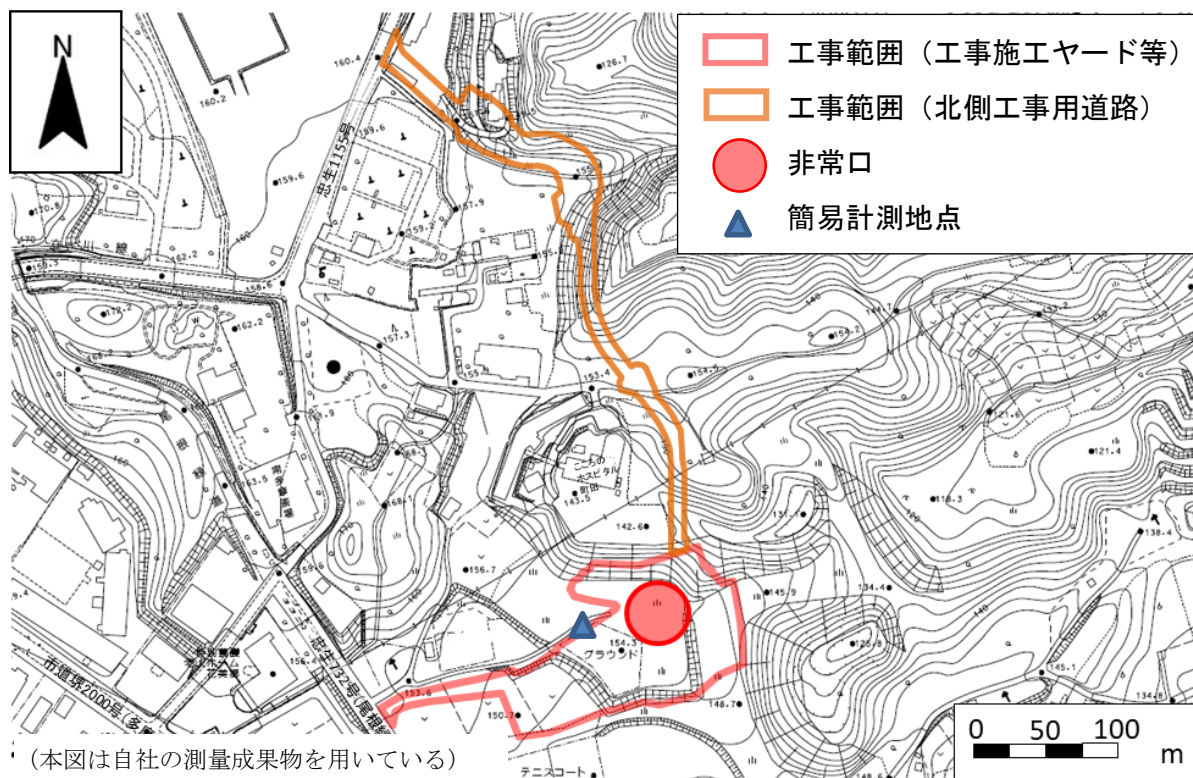


図 参 2-2(6) 簡易計測の実施地点（騒音・振動）（06 上小山田町）



写真 参 2-1 (1) モニター表示例 (01 港南)

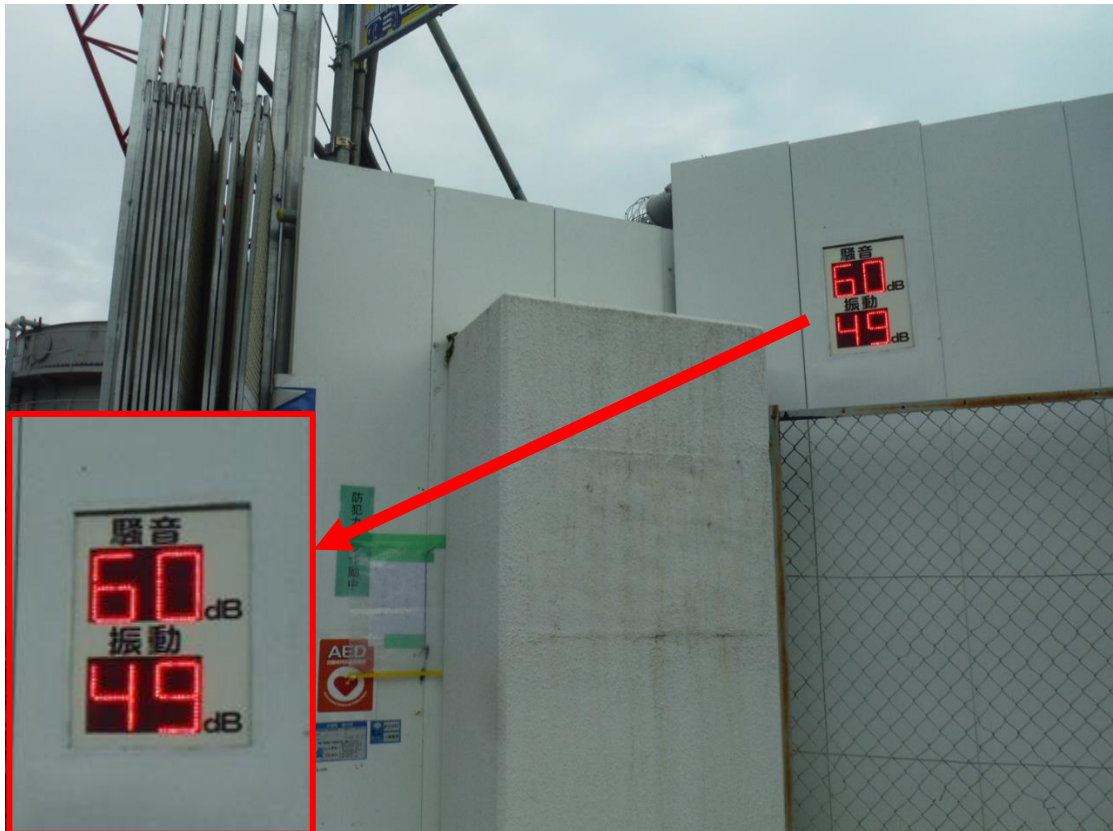


写真 参 2-1 (2) モニター表示例 (02 北品川)

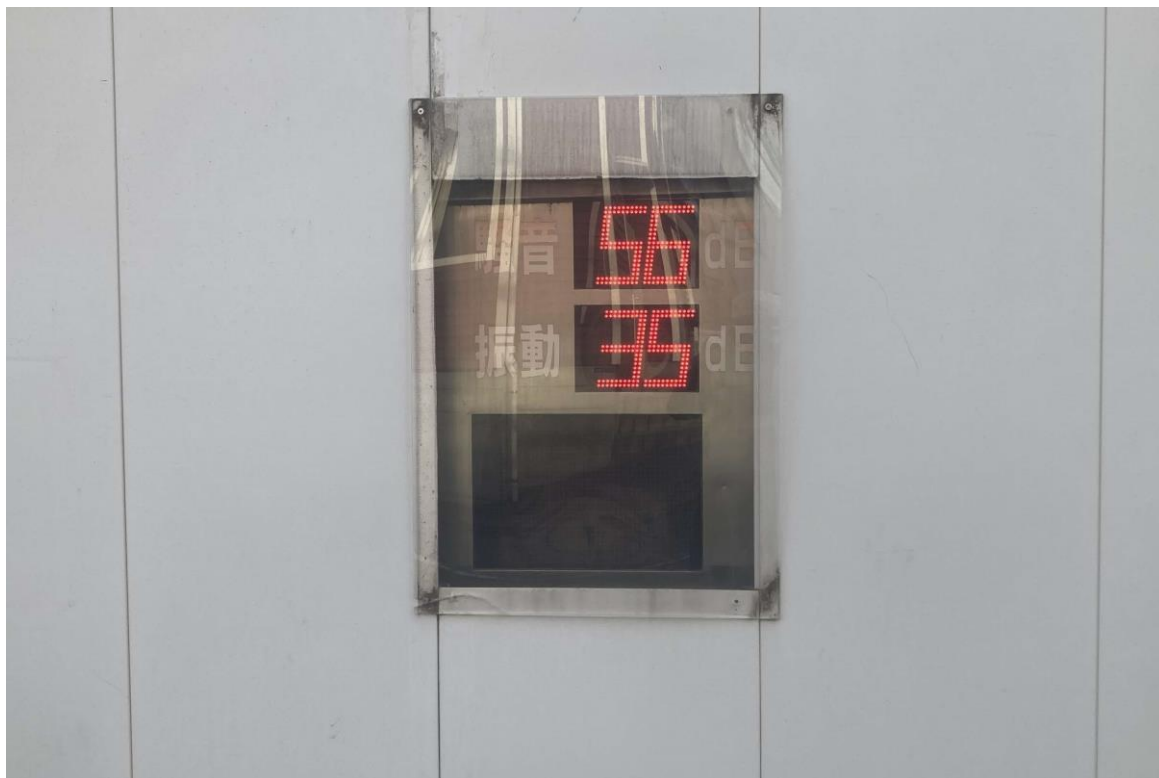


写真 参 2-1 (3) モニター表示例 (03 東雪谷)



写真 参 2-1 (4) モニター表示例 (04 能ヶ谷)



写真 参 2-1 (5) モニター表示例 (05 小野路町)

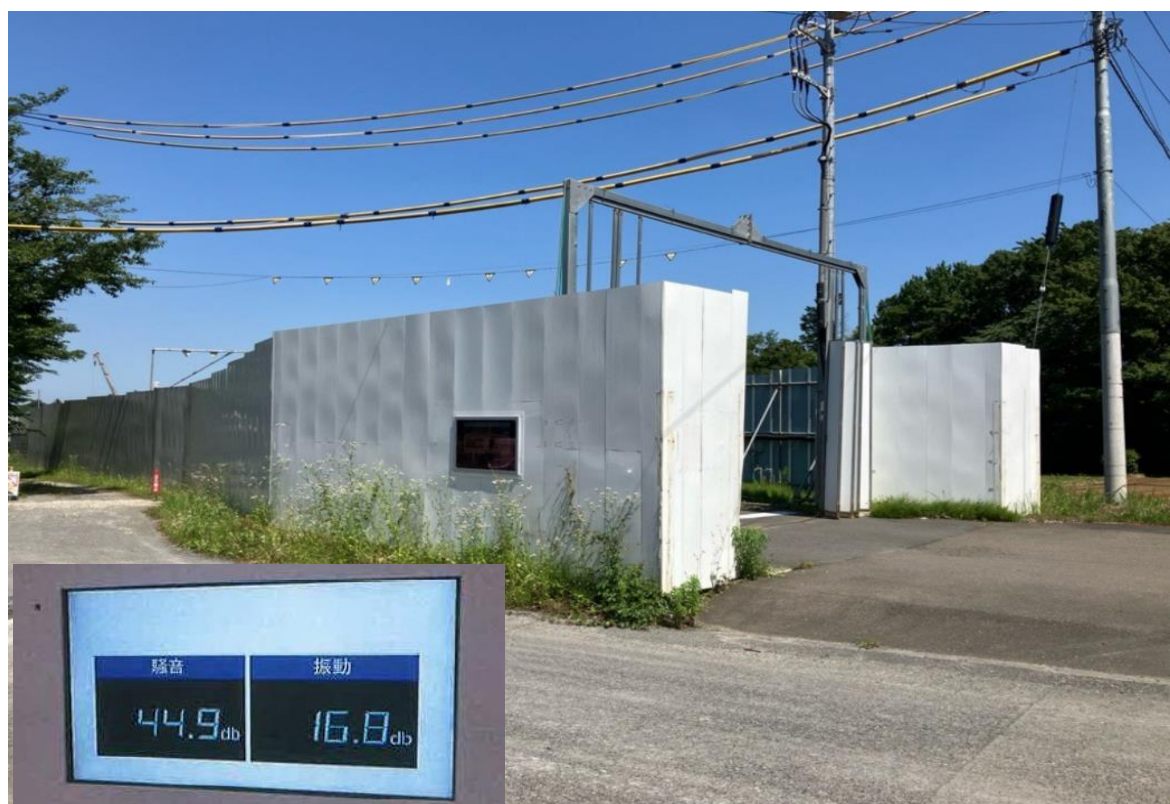


写真 参 2-1 (6) モニター表示例 (06 上小山田町)

参考資料 3 : 安全・安心の取組み

以下の取組みを実施し、安全にトンネル掘進を行った。

3-1 調査掘進時の取組み

2024 年度は、北品川工区における掘進の初期段階において、シールド工法によるトンネル工事の安全対策や周辺環境への影響の実地確認に主眼を置いた調査掘進が完了した。調査掘進時は、トンネル掘進時の適切な施工管理を行い、振動及び変位等を計測し周辺への影響を確認した。

なお、調査掘進の結果の詳細は、以下に掲載している。

[資料はこちら]

＜調査掘進での確認結果に関する説明会の説明資料＞

北品川工区（2024 年 12 月 17 日、19 日、21 日開催）における調査掘進の確認結果に関する説明会で用いた資料は、東海旅客鉄道株式会社のホームページに掲載している。



北品川工区

https://company.jr-central.co.jp/chuoshinkansen/urban_shield-tunnel/description/_pdf/kitashinagawa-digging.pdf

参考：小野路工区における事象について

2024 年 10 月に町田市内のルート沿線の地表面において、湧水、気泡が発生する事象を確認した。当該事象に係る概要や原因・対策について、詳細は以下に掲載している。

[資料はこちら]

＜オープンハウス型説明会の説明資料＞

小野路工区（2024 年 12 月 22 日、23 日開催）におけるオープンハウス型説明会で用いた資料は、東海旅客鉄道株式会社のホームページに掲載している。



小野路工区

https://company.jr-central.co.jp/chuoshinkansen/urban_shield-tunnel/description/_pdf/onoji-open.pdf

（リンク先で当該事象の説明資料（P11～P16）が確認できます）

本書で利用した地図は、注記があるものを除き、国土地理院発行の数値地図50000
（地図画像）を加工して作成した。

本書は、再生紙を使用している。